

第二 農工其ノ他ノ營業及住居ニ供スル土地ハ三十年以内

第三 土地森林ノ使用權ハ十五年以内

第四 右ニ掲ケサル物件ハ三年以内

第八條 官有財産ノ貸付期限中政府ニ於テ之ヲ國ノ使用ニ供スルノ必要アルトキハ貸付ノ契約ヲ解キ之ヲ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ借受人ハ其ノ直接ニ受ケタル損失ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第九條 官有財産ノ借受人ニシテ主管大臣ノ許可ヲ得スシテ其ノ財産ノ原形ヲ變シ若ハ故意怠慢ニ由リ之ヲ荒廢ニ歸シ又ハ毀損亡失シタルトキハ主管大臣ハ其ノ損失ヲ賠償セシムヘシ

第十條 官有財産ノ借受人ハ主管大臣ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ財産ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十一條 官有財産ヲ以テ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ルハ同一種類ノ財産ニシテ少クトモ評定價格相均キモノニ限ル

森林、原野、田畑、ハ同一種類ノ財産ト見做スコトヲ得

營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物ハ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十二條 府縣郡市町村公共ノ道路、公園、市場、河川並木敷、堤塘、溝渠等ノ用ニ供スル爲官有ノ土地森林ヲ必要トスルトキハ主管大臣ニ於テ之ヲ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得

第十三條 府縣郡市町村ニ於テ新ニ道路、公園、市場、河川並木敷、堤塘、溝渠等ヲ開設シ爲ニ不用ニ歸シタル官有ノ舊同種類ノ土地ハ内務大臣ニ於テ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得但シ官林内若ハ官廳使用地内ニ包含セルモノ又ハ他ノ官有財産保護上難キモノハ此ノ限ニアラス

第十四條 官有財産ヲ賣拂貸付者ハ交換スル場合ニ於テ其ノ財産ヲ管理シ若ハ其ノ取扱ヲ爲ス官吏ハ之ヲ買受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十五條 此ノ規則施行ノ前ニ官有財産ノ賣拂若ハ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約ノ滿期マテ總テ舊契約ニ依ルヘシ

貸付ノ期限ナキモノハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ於テ此ノ規則ニ依リ更ニ契約ヲ爲スヘシ

第十六條 各省大臣ハ每十年其ノ年三月三十一日ニ現在スル所管官有財産ノ目錄ヲ調製シ其ノ年開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル所管官有財産ノ増減異動報告書ヲ調製シ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 第十六條ノ目錄及第十七條ノ報告書ハ其事由ニ依テ區別シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 買入ニ係ルモノハ其ノ代價

第二 賣拂ニ係ルモノハ各廳ニ於テ定メタル最低賣價、實際ノ賣拂代價及目錄價格アルモノハ其ノ價格

第三 讓與交換又ハ亡失毀損等ニ係ルモノハ其ノ目錄價格

第四 交換ニ係ルモノハ其ノ交換ニ由テ得タル財産

第五 買入又ハ賣拂ノ契約ニ特別ノ條件アルモノハ其ノ條件

第十九條 此ノ規則第十六條ニ掲ケタル官有財産ノ目錄ニシテ第一回ノモノハ明治二十四年三月三十一日ノ現在高ヲ以テ同年六月三十日マテニ之ヲ調製スヘシ但シ調査未済ノ官有財産ハ調査ヲ了ルマテ其ノ概算ヲ目錄ニ掲クヘシ



第二十條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

○官有地取扱規則 明治二十三年十一月二十四日

朕官有地取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有地取扱規則

- 第一條 官有地ノ賣買讓與交換及貸付ハ内務大臣之ヲ處理ス
- 第二條 官有地ニ關スル願書ノ指令契約ノ締結登記ノ請求收入ノ徵收及收納並訴訟ハ内務大臣地方長官ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ
- 第三條 各廳ニ於テ官有地ヲ使用セントスルトキハ内務大臣ニ請求スヘシ
- 第四條 各廳ノ使用地不用ニ歸シタルトキハ内務大臣ニ還付スヘシ
- 第五條 甲乙兩廳ノ間ニ於テ官有地ノ使用ヲ移サントスルトキハ内務大臣其手續ヲ爲スヘシ
- 第六條 各廳ノ所用ニ供スル爲メ民有地ヲ寄付セントスルモノアルトキハ内務大臣受納ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第七條 官有地ヲ開墾セントコトヲ請フモノアルトキハ無料ニテ之ヲ貸付スヘシ但開墾成功ノ後事業者ニ於テ該地ヲ拂下ケントスルトキハ豫メ契約ニ依テ其代價ヲ定メ置クヘシ
- 第八條 官有地ト民有地ノ交換ハ兩地ノ坪數及價格相均シキモノニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
- 第九條 借地人ハ特ニ許可ヲ受クルニアラサレハ其地ヲ當初借用ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス

借地人前項ノ規定ニ違反スルトキハ地方長官ハ其使用ヨリ生シタル損害ヲ賠償セシメ返地ヲ命スルコトヲ得

- 第十條 借地人官ノ許可ヲ得テ土地ノ原形ヲ變シタルトキハ借地満期ニ至リ自費ヲ以テ之ヲ原形ニ復シ返納スヘシ但特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス
- 第十一條 官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其公用ヲ廢シタルニアラサレハ賣拂讓與交換又ハ貸付スルコトヲ得ス但公衆ノ妨害トナラサル限リハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニテ特ニ其使用ヲ許スコトヲ得
- 第十二條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テ民有地ト爲サンコトヲ請フモノアルトキハ公衆ノ妨害トナラサル部分ニ限リ之ヲ許スコトヲ得
- 第十三條 官ニ屬スル私有水面ノ賣拂讓與交換貸付及使用ハ本令ニ定ムル土地ノ規定ニ準據スヘシ
- 第十四條 隨意ノ契約ニ依リ官ニ屬スル土地又ハ水面賣拂讓與交換又ハ有料貸付有料使用ヲ爲サントスルトキハ地方長官其評價ヲ爲サシムヘシ
- 既ニ貸付シ又ハ使用セシメタル土地又ハ水面ヲ引續キ貸付シ又ハ使用セシムル場合ニ於テモ亦前項ヲ準用ス
- 第十五條 官有地ニ關スル事項ニシテ本令ニ規定セサルモノハ官有財産管理規則ニ依ル
- 第十六條 本令ハ勅令ヲ以テ特ニ規定シタルモノ及官有森林原野ニ適用セス
- 第十七條 官有地臺帳ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十八條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス



三十年訓令第  
三十二號ヲ以  
テ第三號中道  
加第五號ヲ加  
第十號ヲ修正  
ス

○官有土地水面ニ關スル委任ノ件 明治二十四年七月二十四日 内務省訓令第十四號

北海道廳 府縣

- 第一條 官有土地水面ニ關スル處分ノ内左ニ掲クルモノハ之ヲ委任ス但處分ノ後内務報告例ニ依リ報告スヘシ
- 一 官有堤塘道路竝木敷港灣河川溝渠溜池用惡水路等ノ新設修繕ニ際シ官有土地水面ヲ其敷地ニ充用スル事
  - 二 北海道ニ於テ警察署郡區役所戸長役場及官立學校病院等ノ敷地ニ官有土地ヲ充用スル事
  - 三 直接公用ニ供シタル官有土地水面ヲ相當ノ料金ヲ徵シ季節ヲ限リ一時ノ使用ヲ許シ竝從前既ニ許可シタルモノ、繼續使用及用人ノ變更ヲ許ス事
  - 四 明治二十三年七月勅令第三百三十五號官有地特別處分規則第三條ニ依リ官有土地水面ノ使用ヲ許ス事
  - 五 溜池、用惡水路、溝渠竝流域一府縣内ニ止ル河川ノ水面及其敷地當省直轄河川ノ水面及其敷地ヲ除クノ使用ヲ許ス事(三十一年二月訓令第四百號ヲ以テ改正)
  - 六 直接公用ニ供セサル五町歩以下ノ官有土地水面ヲ相當ノ料金ヲ徵シ貸付スル事
  - 七 府縣ニ於テ五町歩以下ノ官有土地ヲ明治二十三年十一月勅令第二百七十六號官有地取扱規則第七條ニ依リ貸付スル事
  - 八 直接公用ニ供セサル官有土地水面市街ニ在テハ百五十坪以下村落ニ在テハ三段歩以下ノ箇所ヲ賣拂フ事

九 府縣ニ於テ豫約代價ヲ以テ開墾既成ノ土地ヲ賣拂フ事

- 十 明治二十三年七月勅令第三百三十五號官有地特別處分規則第三條並同年十一月勅令第二百七十五號官有財產管理規則第十二條及第十三條ニ依リ一段歩以下ノ官有土地水面ヲ讓與スル事
- 十一 明治二十三年十月當省訓令第三十六號ニ依リ直接公用ニ供シタル官有水面一町歩以下ヲ埋立ツル事竝埋立許可ノ後其著手期限ノ變更ヲ許可スル事及埋立成功シタル土地ヲ處分スル事
- 十二 官有土地水面ニ屬スル土石砂利竝水陸ノ生産物ヲ賣拂フ事
- 十三 官有土地ニ屬スル枯損障害又ハ測量ニ支障アル竹木ヲ伐採シ及處分スル事竝盜伐誤伐ニ係ル竹木處分ノ事
- 十四 天災事變ニ際シ公益ノ爲メ必要已ムコトヲ得サル場合ニ於テ官有土地ニ屬スル木竹ヲ伐採シ及處分スル事
- 十五 各廳ノ所有ニ供スルモノヲ除ク外民有土地ノ寄付ヲ受納シ竝民有土地ノ上地ヲ許可スル事
- 十六 前各項ノ處分其他官廳ノ處分又ハ形質ノ變更所有ノ廢改等ニ基キ官民有土地水面ノ種目ヲ變換スル事但皇宮地及各廳ノ所用地ニ關スルトキハ此限ニアラス
- 第二條 前條ノ官有土地水面ニシテ當省直轄又ハ流域兩管轄以上ニ跨ル河川及國道港灣河口ニ關係アルモノハ先ツ土木監督署ニ協議ノ上處分スヘシ(二十七年訓令第三號ヲ以テ改正)  
(同上ヲ以テ第二項削除)
- 第三條 明治八年五月當省達乙第六十五號第一項及第二項並同十二年六月當省達乙第二十九號同十七年二月當省達乙第十號ハ之ヲ廢止ス

官有土地水面ニ關スル委任ノ件



○地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路竝木敷ノ件 明治二十四年五月二十二日 內務省訓第四六二號

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路竝木敷ノ使用ハ自今其費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ於テ處分スヘシ但市町村ノ處分ニ係ルモノハ府縣廳ノ認可ヲ請ハシムヘシ  
前項堤塘道路竝木敷使用料及堤塘道路用悪水路土居敷等ニ屬スル竹木其他ノ收益ハ其費用ヲ負擔スル府縣及市町村ノ收入ニ屬スヘシ  
費用ノ主擔定ラサルカ又年々負擔ヲ異ニスル堤塘道路竝木敷用悪水路土居敷等ニ關スル事項ハ府縣廳ニ於テ處分シ其收益ニ屬スルモノハ府縣廳ニ於テ之ヲ徵收シ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ配付スヘシ  
地盤ノ市町村有ニ屬スル堤塘ノ使用及堤塘ヨリ生スル收益等ハ市町村ノ管理ニ歸セシムヘシ

○直轄又ハ流域兩管轄以上ニ跨ル河川ノ堤塘及國道使用ニ關スル件

明治二十五年五月十日 訓第三五四號

明治二十四年五月二十二日訓令第四六二號ヲ以テ堤塘道路竝木敷使用處分方訓令ニ及ヒタル處當省直轄又ハ流域兩管轄以上ニ跨ル河川ノ堤塘及國道使用ニ關シテハ先ツ土木監督署へ協議ノ上處分スヘシ(二十七年一月訓第三十八號ヲ以テ改正)  
但其處分シタル事項ハ一ヶ年取纏メ翌年二月末日迄ニ報告スヘシ(同上訓令ヲ以テ追加)

○官有地社寺境内ヲ他人ニ使用セシムルトキ取扱方

明治二十四年五月二十二日 訓第四六三號

官有地社寺境内ヲ他人ニ使用セシムルトキハ其社寺ヨリ管轄廳ノ認可ヲ受ケシムヘシ但祭典等ニ際シ一時使用スルハ其社寺限承諾スルコトヲ得  
官有地社寺境内ノ竹木ヲ伐採シ及枯損木障碍木處分ニ關スルモノモ前項ニ依ルヘシ  
前二項ニ依リ社寺ヨリ認可ヲ請フトキハ府縣知事ハ從前ノ例ニ準シ其社寺竝風致ヲ保存スルコトニ注意監督スヘシ  
社寺境内ノ使用料竝竹木其他ノ收益ハ其社寺ノ收入ニ屬スヘシ但收入財産ハ明治十四年當省乙第二十號達ニ依リ整理セシムヘシ  
前各項ニ關スル事項ハ渾テ從前ノ例規ニ準據取扱候様嚴ニ注意スヘシ

○官有地特別處分規則 明治二十三年七月二十一日 勅令第三百三十五號

朕官有地特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有地特別處分規則

第一條 內務大臣ハ左ノ場合ニ限リ官有地ヲ競争ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣渡スコトヲ得  
一 直接公用ニ供スル爲又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲府縣郡市町村及公共組合又ハ其他ノ起業者

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路竝木敷ノ件 直轄又ハ流域兩管轄以上ニ跨ル河川ノ堤塘及國道使用ニ關スル件 官有地社寺境内ヲ他人ニ使用セシムルトキ取扱方 官有地特別處分規則



ニ官有地ヲ貸渡又ハ賣渡ストキ

二 不用ニ屬スル官有地一箇所ノ坪數百五十坪ニ滿タス其評定價格二百圓以内ノモノヲ賣渡又ハ其貸渡料一箇年五圓以内ニシテ貸渡期限五箇年以内ノモノヲ貸渡ストキ但望人二名以上アルトキハ此限ニアラス

三 鑛山ニ於ケル鑛物運搬道路、冷温泉場ニ於ケル汲泉場又ハ導泉敷地ノ如キ官許ヲ與ヘタル主タル事業ニ直接附隨シ必要缺クヘカラスト認メタル官有地ヲ其事業者ニ貸渡又ハ賣渡ストキ

四 會計法施行以前土地ノ形質ヲ變更シ又ハ建物ヲ建設スルカ爲メ貸渡シタル官有地ヲ其借地人ニ賣渡シ又ハ引續キ貸渡ストキ

第二條 直接公用ニ供スル官有地ヲ特ニ府縣郡市町村又ハ公共組合ノ直接公用ニ供スルトキハ借地料ヲ徵收セサルモノトス

第三條 府縣郡市町村又ハ公共組合ニシテ直接公用ニ供スル官有地ノ修理保存費ヲ負擔スルモノハ其直接公用ヲ廢スルトキ官有財産管理上必要ノモノヲ除ク外之ヲ其費用負擔者ニ無代下付ス府縣郡市町村又ハ公共組合ニ於テ其土地ヲ賣拂ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス

○官有地特別處分規則ニ依リ官有地賣渡及貸渡ニ係ル件

明治二十三年十月二十日  
内務省訓令第三十七號

北海道廳 府縣

本年勅令第三百二十五號官有地特別處分規則ニ依リ官有地ヲ賣渡シ又ハ貸渡サントスルトキハ其應ニ於テ便宜評價委員ヲ設ケ其地價又ハ貸渡料ヲ評定セシム可シ其繼續シテ貸渡ス場合ニ於テモ亦同シ但最前貸渡ノ際豫メ地價ヲ定メ開墾成功ノ上賣渡スコトヲ許シタルモノハ此限ニアラス

○國有林野法 明治三十二年三月二十二日  
法律第八十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國有林野法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國有林野法

第一條 此ノ法律ニ於テ國有林野ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル森林原野ヲ謂フ

第二條 國有林野ニシテ國土保安又ハ國有林野ノ經營上國有トシテ保存ノ必要アルモノハ賣拂讓與又ハ交換スルコトヲ得ス但シ公用又ハ公益事業ノ爲メ必要アルトキ及第十五條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 前條ノ國有林野ト雖他ノ官有地ニ編入スルノ必要アルトキハ之カ組換ヲ爲スコトヲ得

組換ヲ爲シタル土地ニシテ其ノ使用ヲ廢シタル場合ニ於テ林野ニ復スヘキ必要アルモノハ更ニ國有林野ニ編入ス

社寺上地ニシテ其境内ニ必要ナル風致林野ハ區域ヲ畫シテ社寺現境内ニ編入スルコトヲ得

第四條 國有林野ノ境界査定ハ當該官廳ニ於テ豫メ期日ヲ定メ隣接地所有者ニ通告シテ其ノ立會ヲ求

官有地特別處分規則ニ依リ官有地賣渡及貸渡ニ係ル件 國有林野法



メ施行スヘシ

隣接地所有者豫定期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ當該官廳ハ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第五條 國有林野ノ境界査定ヲ終ヘタルトキハ當該官廳ハ直ニ鄰接地所有者ニ通告スヘシ

第六條 國有林野ノ境界査定又ハ測量ノ爲目標ヲ設置シ若ハ支障木竹ヲ代採スルノ必要アルトキハ其ノ土地若ハ木竹ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ相當ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

第七條 鄰接地所有者境界査定ニ不服アルトキハ第五條ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ賣拂フコトヲ得

一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

二 市町村又ハ公立小學校ノ基本財産ニ充ツルトキ

三 社寺土地ノ森林ヲ其ノ社寺ニ賣拂フトキ

四 命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル林野ヲ其緣故アル者ニ賣拂フトキ

五 民有地、道路、河川等ニ介在スル十町歩以内ノ林野ヲ賣拂フトキ

六 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シアル林野ヲ其借地人ニ賣拂フトキ

七 此ノ法律施行以前ニ開墾、收畜又ハ植樹ノ爲貸付シタル林野又ハ第九條ノ開墾地ヲ其ノ事業ヲ成功シタル者ニ賣拂フトキ

第九條 國有林野ハ開墾ノ成功ヲ條件トシ豫メ其ノ價格及成功期限ヲ定メ隨意契約ヲ以テ賣拂ノ豫約ヲ爲スコトヲ得

第十條 國有林野產物ノ隨意契約ニ依ル賣拂ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ貸付シ又ハ使用セシムルコトヲ得

一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

二 收畜又ハ植樹ノ爲必要アルトキ

三 牛馬放牧ノ爲使用セシムルトキ

四 第九條ニ依ル開墾者ノ爲ニスルトキ

五 一箇年貸付料三百圓ヲ超エサルトキ

第十二條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ相當ノ貸付料又ハ牛馬放牧料ヲ徴收スヘシ但前條第一號及第四號ノ場合ニ於テハ貸付料ヲ免スルコトヲ得

第十三條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一 植樹ノ場合ニ於テハ八十年

二 家屋、倉庫其ノ他ノ建造物ノ場合ニ於テハ三十年

三 其ノ他ノ場合ニ於テハ十五年

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第十四條 國土保安又ハ國有林野ノ經營上必要ナル場合ニ限り國有林野又ハ立木竹ト他ノ同價格以上ノ土地、森林、原野又ハ立木竹ト交換スルコトヲ得

第十五條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り讓與スルコトヲ得

一 段別一町歩以下ニシテ公立ノ學校又ハ病院ノ用地ニ供スルトキ

二 府縣郡市町村及其ノ他ノ公共團體ニ於テ道路、河川、港灣、水道、堤塘、溝渠、溜池、火葬場、墓地、公園等公共ノ用ニ供スルトキ



第十六條 用途ヲ指定シテ讓與シタル國有林野ヲ指定ノ期間内ニ其用途ニ使用セサルトキ又ハ一旦其ノ用途ニ使用シタル後當該官廳ニ於テ指定シタル期間其ノ使用ヲ繼續セサルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

前項ニ依リ林野ヲ返還セシメタル場合ニ於テハ其ノ林野ノ上ニ設定シタル第三者ノ權利ハ消滅ス第十七條 社寺上地ノ森林ハ其ノ社寺ニ保管セシムルコトヲ得

社寺ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ社寺林地ヲ使用シ又ハ主副產物ヲ採取スルコトヲ得第十八條 國有林野ニシテ保護上必要ナル場合ニ於テハ市町村又ハ市町村内ノ一部ニ其ノ保護ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ受託者ニ林野產物ヲ讓與スルコトヲ得委託ノ方法及受託者ニ讓與スヘキ林野產物ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 國ハ造林者ト其ノ收益ヲ分收スルノ契約ヲ以テ國有林野ニ部分林ヲ設クルコトヲ得法令、慣行又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ國有林ニ就キ收益ノ分收ヲ爲スモノハ前項ノ部分林ト看做ス

第二十條 部分林ノ樹木ハ國ト造林者トノ共有トシ其持分ハ收益分收ノ都合ニ均シキモノトス部分林設定前ヨリ存在スル樹木ハ國ノ所有トス

第二十一條 部分林ノ存續期間ハ八十年ヲ超ユルコトヲ得前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第二十二條 民法第二百五十六條ノ規定ハ部分林ノ樹木ニ適用セス

第二十三條 第十八條第二項及第三項ノ規定ハ部分林ノ造林者ニ之ヲ準用ス

第二十四條 主務大臣ハ十箇年毎ニ其ノ年三月三十一日ニ現在スル國有林野現在表ヲ其ノ年開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ

第二十五條 主務大臣ハ每會計年度間ニ於ケル國有林野ノ増減異動ヲ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ

第二十六條 此ノ法律ハ北海道及沖繩縣ニ施行セス

第二十七條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

附則

○國有林野法施行規則 明治三十二年八月三日 農商務省令第二十五號

國有林野法施行規則左ノ通定ム

第一章 社寺境内編入

第一條 社寺國有林野法第三條第三項ノ規定ニ依リ境内編入ヲ出願セントスルトキハ願書ニ其ノ事由ヲ詳記シ之ニ實測圖ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ内務農商務兩大臣ニ差出スヘシ

第二條 地方長官願書ヲ受理シタルトキハ大林區署長ト協議シタル後實地調査ヲ爲シ其ノ意見書ヲ願書ニ添附スヘシ

第二章 境界査定

第三條 國有林野ノ境界査定ヲ施行セントスルトキハ境界査定官吏ハ期日ヲ定メ少ナクモ其ノ期日ヨリ十五日前ニ査定ノ日時及場所ヲ鄰接地所有者ニ通告スヘシ但シ鄰接地所有者何時ニテモ立會ヲ爲



スヘキコトヲ承諾シタルトキハ此ノ限ニアラス

第四條 鄰接地所有者者期日ニ立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ期日前境界査定官吏ニ其ノ事由ヲ申立テ延期ヲ出願スルコトヲ得

第五條 境界査定ヲ終ハリタルトキハ大林區署長又ハ林野整理支局長ハ直ニ其ノ旨ヲ鄰接地所有者ニ通告シ且所轄小林區署ニ査定圖ノ謄本ヲ送付スヘシ

鄰接地所有者ハ前項ノ謄本ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第六條 通告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

鄰接地所有者通告書ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ受領ノ日時ヲ記載シタル受取證ヲ差出スヘシ郵便ヲ以テ通告書ノ送付ヲ爲ストキハ配達證明郵便ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三章 緣故者

第七條

國林林野法第八條第四號ノ緣故者トハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

- 一 部分林ニ在リテハ其分收ノ權利ヲ有スル者
- 二 官地民木ノ森林ニ在リテハ其ノ樹木ノ所有者
- 三 府縣設置以前主產物ノ採收ヲ爲シタル慣行アリタル林野ニ在リテハ其ノ採收ヲ爲シタル者
- 四 府縣設置以前入會ノ慣行アリタル林野ニ在リテハ其ノ入會ヲ爲シタル市町村又ハ市町村内ノ一部城址ニ在リテハ其ノ舊藩主
- 五 神祠、佛堂墓碑其ノ他ノ遺跡ノ存スル林野ニ在リテハ其遺跡ニ緣故アル者
- 六 古記、社傳又ハ歴史ノ證スル所ニ依リ社寺ニ緣故アル林野ニ在リテハ其ノ社寺
- 七 第四章 賣拂豫約

第八條

國有林野法第九條ノ規定ニ依リ國有林野ノ賣拂豫約ヲ出願セントスル者ハ願書ニ事業方法書、收支豫算書及實測圖ヲ添附シテ之ヲ林野整理支局長ニ差出スヘシ

林野ニ立木竹アルトキハ其種類及材積又ハ數量ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第九條 事業方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 實測面積

二 開墾ノ方法及順序

三 開墾豫定圖

四 開墾着手ノ時期

五 毎年開墾スヘキ豫定面積

六 成功期限

第十條 賣拂豫約ノ目的タル林野ノ面積ハ四百町歩ヲ超ユルコトヲ得ス但シ林野ノ形狀又ハ開墾ノ計畫ニ依リ此ノ制限ニ從ヒ難キトキハ此ノ限ニアラス

第十一條 成功期限ハ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 第九條第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シタル願書ヲ林野整理支局長ニ差出スヘシ

第十三條 成功期限ノ延長ヲ許可シタルトキト雖通算シテ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 開墾者賣拂豫約ノ目的タル林野ノ引渡ヲ受ケタルトキハ請書ヲ差出スヘシ

第十五條 開墾者ハ特別ノ契約アル場合ヲ除ク外賣拂豫約ノ當時其ノ林野ニ存スル產物ヲ處分シ又ハ



使用スルコトヲ得ス

第十六條 開墾者ハ前年度ニ於ケル開墾ノ成績ヲ次年度ノ初日ヨリ一箇月以内ニ林野整理支局長ニ報告スヘシ

第十七條 林野整理支局長必要ト認ムルトキハ開墾事業ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第十八條 開墾者ハ林野整理支局長ノ許可ヲ得ルニアラサルハ其ノ林野ヲ他人ニ貸付シ又ハ其ノ權利ヲ處分スルコトヲ得ス

第十九條 相續ニ因リテ開墾者ノ權利ヲ取得シタル者ハ戶籍史ノ證明書ヲ添ヘ其ノ旨ヲ林野整理支局長ニ届出ツヘシ

第二十條 賣拂豫約ノ目的タル林野ヲ公用又ハ公益事業ニ供スル必要アルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ開墾者ハ直接ノ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 開墾者本則若ハ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキ又ハ開墾事業成功ノ見込ナシト認ムルトキハ農商務大臣ハ賣拂豫約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ損害ヲ賠償セス

第五章 貸付及使用

第二十二條 國有林野法第十一條ノ規定ニ依リ國有林野ノ貸付ヲ出願セントスル者ハ願書ニ實測圖ヲ添附シ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

林野ニ立木竹アルトキハ其種類及材積又ハ數量ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第二十三條 貸付料ハ年期貸ニ在リテハ其ノ年額、一時貸ニ在リテハ其ノ全額金十錢以上トス

第二十四條 貸付ノ許可アリタルトキハ契約擔任官吏ハ借受人ト共ニ貸借契約書ヲ作り雙方署名捺印シテ各一通ヲ領收シ置クヘシ

第二十五條

契約書其ノ他契約ニ關スル書類ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキハ付箋ニ其ノ旨ヲ記載シテ雙方契印スヘシ

第二十六條

借受人其ノ林野ヲ轉貸セントスルトキハ願書ヲ作り連署連印シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第二十七條

借受人契約期間満了ノ時林野ヲ原狀ニ復スルコト能ハサルトキ又ハ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコト能ハサルトキハ大林區署長ハ其ノ請求ニ因リ貸付料ヲ定メテ相當ノ猶豫ヲ與フルコトヲ得

第二十八條

借受人林野ヲ原狀ニ復シ又ハ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコトヲ怠リタルトキハ大林區署長之ヲ施行シ借受人ヲシテ其ノ費用ヲ辨償セシムヘシ

第二十九條

借受人本則又ハ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキハ大林區署長ハ林野ヲ返還セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ貸付料ハ之ヲ還付セス

第三十條

借受人ノ家族、傭人又ハ代理人本則又ハ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキハ借受人其ノ責ニ任ス

第三十一條

第十三條乃至第十五條第十九條及第二十條ノ規定ハ林野ノ貸付ニ之ヲ準用ス

第三十二條

林野又ハ其ノ木竹ニ異狀ヲ生シタルトキハ借受人ハ直ニ其ノ旨ヲ大林區署長ニ届出ツヘシ

第三十三條

國有林野法第十一條ノ規定ニ依リ牛馬放牧ノ爲國有林野ノ使用ヲ出願セントスル者ハ願書ニ見取圖ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第三十四條

大林區署長必要ト認ムルトキハ使用ノ區域ヲ制限スルコトヲ得



第三十五條 第十五條、第十九條、第二十條、第二十四條乃至第二十六條、第二十九條及第三十條ノ規定ハ林野ノ使用ニ之ヲ準用ス

第六章 交換

第三十六條 國有林野法第十四條ノ規定ニ依リ交換ヲ爲サントスルトキハ林野整理支局長ハ相手方ト立會ヲ以テ左ノ事項ヲ調査スヘシ

- 一 交換地ノ實測面積及價格
- 二 產物ノ種類、材積又ハ數量及價格
- 三 第三者ノ權利ノ有無

第三十七條 林野整理支局長交換ヲ行ハントスルトキハ意見書ヲ作り之ニ調査書、實測圖及位置圖ヲ添付シテ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三十八條 第二十四條ノ規定ハ交換ニ之ヲ準用ス

第七章 讓與

第三十九條 國有林野法第十五條ノ規定ニ依リ國有林野ノ讓與ヲ出願セントスル者ハ願書ニ其ノ事由ヲ詳記シ之ニ實測圖ヲ添附シテ大林區署長ニ差出スヘシ

第四十條 讓與セントスル林野ノ使用ノ方法、始期又ハ繼續期間ヲ指定スル必要アルトキハ之ヲ讓與ノ許可書ニ記載スヘシ

第八章 保管

第四十一條 社寺國有林野法第十七條ノ規定ニ依リ其ノ上地ノ森林ノ保管ヲ出願セントスルトキハ願書ニ實測圖及保護方法書ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第四十二條 社寺其ノ保管林ニ看守人ヲ置キタルトキ又ハ看守人ヲ變更シタルトキハ其ノ氏名、住所及年齡ヲ大林區署長ニ届出ツヘシ

第四十三條 左ノ場合ニ於テハ社寺ハ直ニ大林區署長ニ届出ツヘシ

- 一 保管林又ハ其ノ木竹ニ異狀ヲ生シタルトキ
- 二 採取スヘキ主產物ノ搬出ヲ終ハリタルトキ
- 三 保管林ノ植樹、補植、手入其ノ他造林ニ必要ナル行爲ヲ爲シタルトキ
- 四 第四十四條 保管林ノ主產物ヲ採取スル場合ニ於テハ大林區署長ハ社寺ノ採取スヘキ產物、其ノ伐採ノ方法及搬出期間ヲ指定スヘシ

第四十五條 第十三條及第十四條ノ規定ハ林野ノ保管ニ之ヲ準用ス

第九章 委託

第四十六條 國有林野法第十八條ノ規定ニ依リ國有林野ノ委託ヲ受ケントスル者ハ願書ニ見取圖、保護方法書及規約書ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第四十七條 規約書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 林野保護ニ關スル負擔方法
- 二 產物ノ採取及分配ノ方法
- 三 違約者、犯則者又ハ犯罪者ニ對スル處分方法
- 四 其ノ他必要ナル事項

第四十八條 大林區署長必要ト認ムルトキハ產物ノ採取人ニ入林鑑札ヲ交付スヘシ

第四十九條 受託者其ノ林野ノ管理者ヲ選定シタルトキハ其ノ氏名、住所ヲ大林區署長ニ届出ツヘシ



第五十條 受託者ニ讓與シタル產物ノ材積又ハ數量豫定額ニ達セサルトキト雖受託者ハ其ノ補足ヲ請求スルコトヲ得ス

第五十一條 第十三條及第四十二條乃至第四十四條ノ規定ハ林野ノ委託ニ之ヲ準用ス

第十章 部分林

第五十二條 國有林野法第十九條ノ規定ニ依リ部分林ノ設定ヲ出願セントスル者ハ願書ニ實測圖、造林豫定圖及造林設計書ヲ添付シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第五十三條 造林者其ノ權利ヲ處分セントスルトキハ當事者願書ニ連署連印シ契約書ヲ添付シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第五十四條 造林者左ノ事業ヲ爲サントスルトキハ其ノ方法ヲ記載シタル願書ヲ大林區署長ニ差出スヘシ  
一 手入間伐  
二 防火線又ハ道路ノ廢置又ハ修繕

第五十五條 造林者規約書ヲ作リタルトキハ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

大林區署長必要ト認ムルトキハ造林者ヲシテ規約書ヲ作ラシムルコトヲ得

第五十六條 材積ヲ以テ分收ヲ爲ストキハ大林區署長ハ造林者ノ立會ヲ以テ其ノ分收スヘキ樹木ヲ指定スヘシ

第五十七條 第十四條、第十九條、第二十四條、第二十五條、第四十二條、第四十三條及第四十九條ノ規定ハ部分林ニ之ヲ準用ス

第五十八條 大林區署ニ部分林臺帳ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ登錄ス

一 部分林ノ所在、字及面積

二 造林者ノ氏名、住所

三 部分林設定ノ年月日、其ノ存續期間及伐期

四 收益分收ノ割合

五 樹木ノ種類及數

六 造林者ノ權利ノ處分及其ノ事由

七 第一號乃至第六號ニ掲ケタル事項ノ變更又ハ消滅及其ノ事由

第五十九條 部分林設定契約ノ解除ヲ爲シタルトキ又ハ契約カ消滅シタルトキハ大林區署長ハ登錄ヲ抹消スヘシ

第六十條 左ノ場合ニ於テハ造林者ハ直ニ大林區署長ニ届出ツヘシ

一 造林者其ノ氏名、住所ヲ變更シタルトキ

二 造林者其ノ權利ヲ處分シタル事由カ消滅シタルトキ

三 部分林ノ樹木ノ數ニ變更ヲ生シタルトキ

第六十一條 何人ト雖部分林一箇所ニ付手数料金拾錢ヲ納付シテ部分林臺帳ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十一章 雜則

第六十二條 本則ノ規定ニ依リ差出スヘキ書類ニシテ書式ノ定アルモノハ其ノ書式ニ依リテ之ヲ作り差出人署名捺印スヘシ



第六十三條 神社ノ出願ニ付テハ神職及氏子(氏子ナキトキハ信徒)總代願書ニ連署連印スヘシ  
寺院ノ出願ニ付テハ住職及檀徒(檀徒ナキトキハ信徒)總代願書ニ連署連印シ之ニ管長ノ添書ヲ附ス  
ヘシ

佛堂ノ出願ニ付テハ受持僧侶及信徒總代願書ニ連署連印スヘシ

第六十四條 市町村ノ出願ニ付テハ願書ニ市町村會ノ決議書ノ添本ヲ添附スヘシ  
前項ノ規定ハ市町村以外ノ公共團體ノ出願ニ之ヲ準用ス

第六十五條 公用又ハ公益事業ノ爲出願スル場合ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ニ關スルトキ  
ハ願書ニ其ノ許可書ノ添本ヲ添附スヘシ

第六十六條 出願人數人アルトキハ總代ヲ選定スヘシ  
願書ニハ總代署名捺印シ之ニ委任狀ヲ添付スヘシ

第六十七條 本則ノ規定ニ依リ出願セントスル者國有林野ヲ測量スル必要アルトキハ其ノ事由ヲ申立  
テ大林區署長又ハ林野整理支局長ノ許可ヲ受クヘシ

附則

第六十八條 本則施行前ニ生シタル事項ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

本則施行前ヨリ存スル部分林ニ付テハ造林者及利害關係人ハ本則施行ノ日ヨリ一年以内ニ第五十八  
條ニ掲ケタル事項ノ登錄ヲ大林區署長ニ申請スヘシ

書式略ス

○國有林野部分林規則

明治三十二年八月二日  
勅令第三百六十二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ國有林野部分林規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國有林野部分林規則

第一條 國有林野ニ部分林ヲ設定スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 部分林ノ收益分收ノ都合ハ地代及造林費ヲ參酌シテ農商務大臣之ヲ定ム  
造林者ノ分收割合ハ十分ノ八ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 造林者ハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ權利ヲ處分スルコトヲ得ス

第四條 造林者ハ部分林ノ植樹、補植、手入其ノ他造林ニ必要ナル行爲ヲ爲スヘシ

第五條 造林者ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ植樹ヲ終ルヘシ  
大林區署長ハ已ムヲ得サル事由アリト認ムル場合ニ限り造林者ノ請求ニ依リ二年以内ニ於テ植樹期  
間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

第六條 造林者植樹準備又ハ手入ノ爲部分林ニ耕作ヲ爲サントスルトキハ大林區署長ノ許可ヲ受クヘ  
シ

第七條 造林者ハ左ノ事項ニ關シ部分林ヲ保護スル義務ヲ負フ

- 一 火災ノ豫防及消防
- 二 盜伐、誤伐、冒認、侵墾其ノ他ノ加害行爲ノ豫防及防止
- 三 有害動物ノ豫防及驅除
- 四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存
- 五 稚樹ノ保育



六 大林區署長ノ命ニ依リ看守人ヲ配置スルコト

第八條 造林者ハ左ノ產物ヲ採取スルコトヲ得

- 一 下草、落葉及落枝
- 二 樹實及菌蕈ノ類
- 三 部分林設定後天然ニ生育シタル雜木
- 四 植樹後二十年以内ニ於テ手入ノ爲伐採スル樹木

第九條 部分林設定後天然ニ生育シタル樹木ニシテ雜木ニ非サルモノハ之ヲ部分林ノ樹木ト看做ス

第十條 根株ハ特別ノ契約アル場合ヲ除ク外國ノ所有トス

第十一條 部分林ノ收益ハ其ノ樹木ノ賣拂代金ヲ以テ分收ス但シ國ノ分收スヘキ樹木ヲ保存スル必要アルトキハ材積ヲ以テ分收ヲ爲スコトヲ得

第十二條 代金ヲ以テ分收スルトキハ樹木ノ賣拂ノ當該官廳之ヲ行フ

材積ヲ以テ分收スルトキハ造林者ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ其ノ分收樹木ノ搬出ヲ終ルヘシ

前項ノ搬出期間ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス

大林區署長ハ已ムヲ得サル事由アリト認ムル場合ニ於テハ二年以内ヲ限リ搬出期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ延長期間ニ對スル地代ヲ前納セシムヘシ

第十三條 造林者搬出期間内ニ分收樹木ノ搬出ヲ終ラサルトキハ其ノ搬出セサル樹木ハ國ノ所有ニ歸ス

第十四條 大林區署長ハ森林經濟上利益ナリト認ムル場合ニ限リ造林者ノ請求ニ因リ十年以内ニ於テ

部分林ノ存續期間又ハ伐期ヲ變更スルコトヲ得

第十五條 部分林ニ損害ヲ加ヘタル第三者ヨリ賠償トシテ得タル金額ハ分收部合ニ依リ之ヲ分收ス

第十六條 天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因リ契約無効ト爲リタル場合ニ於テハ現存ノ樹木ハ分收部合ニ依リ之ヲ分收ス已ムヲ得サル事由ニ因リ造林者契約ノ解除ヲ願出テ之ヲ許可シタル場合亦同シ

第十七條 造林者左ノ諸項ニ該當スルトキハ農商務大臣ハ部分林設定契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但シ造林者ノ責ニ歸スヘカラサル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 植樹期間ノ始期ヨリ一年ヲ經過スルモ植樹ニ著手セサルトキ
- 二 植樹期間内ニ植樹シタル面積カ總面積ノ二分ノ一ニ及ハサルトキ
- 三 植樹期間延長ノ許可ヲ得タル場合ニ於テ其ノ期間内ニ植樹ヲ終ラサルトキ
- 四 植樹ヲ終リタル後五年ヲ過クルモ成林ノ見込ナキトキ
- 五 造林者其ノ部分林ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ

第十八條 前條ノ規定ニ依リ部分林設定契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ部分林設定ノ日ニ遡リ地代ヲ徵收シ既植ノ樹木ハ國ノ所有ニ歸ス

第十九條 造林者部分林ヲ他ノ目的ニ使用シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス部分林ヲ他人ニ貸付シ又ハ使用セシメタルトキ亦同シ

附則

第二十條 明治十一年內務省甲第四號布達部分木仕付條例ハ之ヲ廢止ス

第二十一條 第二條ノ規定ハ國有林野法第十九條第二項ノ規定ニ依ル部分林ニハ之ヲ適用セス



第二十二條 國有林野法第十九條第二項ノ規定ニ依ル部分林ニシテ存續期間ノ定ナキモノ又ハ其ノ期間本令施行ノ日ヨリ起算シテ八十年ヲ超ユルモノニ付テハ其ノ部分林ノ存續期間及伐期ハ現存スル樹木ノ年齢ヲ參酌シテ農商務大臣之ヲ定ム

第二十三條 國有林野法第十九條第二項ノ規定ニ依ル部分林ニシテ天然ニ生育シタル雜木ノ分收ヲ目的トスルモノナルトキハ其ノ雜木ハ部分林ノ樹木ト看做ス

○國有林野產物ノ隨意契約ニ依ル賣拂ニ關スル件 明治三十二年八月二日 勅令第三百六十三號  
朕國有林野產物ノ隨意契約ニ依ル賣拂ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國有林野產物ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ賣拂フコトヲ得

- 一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ
- 二 非常ノ災害アリタル場合ニ於テ其ノ罹災者ニ建築營繕又ハ薪炭ノ材ヲ賣拂フトキ
- 三 從來ノ慣行ニ因リ薪炭材又ハ副產物ヲ地元人民ニ賣拂フトキ
- 四 委託林野ノ產物ヲ受託者ニ賣拂フトキ
- 五 部分林ノ產物ヲ造林者ニ賣拂フトキ
- 六 社寺ノ建築營繕ノ材料トシテ社寺土地ノ森林ノ產物ヲ其ノ社寺ニ賣拂フトキ
- 七 國有林野ノ事業請負人又ハ國有林野ノ產物買受人ニ其ノ事業ニ必要ナル產物ヲ賣拂フトキ
- 八 採取ノ季節アル副產物ヲ賣拂フトキ

- 九 鑛業ニ必要ナル產物ヲ鑛業人ニ賣拂フトキ
- 十 國有林野法第三條、第八條、第十一條及第十五條ニ依リ組換、賣拂、貸付又ハ讓與ヲ爲シタル林野ノ產物ヲ其ノ土地ノ管理者、買受人借受人又ハ讓受人ニ賣拂フトキ
- 十一 民地官木林ノ產物ヲ其ノ土地ノ所有者ニ賣拂フトキ
- 十二 建築其ノ他ノ用ニ供ス可キ土石ヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ其ノ發見人ニ賣拂フトキ
- 十三 見積價格三百圓ヲ超エサル產物ヲ賣拂フトキ

附則

官有森林原野及產物特別處分規則ハ之ヲ廢止ス

○國有林野及產物賣拂規則 明治三十二年八月三日 農商務省令第二十六號

國有林野及產物賣拂規則左ノ通相定ム

第一章 通則

第一條 國有林野及產物賣拂ノ競争契約(公賣)及隨意契約(特賣)ハ本則ニ依リ之ヲ行フ但シ國有林野ノ豫約賣拂ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二條 賣拂物件ノ面積、材積數量若ハ品質ニ錯誤アリ又其ノ物件ニ隠レタル瑕疵アルモ買受人ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第三條 立木竹ノ賣拂ハ特別ノ契約アルニアラサレハ其ノ根株ニ及ハサルモノトス

國有林野產物ノ隨意契約ニ依ル賣拂ニ關スル件 國有林野及產物賣拂規則



第四條 物件ノ公賣ニ加ハリ又ハ賣買契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ利付公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ

入札保證金額ハ物件見積代金ノ百分ノ五以上、契約保證金額ハ代金ノ百分ノ十以上トシ其ノ都度之ヲ定ム

第五條 賣買契約ヲ結ハントスル者ハ契約保證金ト共ニ代金ノ全部又ハ一部ヲ納付スルコトヲ得

第六條 現金ヲ以テ納付シタル契約保證金ハ之ヲ代金ニ充當ス但シ產物ノ年期賣拂ハ場合ハ此ノ限ニアラス

第七條 公債證書ヲ以テ契約保證金ヲ納メタル場合ニ於テ買受人代金ヲ完納シタルトキハ保證金取扱官吏ハ公債證書ヲ其ノ買受人ニ還付スヘシ

買受人公債證書ノ還付ヲ受クルトキハ第二號書式ニ依リ預證書ニ領收ノ旨ヲ記入シ署名捺印シテ之ヲ保證金取扱官吏ニ差出スヘシ

第八條 買受人ハ物件引渡前ニ在リテハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ物件ニ關シ一切ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 契約書其ノ他契約ニ關スル書類ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキハ其ノ旨ヲ付箋ニ記載シ雙方契印スヘシ

第十條 入札人落札人又ハ買受人ノ代理人ハ其代理權ヲ證スル書面ヲ當該官廳ニ差出スヘシ

第二章 競争契約

第十一條 公賣ヲ行ハントスルトキハ入札期日ヨリ少ナクモ十五日以前ニ揭示又ハ官報若ハ新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

落札人契約ヲ結ハサル場合ニ於テ更ニ公賣ヲ行フトキハ前項ノ期間ハ之ヲ七日マテニ短縮スルコトヲ得

第十二條 公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 一 公賣物件ノ所在
- 二 公賣物件ノ賣拂番號、種類、面積、材積、數量
- 三 入札及開札ノ場所
- 四 入札及開札ノ年月日時
- 五 公賣物件搬出期間
- 六 入札保證金額又ハ之ヲ定ムルノ準率
- 七 公賣物件ノ明細書、標本、契約書案等閲覧ノ場所
- 八 契約ノ取結ヲ擔任スル官吏ノ官、氏名
- 第十三條 公賣物件ノ豫定價格ハ之ヲ封書トシ入札函ニ入置クヘシ
- 第十四條 契約擔任官吏ハ落札人契約ヲ結ヒタル場合ニ限リ入札人ノ請求ニ因リ豫定價格ヲ示スコトヲ得
- 第十五條 入札人ハ賣拂番號毎ニ第一號書式ニ依リ入札書ヲ作り入札保證金ヲ保證金取扱官吏ニ示シ封緘ノ上之ヲ差出シタル後其ノ入札書ヲ入札函ニ投入スヘシ
- 第十六條 保證金取扱官吏入札保證金ヲ受領シタルトキハ第二號書式ニ依リ預證書ヲ交付スヘシ
- 第十七條 入札函ハ入札締切時刻ニ之ヲ閉鎖スヘシ
- 第十八條 入札函閉鎖ノ後ハ入札人其ノ入札ヲ取消スコトヲ得ス
- 第十九條 開札ハ契約擔任官吏入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ



開札ヲ行フニハ入札書ト入札人トヲ照合シテ入札書ヲ開封シ賣拂番號、入札金額及氏名ヲ讀上ケ之ヲ筆記スヘシ

第十八條 入札人開札ニ立會ハサルトキハ其ノ入札ハ無効トス

第十九條 落札人定マリタルトキハ契約擔任官吏直チニ開札所ニ於テ其氏名ヲ讀上ケヘシ

落札人ハ豫定價格以上ノ最高額入札人トス其最高額ハ每賣拂番號ノ合計額ニ依ル

第二十條 左ノ場合ニ於テハ入札ハ無効トス

一 賣拂番號、入札金額又ハ氏名ヲ認知シ難キトキ

二 捺印セサルトキ

三 入札保證金足ラサルトキ

第二十一條 入札金額豫定價格ニ達セサルトキハ契約擔任官吏開札所ニ於テ其ノ旨ヲ報告シ直チニ入札人ヲシテ再入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條 豫定價格以上ノ最高額入札人二人以上アルトキハ契約擔任官吏ハ其ノ入札人ヲシテ直チニ増額ノ再入札ヲ爲サシムヘシ此ノ場合ニ於テハ入札保證金ノ増額ヲ爲スコトヲ要セス

前項入札人ノ全員カ再入札ヲ爲サルトキ又ハ再入札ヲ爲シタル者ノ入札金額同額ナルトキハ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第二十三條 落札人契約ヲ結ハサルトキハ豫定價格以上ノ入札人中入札金額ニ應シテ遞次繰下ケ落札人ヲ定ムヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 落札人定マリタルトキハ保證金取扱官吏ハ直チニ契約保證金ヲ徵收スヘシ

保證金ヲ徵收シタルトキハ契約擔任官吏ハ落札人ト共ニ第三號書式ニ依リ買賣契約書ヲ作り雙方署名捺印シテ各一通ヲ領收シ置クヘシ

第二十五條 保證金取扱官吏ハ左ノ區別ニ從ヒ入札保證金ヲ入札人ニ還付スヘシ

一 公賣ヲ取消シタルトキハ入札人全員ノ入札保證金

二 豫定價格以上ノ入札人アリタルトキハ其ノ他ノ入札人ノ入札保證金

三 落札人契約ヲ結ヒタルトキハ豫定價格以上ノ入札人ノ入札保證金

第七條第二項ノ規定ハ入札保證金還付ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 左ノ場合ニ於テハ入札保證金ハ之ヲ還付セス

一 入札人開札ニ立會ハサルトキ

二 第二十二條第二項又ハ第二十三條第二項ノ規定ニ依リテ抽籤ヲ爲スヘキ場合ニ於テ抽籤ヲ爲ス者ナキトキ

三 落札人契約ヲ結ハサルトキ

第二十七條 前條ノ規定ニ依リ入札保證金ヲ還付セサル場合ニ於テ公債證書ヲ以テ入札保證金ヲ納メタル者入札ノ日ノ翌日ヨリ起算シテ七日以内ニ保證金ト同額ノ現金ヲ當該官廳ニ差出シ公債證書ノ返還ヲ請求セサルトキハ當該官廳ハ其ノ公債證書ヲ賣却シ其ノ代金ヲ以テ保證金ニ充當シ剩餘アルトキハ之ヲ入札人ニ還付シ不足アルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第二十八條 契約擔任官吏ハ入札人ノ連合、不穩ノ舉動其ノ他ノ事由ニ依リ正當ニ公賣ヲ行フコト能ハスト認ムルトキハ開札前其ノ公賣ヲ取消スヘシ

第三章 隨意契約

園有林野及產物賣拂規則



第二十九條 特賣ヲ受ケントスル者ハ第四號乃至第七號書式ニ依リ願書ヲ作り之ヲ當該官廳ニ差出スヘシ

林野ノ特賣ヲ受ケントスルトキハ其ノ實測圖、建築又ハ土木工事ノ爲ニ用材ノ特賣ヲ受ケントスルトキハ其ノ工事ノ設計書ヲ前項ノ願書ニ添附スヘシ但急迫ノ事情アルトキハ設計書ヲ省略スルコトヲ得

第三十條 神社ノ出願ニ付テハ神職及氏子(氏子ナキトキハ信徒)總代願書ニ連署連印スヘシ

寺院ノ出願ニ付テハ住職及檀徒(檀徒ナキトキハ信徒)總代願書ニ連印シ之ニ管長ノ添書ヲ附スヘシ

第三十一條 市町村ノ出願ニ付テハ願書ニ市町村會ノ決議書ノ謄本ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ市町村以外ノ公共團體ノ出願ニ之ヲ準用ス

第三十二條 公用若ハ公益事業ノ爲又ハ公立小學校ノ基本財産ニ充ツル爲出願スル場合各ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ニ關スルトキハ願書ニ其ノ許可書ノ謄本ヲ添附スヘシ

第三十三條 特賣ノ許可アリタルトキハ保證金取扱官吏ハ契約保證金ヲ徵收スヘシ但特賣物件ノ代金百圓ニ滿タサルトキハ之ヲ徵收セサルコトヲ得

第三十四條 契約擔任官吏ハ買受人ト共ニ第三號書式ニ依リ買賣契約書ヲ作り雙方署名捺印シテ各一通ヲ領收シ置クヘシ

特賣物件ノ代金五圓ニ滿タサル場合ニ於テハ第八號書式ニ依リ請書ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得

第三十五條 契約ヲ結ヒタル後ト雖已ムコトヲ得サル事由アルトキハ當該官廳ハ買受人ノ請求ニ因リ

其ノ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ契約保證金ハ之ヲ還付セス買受人既ニ代金ノ全部又ハ一部ヲ納メタルトキハ其ノ中ヨリ契約保證金ニ相當スル金額ヲ控除シ其ノ殘額ヲ還付スヘシ

第二十七條ノ規定ハ契約保證金ヲ還付セサル場合ニ之ヲ準用ス但シ七日ノ期間ハ其ノ契約ノ解除ヲ爲シタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第三十六條 特定ノ目的ヲ以テ特賣ヲ受ケタル者ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ目的以外ニ物件ヲ使用若ハ消費シ又ハ之ヲ轉賣、讓與若ハ交換スルコトヲ得ス

買受人カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ違約金トシテ賣拂代金ノ半額ニ相當スル金額ヲ徵收スヘシ

第四章 物件ノ引渡及搬出

第三十七條 物件ハ代金完納ノ後ニアラサレハ其ノ引渡ヲ爲サル、モノトス

買受人物件ノ引渡ヲ受ケタルトキハ第九號書式ニ依リ領收證ヲ作り之ヲ當該官廳ニ差出スヘシ

第三十八條 物件ノ引渡ハ買受人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

買受人物件ノ引渡ニ立會ハサルトキト雖當該官吏引渡ノ手續ヲ爲シタルトキハ物件ノ引渡アリタルモノト看做ス

第三十九條 產物ノ年期賣拂ノ場合ニ於テ主產物ノ引渡又ハ副產物ノ採取ハ各年度ノ代金完納ノ後ニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

買受人採取ノ許可ヲ得タルトキハ第十號書式ニ依リ請書ヲ作り之ヲ當該官廳ニ差出スヘシ

第四十條 物件ノ搬出期間ハ特別ノ事情アル場合ヲ除ク外其ノ物件引渡又ハ採取許可ノ日ヨリ一年ヲ



超ユルコトヲ得ス

買受人物件ノ搬出ヲ終ハリタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ當該官廳ニ届出ツヘシ

第四十一條 買受人契約ヲ以テ定メタル期間内ニ代金ヲ完納セサルトキハ契約ハ其ノ効力ヲ失フ但シ不可抗力ニ因ル場合ハ此ノ限ニアラス

前項ノ規定ニ依リテ契約其ノ効力ヲ失ヒタルトキハ契約保證金ハ之ヲ還付セス  
第二十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ七日ノ期間ハ代金完納期日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第四十二條 買受人契約ヲ以テ定メタル搬出期間内ニ物件ノ搬出ヲ終ハラサルトキハ其ノ期間ノ半ニ超エサル期間ヲ定メ搬出ノ延期ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ買受人ハ違約金トシテ左ノ金額ヲ納ムヘシ

- 一 賣拂代金百圓以上ナルトキハ一日ニ付其ノ千分ノ一
- 二 賣拂代金百圓未満ナルトキハ一日ニ付金十錢

買受人契約ヲ以テ定メタル搬出期間ヲ過キテ延期ノ請求ヲ爲シタルトキハ其ノ間ノ日數ニ應シ違約金トシテ前項ニ定メタル金額ノ二倍ヲ納ムヘシ

前項ノ規定ハ買受人延期ノ請求ヲ爲サル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 買受人前條ノ延期期間内ニ尙ホ物件ノ搬出ヲ終ラサルトキハ更ニ其ノ期間ノ半ニ超エサル期間ヲ定メ再延期ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ買受人ハ違約金トシテ前條第一項ニ定メタル金額ノ二倍ヲ納ムヘシ

前條第二項及第三條ノ規定ハ再延期ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 不可抗力ニ因リテ物件ヲ搬出スルコト能ハサル日及第四十八條ノ規定ニ依ル搬出中止中ノ日ハ搬出期間ニ之ヲ算入セス

第四十五條 左ノ場合ニ於テハ買受人ハ搬出セサル物件ヲ拋棄シタルモノト看做ス

- 一 買受人搬出期間經過ノ後三十日以内ニ延期又ハ再延期ノ請求ヲ爲サルトキ
- 二 再延期期間内ニ物件ノ搬出ヲ終ハラサルトキ

第四十六條 買受人物件ノ搬出ヲ終ハラサル前ニ於テ之ヲ轉賣、讓與若ハ交換セントスルトキハ第十

一號書式ニ依リ願書ヲ作り當該官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第四十七條 前條ノ規定ニ依リテ物件ノ一部ヲ轉賣、讓與若ハ交換シタル場合ニ於テ第四十二條及第四十三條ノ規定ニ依リ違約金トシテ徵收スヘキ金額ハ搬出ヲ終ハラサル者各自ヨリ之ヲ徵收スヘシ

前項ノ金額ハ當初賣拂代金ノ總額ニ依リテ之ヲ算出スルモノトス

第四十八條 物件ノ搬出ニ當タリ買受人ニ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ當該官廳ハ其ノ物件ヲ差押

ヘ又ハ搬出ノ中止ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ買受人ハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條 買受人ノ家族、傭人又ハ代理人物件ノ伐採、採取、蒐集、加工又ハ運搬ニ當タリ國有林野又ハ產物ニ損害ヲ與ヘタルトキハ買受人之ヲ賠償スヘシ

附則

第五十條 本則施行前ニ結ヒタル契約ニハ本則施行ノ後ト雖從前ノ規定ヲ適用ス

第五十一條 明治二十三年農商務省告示第四號林產物公賣規程及明治二十四年農商務省告示第八號官有森林原野及產物特賣規程ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス



○不要存地國有林野賣拂規則

明治三十二年八月三日  
農商務省令第二十七號

不要存置國有林野賣拂規則左ノ通相定ム

不要存置國有林野賣拂規則

- 第一條 不要存置國有林野ノ賣拂ニハ本則ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外明治三十二年八月農商務省令第二十六號國有林野及產物賣拂規則ヲ適用ス
- 第二條 不要存置林野ヲ賣拂ハントスルトキハ左ノ事項ヲ其ノ林野ノ屬スル大小林區署、林野整理支局並其ノ出張所郡市役所及町村役場ニ揭示スヘシ
  - 一 林野ノ所在、字及面積
  - 二 產物ノ種類及材積又ハ數量
  - 三 特賣願書差出ノ期間及場所
  - 四 林野ニ附帶義務アルトキハ其ノ義務ノ要領
  - 五 保安林ナルトキハ其ノ種類
  - 六 其他必要ト認ムル事項
- 第三條 特賣願書ノ差出期間ハ三十日以上六十日以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ  
賣拂ハントスル林野ニ付キ下戻ノ申請又ハ社寺境内編入ノ出願ヲ爲シタル者ハ前項ノ規定ニ依リ揭示シタル差出期間後ト雖其ノ不許可ノ處分ノ日ヨリ起算シ三十日以内ニ於テ特賣ヲ出願スルコトヲ

得(三十三年省令第十號ヲ以テ本項追加)

- 第四條 林野ヲ買受ケタル者ハ其ノ林野ノ附帶義務ヲ承繼スルモノトス
- 第五條 國有林野法第八條ニ掲ケタル事由ニ因リ特賣ヲ出願セントスル者ハ必ラス書留郵便ヲ以テ願書ヲ差出スヘシ  
揭示シタル期間内ニ揭示シタル場所ニ到着セサル願書ハ之ヲ受理セス
- 第六條 願書ニハ特賣ヲ受ケル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ但シ實測圖ハ之ヲ添附スルヲ要セス  
前項ノ事由ニ關スル證據書類アルトキハ其ノ書類ヲモ添附スヘシ
- 第七條 國有林野法第八條第二號及第三號ニ掲ケタル事由ニ因リ特賣ヲ出願セントスル者ハ其ノ願書ニ林野ノ保護及施業ノ方法書ヲ添附スヘシ
- 第八條 林野整理支局長必要ト認ムルトキハ出願者ニ質問シ又ハ其ノ出頭ヲ命スヘシ  
願書ニ不備又ハ誤謬ノ廉アルトキハ之ヲ訂正セシムヘシ
- 第九條 林野整理支局長特賣ノ事由ナシト認ムルトキ又ハ出願者正當ノ理由ナクシテ前條ノ命令ニ應セサルトキハ其願書ヲ却下スヘシ
- 第十條 左ニ掲ケタル者ニハ他ノ出願者ニ先チテ調査價格以上ニテ特賣ヲ爲スコトヲ得
  - 一 公用又ハ公益事業ノ爲出願スルモノ
  - 二 社寺上地ノ森林ニ在リテハ其ノ社寺
  - 三 部分林ニ在リテハ其ノ分收ノ權利ヲ有スル者
  - 四 官地民木ノ森林ニ在リテハ其樹木ノ所有者

不要存地國有林野賣拂規則



三十三年六月  
省令第十三號  
ヲ以テ本條改  
正

三十三年省令  
第十號ヲ以テ  
追加

(同 上)

五 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シアル林野ニ在リテハ其ノ借地人

六 國有林野法施行以前ニ開墾牧畜又ハ植樹ノ爲貸付シタル林野ニ在テハ其ノ事業ヲ成功シタル者前項ニ掲ケタル者同一ノ林野ニ對シテ特賣ヲ出願シタルトキハ農商務大臣各出願者ニ對スル特賣ノ順位及區域ヲ定ム

第十一條 賣拂ハントスル林野ニ付前條第一項ニ掲ケタル者出願セス又ハ其ノ者ニ特賣ヲ許可セサル場合ニ於テ其ノ林野ニ對シテ調査價格以上ノ出願競合スルトキハ左ノ順位ニ依リテ特賣ヲ爲スヘシ

一 國有林野法施行規則第七條第三號乃至第七號ノ出願及林野ノ屬スル市町村又ハ公立小學校ノ基本財産ニ充ツル爲ニスル出願競合スルトキハ出願價格ノ最高者

二 前號ニ掲ケタル出願ナキカ又ハ其ノ出願者ニ特賣ヲ許可セサル場合ニ於テ林野ノ屬セサル市町村又ハ公立學校ノ基本財産ニ充ツル爲ニスル出願及國有林野法第八條第五號ノ出願競合スルトキハ出願價格ノ最高者

第十一條ノ二 特賣ノ許可ヲ受ケタル者カ林野整理支局長ノ指定シタル期間内ニ契約保證金ヲ納メサルトキハ特賣ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ此場合ニ於テハ違約金トシテ出願代金百分ノ十二當タル金額ヲ徴收スヘシ

第十一條ノ三 特賣ノ許可ヲ受ケタル者カ契約保證金ヲ納メタルモ林野整理支局長ノ指定シタル期間内ニ契約ヲ結ハサルトキハ特賣ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ契約保證金ハ之ヲ還付セ

公債證書ヲ以テ契約保證金ヲ納メタル者カ更ニ林野整理支局長ノ指定シタル期間内ニ保證金ト同額ノ現金ヲ差出シ公債證書ノ返還ヲ請求セサルトキハ其ノ公債證書ヲ賣却シ其ノ代金ヲ以テ保證金ニ

充當シ剩餘アルトキハ之ヲ還付シ不足アルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第十二條 左ノ場合ニ於テハ公賣ヲ行フヘシ

一 願書ノ差出期間内ニ特賣ヲ出願スル者ナキトキ

二 特賣ノ出願ヲ許可セサルトキ

三 契約ノ解除ヲ爲シタルトキ

四 契約其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

第十三條 公賣ノ公告ニハ國有林野及產物賣拂規則第十二條ニ掲ケタル事項ノ外第二條第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

第十四條 賣拂物件ノ引渡ハ小林區署長又ハ小林區署長ノ命シタル小林區署員之ヲ爲スヘシ

○國有林野委託規則 明治三十二年八月二日  
勅令第三百六十四號

朕國有林野委託規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國有林野委託規則

第一條 市町村又ハ市町村内ノ一部ニ國有林野ノ保護ヲ委託スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 委託林野ノ區域ハ市町村ノ位置、緣故及其地方ノ狀況ヲ參酌シテ農商務大臣之ヲ定ム

第三條 委託林野ノ委託期間ハ五ケ年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

國有林野委託規則



第四條 受託者ハ委託林野ニ關シ左ノ義務ヲ負フ

- 一 火災ノ豫防及消防
  - 二 盜伐、誤伐、冒認、侵墾其他ノ加害行為ノ豫防及防止
  - 三 有害動物ノ豫防及驅除
  - 四 境界標其他ノ標識ノ保存
  - 五 稚樹ノ保育
  - 六 大林區署長ノ命ニ依リ手入ヲ爲シ又ハ看守人ヲ配置スルコト
- 第五條 左ノ委託林野產物ハ之ヲ受託者ニ讓與スルコトヲ得
- 一 末木、枝條及枯倒木
  - 二 手入ノ爲メ伐採スル樹木
  - 三 自家用薪炭材
  - 四 土地ノ資質ヲ爲ササル副產物
- 第六條 左ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ委託ヲ解除スルコトヲ得
- 一 受託者第四條ノ義務ヲ怠リタルトキ
  - 二 受託者其ノ委託林野ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ
  - 三 委託林野ヲ公用又ハ公益事業ニ供スル必要生シタルトキ
- 前項ノ規定ニ依リテ委託ヲ解除シタル場合ニ於テハ損害ヲ賠償セス
- 第七條 受託者タル市町村又ハ市町村ノ一部ノ住民委託林野ニ損害ヲ加ヘタルトキハ受託者ハ之ヲ賠償スルノ責ニ任ス

附則

第八條 本令施行前ニ副產物ノ無料採取ヲ許可シタル森林ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

第九條 本令施行前ニ副產物ノ無料採取ヲ許可シタル森林ハ其採取者ノ出願ニ依リ委託林野ト爲スコトヲ得

○社寺保管林規則

明治三十二年八月二日 勅令第三百六十一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ社寺保管林規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

社寺保管林規則

- 第一條 社寺上地ノ森林保管ヲ其ノ社寺ノ願出ニ依リ許可スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル
  - 第二條 保管林ノ區域ハ農商務大臣之ヲ定ム
  - 第三條 保管林ノ保管期間ハ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス  
前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得
  - 第四條 社寺ニシテ保管林地ヲ使用セントスルトキハ大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ但シ祭典又ハ法用ノ爲ニ一時之ヲ使用スルトキハ此ノ限ニ在ラス
  - 第五條 社寺ハ保管林地ノ使用ニ付林地ノ資質ヲ害シ又ハ風致ヲ損スルコトヲ得ス
- 第五條 社寺ハ保管林ニ關シ左ノ義務ヲ負フ
- 一 火災ノ豫防及消防



- 二 盜伐、誤伐、冒認、侵墾其ノ他ノ加害行為ノ豫防及防止
- 三 有害動物ノ豫防及驅除
- 四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存
- 五 稚樹ノ保育
- 六 大林區署長ノ命ニ依リ看守人ヲ配置スルコト
- 七 大林區署長ノ指定シタル方法ニ從ヒ保管林ノ植樹、補植、手入其ノ他造林ニ必要ナル行為ヲ爲スコト
- 第六條 社寺ハ伐採量ノ二分ノ一ニ相當スル主產物ヲ採取スルコトヲ得  
根株ハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ採取スルコトヲ得ス
- 第七條 社寺ハ林地ノ資質ヲ爲ササル副產物ヲ採取スルコトヲ得
- 第八條 社寺ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ其ノ採取產物ノ搬出ヲ終ルヘシ  
前項ノ期間内ニ搬出ヲ終ラサルトキハ其ノ產物ヲ採取スル權利ヲ失フ
- 第九條 左ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ保管ヲ解除スルコトヲ得
  - 一 社寺ノ管理者第四條ノ規定ニ違背シタルトキ
  - 二 社寺ノ管理者第五條ノ義務ヲ怠リタルトキ
  - 三 社寺ノ管理者其ノ保管林ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ
  - 四 保管林ヲ公用又ハ公益事業ニ供スル必要生シタルトキ
- 前項ノ規定ニ依リテ保管ヲ解除シタル場合ニ於テハ損害ヲ賠償セス
- 第十條 社寺ノ管理者許可ヲ得シテ保管林地ヲ使用シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス社寺ノ管

理者保管林ヲ他人ニ貸付シ又ハ使用セシメタルトキ亦同シ

附則

- 第十一條 本令施行前ニ社寺ニ委託シタル土地官林ハ従前ノ例ニ依ル
- 第十二條 本令施行前ニ社寺ニ委託シタル土地官林ハ其ノ社寺ノ出願ニ依リ本令ニ定ムル保管林ト爲スコトヲ得

○社寺上地官林委託規則 明治二十四年四月八日 農商務省令第五號

明治二十三年勅令第六十九號官有森林原野及產物特別處分規則第三條ニ據リ社寺上地官林委託規則左

之通之ヲ定ム

社寺上地官林委託規則

- 第一條 社寺ニ於テ上地官林ノ委託ヲ請ケント欲スルトキハ願書ニ其ノ創立ノ年代由緒資格出願地ノ字名區域段別樹種別木數(竹ハ三寸回り以上ノ數量)維持方法氏子檀徒信徒ノ概數等ヲ詳記シ年限ヲ定メ圖面ヲ添ヘ神官住職及ヒ氏子檀徒總代(氏子檀徒ナキモ)三名以上連署シ寺院ハ管長ノ與書ヲ經テ所轄大林區署長ニ差出スヘシ
- 第二條 社寺上地官林ノ委託ハ此ノ規則中特ニ定メタル場合ノ外十五年ヲ以テ限度トス委託年限ヲ經過シ尙ホ引續キ其ノ委託ヲ請ケント欲スルトキハ更ニ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第三條 社寺ハ委託前他人ニ於テ採取ノ許可ヲ得其ノ期限内ニ係ルモノヲ除クノ外委託官林内ノ副產物(即チ樹實菌蕈落葉落葉下草晚筍ノ類)ヲ無代價ニテ收得スルコトヲ得



第四條 社寺ハ所轄大林區署長ノ許可ヲ得テ委託官林内ニ建造物ヲ設ケ又ハ竹木ヲ栽植シ若クハ林地ヲ使用スルコトヲ得

前項ニ據リ竹木ノ栽植ヲ爲シタルトキハ其ノ栽植地ノ委託ハ新植ノ年度ヨリ起算シ八十年ヲ以テ限度トス其ノ補植ニ就テモ新植ノ年度ヨリ起算シ該限度ヲ超過スルヲ許サス

第五條 社寺ハ風致其ノ他水源涵養、土砂并止等總テ公共ノ利益ニ關スルモノヲ除キ所轄大林區署長ノ許可ヲ得テ其ノ栽植ニ係ル竹木ヲ伐採スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社寺ハ其ノ伐採シタル竹木相當價格ノ二分ノ一ヲ所轄大林區署ニ納付スヘシ

第六條 社寺ハ其ノ建築又ハ修繕用ニ供セントスルトキハ委託官林内在來ノ竹木ニシテ風致其ノ他水源涵養土砂并止等總テ公共ノ利益ニ關スルモノヲ除キ相當代價ヲ以テ特賣ヲ所轄大林區署長ニ請求スルコトヲ得

前項ニ據リ賣渡ヲ受ケタル竹木ヲ目的外ニ使用シ又ハ轉賣シ若クハ讓與シタルトキハ其ノ賣渡代價ノ二倍ヲ徵集スヘシ

第七條 社寺ハ其ノ委託官林保護ノ責ニ任シ且ツ四至ニ境界標ヲ建設スヘシ  
前項ノ境界標ハ委託許可ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ建設シ委託官林ノ段別境界ノ方位許可ノ年月日及ヒ某社寺ノ請ケタル委託官林タルコトヲ明瞭ニ表記スヘシ

第八條 社寺ハ第四條ニ據リ委託官林内ニ竹木栽植ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ其ノ栽植地ノ四至ニ標杭ヲ建設シ栽植地ノ段別境界ノ方位許可ノ年月日及ヒ某社寺ノ請ケタル委託官林内ノ栽植地タルコトヲ明瞭ニ表記スヘシ

第九條 社寺ニ於テ委託官林内ノ竹木ヲ斫伐シ副産物ヲ採取スルトキハ凡テ所轄大林區署長ノ指示ス

ル方法ニ據ルヘシ

第十條 社寺ニ於テ委託官林ノ手入ヲナサントスルトキハ所轄大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 第四條第五條第六條第十條ニ依リ差出スヘキ願書ニハ神官住職及ヒ氏子檀徒若クハ信徒總代ノ連署ヲ要ス

第十二條 斫伐ノ許可ヲ受ケタル竹木ハ所轄大林區署長ノ引渡ヲ受クルニアラサレハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス  
但引渡ヲ受ケタル竹木ト雖モ其ノ根株ハ特ニ許可シタルモノ、外掘採スルコトヲ得ス

第十三條 社寺ハ其ノ委託官林ヲ他ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十四條 左ノ場合ニ於テハ社寺ハ事由ヲ認メ速ニ所轄大林區署長ニ届出ヘシ  
但第二第三第四及第五ノ場合ニ於テハ所轄大林區署長ノ検査ヲ受クヘシ

一 看守人ヲ置キ又ハ廢シタルトキ

二 委託官林ニ係ル犯罪其ノ他異狀ノ事故アリタルトキ

三 道路電線耕地宅地家屋等ニ對スル障害木アリタルトキ

四 林地ノ使用若クハ栽植ヲ終リタルトキ但竹木ノ栽植ヲナシタルトキハ其ノ栽植實費取調書ヲ添付スヘシ

五 竹木ヲ斫伐シ及運搬ヲ終ハリタルトキ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ所轄大林區署長ハ委託期限中ト雖モ其ノ委託ヲ解クコトヲ得  
一 官用又ハ公用ノ爲メ必要アルトキ但此場合ニ於テハ委託中社寺ノ費用ヲ以テ栽植シタル竹木ニ就テハ其ノ栽植實費ヲ賠償ス



二 此ノ規則ニ定メタル制限及條件ニ違背シタルトキ但社寺ノ栽植ニ係ル竹木ハ之ヲ官沒ス  
第十六條 竹木及副産物ノ斫伐採取其ノ他林地使用ノ爲メ若クハ故意怠慢ニ依リ委託官林ニ傷害ヲ生  
シ又ハ生セントスルトキハ所轄大林區署長ハ其ノ斫伐採取使用ヲ停止若クハ禁止シ尙ホ其ノ委託ヲ  
解クコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ損害アルトキハ社寺ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任スヘシ  
第十七條 社寺ニ於テ此規則ヲ履行スルニ因リテ生スル費用ハ社寺ノ負擔トス

○國有土地森林原野下戻法 明治三十三年四月十七日 法律第九十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國有土地森林原野下戻法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 地租改正又ハ社寺土地處分ニ依リ官有ニ編入セラレ現ニ國有ニ屬スル土地森林原野若ハ立木  
竹ハ其處分ノ當時之ニ付キ所有又ハ分收ノ事實アリタル者ハ此ノ法律ニ依リ明治三十三年六月三十  
日迄ニ主務大臣ニ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ期限ヲ經過シタルモノ又ハ裁判所ノ判決ヲ受ケタルモノハ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス  
府縣設置以後土地處分ヲ受ケタル土地及地租改正處分既濟地方ニ於ケル未定地脫落地ニ付テハ此ノ  
法律ノ規定ヲ準用ス

第二條 下戻ノ申請ヲ爲ス者ハ第一條ノ事實ヲ證スル爲メ少クトモ左ノ書面ノ一ヲ添付スルコトヲ要  
ス  
一 公簿若ハ公書ニ依リ所有又ハ分收ノ事實ヲ證スルモノ

二 高受又ハ正租ヲ納メタル證アルモノ

三 拂下下付賣買讓與質入書入寄附等ニ依ル所有又ハ分收ノ事實ヲ證スヘキモノ

四 木竹又ハ其ノ賣却代金ヲ分收シタル證アルモノ

五 私費ヲ以テ木竹ヲ植付ケタル證アルモノ

六 私費ヲ以テ田畑宅地ニ開墾シタル證アルモノ  
第三條 前條ノ證據書類ニシテ所有又ハ分收ノ事實ヲ證スルニ足ルト認ムルトキハ主務大臣ハ其下戻  
ヲ爲スヘシ

第四條 下戻ヲ受ケタル者ハ其下戻ニ因リテ所有又ハ分收ノ權利ヲ取得ス  
前項ニ依リ所有又ハ分收ノ權利ヲ取得シタル者ハ其ノ土地森林原野若ハ立木竹ニ關シ第三者ニ對ス  
ル國ノ權利義務ヲ承繼ス

第五條 第二條ニ依リ下戻ヲ受ケタルモノト雖公用又ハ社寺境内ニ供セラルルモノハ其ノ公用又ハ社  
寺境内ヲ廢シタル後ニアラサレハ權利ヲ行使スルコトヲ得ス

第六條 下戻申請ニ對シ不許可ノ處分ヲ受ケタル者其處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコ  
トヲ得

第七條 此ノ法律施行以前ニ差出シタル下戻ニ關スル申請書又ハ願書ハ此ノ法律ニ依リタルモノト看  
做ス

○國有土地森林原野下戻申請手續 明治三十二年四月十八日 農商務省令第八號

國有土地森林原野下戻法 國有土地森林原野下戻申請手續



本年法律第九十九號ニ依ル國有土地森林原野下戻申請手續左ノ通相定ム  
國有土地森林原野下戻申請手續

第一條 國有土地森林原野下戻法ニ依ル申請手續ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 下戻申請書ニシテ土地及北海道ノ森林原野ニ係ルモノハ地方長官ヲ經由シテ内務大臣ニ森林  
原野ニ係ルモノハ大林區署長ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ  
立木竹竝ニ未定地脫落地等ニ係ルモノ亦前項ニ同シ

申請書ハ別記雛形ニ準據シ其土地森林原野等ノ位置ヲ示シタル詳細ノ圖面ヲ之ニ添付スヘシ

第三條 市町村有若クハ市町村内ノ區又ハ市町村内一部ノ所有ニ下戻申請ヲ爲ストキハ市町村會又ハ  
區會ノ決議書ヲ添ヘ其市參事會町村長ヨリ申請ヲ爲スヘシ  
社寺ヨリ申請スル場合ハ神社ニ在テハ神職及氏子總代(氏子總代ナキトキハ信徒總代)寺院ニ在テハ住職及檀徒總代  
(檀徒總代ナキトキハ信徒總代)佛堂ニ在テハ受持僧侶及信徒總代連署シ且寺院ノ申請ニハ其所屬宗派管長ノ添書ヲ  
付スヘシ

代理人ヨリ申請スル場合ハ代理委任ヲ證スヘキ書面ヲ添付スヘシ

第四條 地方長官又ハ大林區署長ニ於テ下戻申請書ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ主務大  
臣ニ進達スヘシ

第五條 主務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ直接申請人ニ就キ推問ヲ爲スコトアルヘシ

第六條 申請ニ對スル指令又ハ申請書ノ却下ハ地方長官又ハ大林區署長ヲ經テ申請人ニ交付スヘシ

第七條 申請書ニ添付セル證據ニ對シ主務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ何年何月何日何第何號檢閱  
ナル文字ヲ押捺若クハ記入スルコトアルヘシ

(雛形畧)

○下戻土地登記方 明治三十二年十月十四日  
内務省訓令第三十三號

北海道廳 府縣

本年法律第九十九號國有土地森林原野下戻法ニ依リ下戻ヲ爲シタル土地ノ登記ニ關スル手續ハ其ノ廳  
ニ於テ取計フヘシ

○御料地及立木竹下付規程 明治三十三年五月二十四日  
宮内省告示第七號

地租改正又ハ府縣設置以後地租改正以前ノ土地處分又ハ社寺土地處分ニ依リ官有ニ編入セラレ現ニ御  
料ニ屬スル土地森林原野若ハ立木竹ニ對シ所有又ハ分收ノ事實アリタル者其ノ下付ヲ請ハントスルト  
キハ左ノ規程ニ依リ願出ツヘシ

御料地及立木竹下付規程

第一條 地租改正又ハ府縣設置以後地租改正以前ノ土地處分又ハ社寺土地處分ニ依リ官有ニ編入セラ  
レ現ニ御料ニ屬スル土地森林原野若ハ立木竹ニシテ其ノ處分ノ當時之ニ付キ所有又ハ分收ノ事實ア  
リタル者其ノ下付ヲ請ハントスルトキハ本規程ニ依リ明治三十四年六月三十日迄ニ御料局ヲ經由シ  
テ宮内大臣ニ其ノ願書ヲ差出ス可シ

前項ノ期限ヲ經過シテ差出シタル願書ハ之ヲ受理セス

第二條 下付ヲ請フ者ハ第一條ノ事實ヲ證スル爲少クトモ左ノ書面ノ一ヲ添付スルコトヲ要ス

下戻土地登記方 御料地及立木竹下付規程



一 公簿若ハ公書ニ依リ所有又ハ分收ノ事實ヲ證スルモノ  
 二 高受又ハ正租ヲ納メタル證アルモノ  
 三 拂下下付賣買讓與質入書入寄附等ニ依ル所有又ハ分收ノ事實ヲ證スヘキモノ  
 四 木竹又ハ其ノ賣却代金ヲ分收シタル證アルモノ  
 五 私費ヲ以テ木竹ヲ植付ケタル證アルモノ  
 六 私費ヲ以テ田畑宅地ニ開墾シタル證アルモノ  
 第三條 前條ノ證據書類ニシテ所有又ハ分收ノ事實ヲ證スルニ足ルト認ムルトキハ其ノ下付ノ出願ヲ許可スルモノトス  
 第四條 下付ノ出願ヲ許可スヘキモノニシテ分收ニ係ルモノハ之ヲ部分林ト看做シ其ノ分收歩合又ハ存續期間ノ分明ナラサルモノハ宮内大臣之ヲ定ム  
 第五條 下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ物件ノ引渡ニ因リテ其ノ所有又ハ分收ノ權利ヲ得ルモノトス  
 前項ニ依リ所有又ハ分收ノ權利ヲ得タル者ハ其ノ土地森林原野若ハ立木竹ニ關シ第三者ニ對スル從來ノ權利義務ヲ承繼スルモノトス  
 第六條 下付ノ願書ハ別記書式ニ據リ出願ノ目的物事實理由及立證ヲ明記シ證據書類ノ外其ノ土地森林原野等ノ位置ヲ示シタル詳細ノ圖面ヲ添付スヘシ  
 第七條 市町村有若ハ市町村内ノ區又ハ市町村内一部ノ有ニ下付ヲ請フ場合ニ於テハ其ノ願書ニ市町村會又ハ區會ノ決議書ヲ添ヘ其ノ市參事會町村長ヨリ出願スヘシ  
 社寺ノ有ニ下付ヲ請フ場合ニ於テハ其ノ願書ニハ左ノ區別ニ從ヒ連署ヲ要ス但シ寺院ノ願書ニハ特ニ其ノ所屬宗派管長ノ添書ヲ付スヘシ

二十二年法律  
 第十三號ヲ以テ  
 地券ヲ廢ス  
 以下之ニ依リ

一 神社ニ在リテハ神職及氏子總代三名以上(氏子總代ナキトキハ信徒總代三名以上)  
 一 寺院ニ在リテハ住職及檀徒總代三名以上(檀徒總代ナキトキハ信徒總代三名以上)  
 一 佛堂ニ在リテハ受持僧侶及信徒總代三名以上  
 代理人又ハ後見人ヨリ下付ヲ請フ場合ニ於テハ代理人ニ在リテハ代理委任ヲ證スヘキ書面後見人ニ在リテハ戶籍ノ謄本ヲ其ノ願書ニ添付スヘシ  
 第八條 本規程告示以前ニ差出シタル下戻ニ關スル願書ハ本規程ニ依リタルモノト看做ス  
 (別記略)

○地所名稱區別 明治七年十一月七日  
 太政官布告第百二十號

明治六年三月第十四號布告地所名稱區別左ノ通改定候條此旨布告候事  
 官有地

- 第一種 「地券ヲ發セス」地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ地方稅ト改ム)
  - 一 皇宮地 皇居離宮等ヲ云
  - 一 神地 伊勢神宮山陵官國幣社府縣社及ヒ民有ニアラサル社地ヲ云
- 第二種 「地券ヲ發シ」地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス尤府縣所用ノ地ハ「地券ヲ發セス」唯帳簿ニ記入ス(八年第百十四號布告ヲ以テ但共改正十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ賦スルトアル地方稅ヲ賦セサルト改ム)  
 但此地ニアル官舎ヲ貸渡ス時ハ借地料ヲ賦スヘシ
- 一 皇族賜邸

地所名稱區別



一官用地「官」院省「使」察「司」府「藩」縣本廳裁判所警視廳陸海軍  
分營其他政府ノ許可ヲ得タル所用ノ地ヲ云

第三種 「地券ヲ發セシ」地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ地方稅ト定ム)

但人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時ハ其間借地料ヲ納メシム(十二年第三十四號布告ヲ以テ借地料以下改正)

一山岳丘陵林藪原野河海湖沼池澤溝渠堤塘道路田畑屋敷等其地民有地ニアラサルモノ

一鐵道線路敷地

一電信架線柱敷地

一燈明臺敷地

一各所ノ舊跡名區及ヒ公園等民有地ニアラサルモノ

一人民所有ノ權利ヲ失セシ土地

一民有地ニアラサル堂宇敷地及ヒ墳墓地

一行刑場

第四種 「地券ヲ發セシ」地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ賦セサルト改ム)

一寺院大中小學校說教場病院貧院等民有地ニアラサルモノ

民有地

第一種 「地券ヲ發シ」地租ヲ課シ地方稅ヲ賦スルヲ法トス(十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ地方稅ト改ム)

一人民各自所有ノ確證アル耕地宅地山林等ヲ云

但此地賣買ハ人民各自ノ自由ニ任スト雖モ濫シ地開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

一人民數人或ハ一村或ハ數村所有ノ確證アル學校病院鄉倉牧場林場社寺等官有地ニアラサル土地ヲ云(本項ハ元第二種ナルヲ九年第八十八號布告ヲ以テ第一種ニ合ス)

但此地賣買ハ其所有者一般ノ自由ニ任スト雖モ濫地或ハ開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

第二種 「地券ヲ發シテ」地租地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(九年第八十八號布告ヲ以テ本項元第三種ナルヲ第二種ト改ム十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ地方稅ト改ム)

一官有ニアラサル鄉村社地及ヒ墳墓地等ヲ云フ(八年第一百十四號布告ヲ以テ本項改正)

一民有ノ用惡水路溜池敷堤敷及井溝敷地(八年第一百五十四號布告ヲ以テ本項追加)

一公衆ノ用ニ供スル道路(十三年第四十三號布告ヲ以テ但書追加)

但其地形ヲ變換スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ請フヘシ

○官有ノ建物及其附屬物ヲ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡貸渡スル

トキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件明治二十六年十二月五日勅令第二百二十八號

朕官有ノ建物及其附屬物ヲ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡貸渡スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有ノ建物及其附屬物ヲ公用ニ供スル爲メ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡シ又ハ貸渡ストキハ競争ニ付セズ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

官有ノ建物及其附屬物ヲ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡貸渡スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件 工事ノ爲メ買取又ハ收用シタル土地貸付ノ件



○工事ノ爲メ買収又ハ收用シタル土地貸付ノ件 明治三十年二月十七日 勅令第十五號

朕工事ノ爲メ買収又ハ收用シタル土地貸付ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
國ノ起業ニ係ル工事ニ要スル土地ニシテ買収又ハ收用ノ後未タ其ノ土地ニ工事ヲ施行セサルモノハ其ノ施行ニ至ル迄隨意契約ヲ以テ之ヲ其ノ舊所有者ニ貸付スルコトヲ得

行政訴訟並訴願

○行政裁判法

明治二十三年六月二十八日 法律第四十八號

朕行政裁判法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政裁判法

第一章 行政裁判所組織

第一條 行政裁判所ハ之ヲ東京ニ置ク

第二條 行政裁判所ニ長官一人及評定官ヲ置ク評定官ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 長官ハ勅任トス評定官ハ勅任又ハ奏任トス

長官及評定官ハ三十歳以上ニシテ五年以上高等行政官ノ職ヲ奉シタル者若クハ裁判官ノ職ヲ奉シタル者ヨリ内閣總理大臣ノ上奏ニ依リ任命セラルモノトス  
書記ハ長官之ヲ判任ス

第四條 長官及評定官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 公然政事ニ關係スルコト
- 二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ衆議院議員府縣郡市町村會ノ議員若クハ參事會員タルコト



三 兼官ノ場合ヲ除ク外俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコト

四 商業ヲ營ミ其他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ムコト

第五條 第六條ノ場合ヲ除ク外長官及評定官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラルコトナシ

行政裁判所ノ長官又ハ評定官ヲ兼任スル者ハ其本官在職中前項ヲ適用ス

懲戒處分ノ法ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 長官及評定官身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ内閣總理大臣ハ行政裁判所ノ總會ノ決議ニ依リ其退職ヲ上奏スルコトヲ得

第七條 長官ハ行政裁判所ノ事務ヲ總理ス

長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其先ナル者之ヲ代理ス

第八條 長官ハ自ら裁判長トナリ若クハ評定官ニ裁判長ヲ命スルコトヲ得

部ヲ分ツノ必要アルトキハ其組織及事務分配ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條 行政裁判所ノ裁判ハ裁判長及評定官ヲ併セ五人以上ノ列席合議ヲ要ス但列席ノ人員ハ奇數ニ限ル若シ缺席ノ爲偶數トナリタルトキハ官等最モ低キ評定官ヲ議決ヨリ除ク官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其後ナル者ヲ除ク

議決ハ過半數ニ依ル

第十條 長官又ハ評定官ハ左ノ場合ニ於テ評議及議決ニ加ハルコトヲ得ス

一 裁判スヘキ事件自己又ハ父母兄弟姉妹若クハ妻子ノ身上ニ關スルトキ

二 裁判スヘキ事件一私人ノ資格ヲ以テ意見ヲ述ヘタルモノ又ハ理事者代理者若クハ職務外ノ地位ニ於テ取扱ヒタルモノニ關スルトキ

三 裁判スヘキ事件行政官タルノ資格ヲ以テ其事件ノ處分又ハ裁決ニ參與シタルモノニ關スルトキ

第十一條 前條ノ場合ニ於テ原告又ハ被告ハ原因ヲ説明シテ文書又ハ口頭ヲ以テ長官又ハ評定官ヲ忌避スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十二條 忌避若クハ除斥ノ原因タル事情ニ付キ長官又ハ評定官ヨリ申出アルトキ又ハ他ノ事由ヨリシテ長官又ハ評定官カ法律ニ依リ評議及決議ニ加ハルヲ得サルノ疑アルトキハ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十三條 行政裁判所ノ處務規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 行政訴訟ノ辯護人タルコトヲ得ルハ行政裁判所ノ認許シタル辯護士ニ限ル

第二章 行政裁判所ノ權限

第十五條 行政裁判所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル事件ヲ審判ス

第十六條 行政裁判所ハ損害賠償ノ訴訟ヲ受理セス

第十七條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

各省大臣ノ處分又ハ内閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

各省又ハ内閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス



第十八條 行政裁判所ノ判決ハ其事件ニ付キ關係ノ行政廳ヲ羈束ス  
 第十九條 行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ス  
 第二十條 行政裁判所ハ其權限ニ關シテハ自ラ之ヲ決定ス  
 行政裁判所ト通常裁判所又ハ特別裁判所トノ間ニ起ル權限ノ爭議ハ權限裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス  
 第二十一條 行政裁判所ノ判決ノ執行ハ通常裁判所ニ囑託スルコトヲ得  
 第三章 行政訴訟手續  
 第二十二條 行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十日以内ニ提起スヘシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但法律勅令ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス  
 訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算竝ニ災害事變ノ爲メ遷延シタル期限ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス  
 第二十三條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外行政廳ノ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止セス但行政廳及行政裁判所ハ其職權ニ依リ又ハ原告ノ願ニ依リ必要ト認ムルトキハ其處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得  
 第二十四條 行政訴訟ハ文書ヲ以テ行政裁判所ニ提起スヘシ  
 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
 第二十五條 訴狀ハ左ノ事項ヲ記載シ原告署名捺印スヘシ  
 一 原告ノ身分、職業、住所、年齢  
 二 被告ノ行政廳又ハ其他ノ被告

三 要求ノ事件及其理由

四 立證

五 年月日

訴狀ニハ原告ノ經歷シタル訴願書裁決書竝ニ證據書類ヲ添フヘシ  
 第二十六條 訴狀ニハ被告ニ送付スル爲ニ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ  
 第二十七條 行政裁判所ハ原告ノ訴狀ニ就テ審査シ若シ法律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ其理由ヲ付シタル裁決書ヲ以テ之ヲ却下スヘシ  
 其訴狀ノ法式ヲ缺クニ止マルモノハ之ヲ改正セシムル爲メ期限ヲ指定シテ還付スヘシ  
 第二十八條 行政裁判所ニ於テ訴狀ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ被告ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ  
 答辯書ニハ原告ニ送付スル爲メ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ  
 第二十九條 行政裁判所ハ必要ナリト認ムルトキハ其期限ヲ指定シテ原告被告交互ニ辯駁書及再度ノ答辯書ヲ差出サシムヘシ  
 第三十條 行政裁判所ハ訴狀及答辯書ノ附屬文書ノ副本ヲ原告被告交互ニ送付スル代リニ所内ニ於テ之ヲ閱覽セシムルコトヲ得  
 第三十一條 行政裁判所ハ訴訟審問中其事件ノ利害ニ關係アル第三者ヲ訴訟ニ加ハラシメ又ハ第三者ノ願ニ依リ訴訟ニ加ハルコトヲ許可スルヲ得  
 前項ノ場合ニ於テハ行政裁判所ノ判決ハ第三者ニ對シテモ亦其效力ヲ有ス



第三十二條 行政官廳ハ其官吏又ハ其申立ニ依リ主務大臣ヨリ命シタル委員ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムルコトヲ得

代理者ハ委任狀ヲ以テ代人タルコトヲ證明スヘシ

第三十三條 行政裁判所ハ豫メ指定シタル期日ニ於テ原告被告及第三者ヲ召喚シテ審廷ヲ開キ口頭審問ヲ爲スヘシ

原告被告及第三者ニ於テ口頭審問ヲ爲スコトヲ望マサル旨ヲ申立タル場合ニ於テハ行政裁判所ハ文書ニ就キ直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 審廷ニ於テハ原告被告及第三者ノ辯明ヲ聽クヘシ

審廷ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ得タル者ヨリ順次發言スヘシ

原告被告及第三者ハ事實上及法律上ノ點ニ就キ文書ニ盡サ、ル所ヲ補足シ又ハ誤謬ヲ更正シ若クハ新ニ證據ヲ提出シ及證書ヲ指示スルコトヲ得

第三十五條 主務大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ公益ヲ辯護スル爲メ委員ヲ命シ審廷ニ差出スコトヲ得

行政裁判所ハ判決ヲ爲ス前ニ委員ヲシテ意見ヲ陳述セシムヘシ

第三十六條 行政裁判所ノ對審判決ハ之ヲ公開ス

安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリ又ハ行政廳ノ要求アルトキハ行政裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第三十七條 公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムルノ前之ヲ言渡ス

第三十八條 行政裁判所ハ原告被告及第三者ニ出廷ヲ命シ並ニ必要ト認ムル證據ヲ徵シ證人及鑑定人

ヲ召喚シ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

證人又ハ鑑定人トシテ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲スヘキ義務ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス其義務ヲ盡サ、ル場合ニ於テ處分スヘキ科罰ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

行政裁判所ハ口頭審問ニ於テ舉證ノ手續ヲ爲シ又ハ評定官ニ委任シ若クハ通常裁判所又ハ行政廳ニ囑託シテ之カ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十九條 行政裁判所ニ於テ審問中ノ事件ニ關シ民事上ノ訴訟起ルコトアリテ通常裁判ノ確定ヲ待ツノ必要アリト認ムルトキハ其審判ヲ中止スルコトヲ得

第四十條 審問手續ニ關スル故障ノ申立ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

第四十一條 召喚ノ期日ニ於テ原告若クハ被告若クハ第三者出廷セサルコトアルモ行政裁判所ハ其審判ヲ中止セス

原告被告及第三者共ニ出廷セサルトキハ行政裁判所ハ審問ヲ行ハス直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 裁判宣告書ハ理由ヲ付シ裁判長評定官及書記之ニ署名捺印シ其謄本ニ行政裁判所ノ印章ヲ捺シ之ヲ原告被告及第三者ニ交付スヘシ

行政訴訟ノ文書ニハ訴訟用印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第四十三條 行政訴訟手續ニ關シ此法律ニ規程ナキモノハ行政裁判所ノ定ムル所ニ依リ民事訴訟ニ關スル規程ヲ適用スルコトヲ得

第四章 附則

第四十四條 此法律ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

第四十五條 第二十條第二項權限爭議ハ權限裁判所ヲ設クル迄ノ間樞密院ニ於テ之ヲ裁定ス



裁定ノ手續ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四十六條 従前ノ法令ニシテ此法律ト抵触スルモノハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス  
第四十七條 此法律施行ノ前既ニ行政訴訟トシテ受理シ審理中ニ係ルモノハ仍従前ノ成規ニ依リ處分  
スヘシ

○行政裁判所處務規程 明治二十三年八月二十九日  
勅令第九十二號

朕行政裁判所處務規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政裁判所處務規程

- 第一條 行政訴訟各事件ノ掛評定官ハ行政裁判所長官ノ指定ニ依ル
- 第二條 行政裁判法第八條ニ依リ評定官ヲシテ裁判長タラシムルトキハ同法第七條第二項ノ順序ニ從  
ヒ之ヲ命スヘキモノトス
- 第三條 裁判長ハ一事件毎ニ審判準備ノ爲メ掛評定官中ノ一名若ハ二名ニ專理員ヲ指命スルコトヲ得
- 第四條 裁判長行政裁判法第三十八條第二項ノ場合ニ於テ科罰ヲ言渡シタルトキハ書記ヲシテ訴訟ノ  
記録ニ之ヲ記入セシム
- 第五條 毎年七月十一日ヨリ九月十日マテノ間ハ行政裁判所ニ於テ緊急ノ事項ト認ムルモノノ外既ニ  
著手シタル訴訟ヲ中止シ並ニ新ナル訴訟ニ著手セス
- 第六條 行政裁判所ノ總會議ハ評定官總員三分ノ二以上列席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス

- 第七條 總會議ノ議事ハ長官之ヲ整理ス若シ長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス
  - 第八條 行政裁判所ハ訴訟ノ呼出狀及其他ノ書類ヲ使丁若ハ郵便ヲ以テ送達シ又ハ通常裁判所ニ囑託  
シテ送達セシムルコトヲ得
  - 第九條 行政裁判所ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ其職權ニ屬スル事件ニ付告示ヲ發スルコトヲ得
  - 第十條 行政裁判所長官ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ事務取扱ノ順序方法ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ  
得
- 書記ノ職務ニ關スル規程ハ行政裁判所之ヲ定ム

○行政裁判所評定官ノ員數並書記ノ員數及職務ノ件

明治二十三年六月二十八日  
勅令第十一號

朕行政裁判所評定官ノ員數書記ノ員數及職務ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 行政裁判所評定官ノ定員ハ專任十一人トス(明治三十二年七月二十八日  
勅令第三百五十五號ヲ以テ改正)
- 第二條 行政裁判所書記ハ行政裁判法其他法律勅令ニ於テ特定シタル事務ヲ取扱フ
- 第三條 行政裁判所書記ハ往復會計記録其他庶務ニ從事ス
- 第四條 行政裁判所書記ハ行政裁判所長官ノ命令ニ從フ
- 審判ニ關シテハ裁判長ノ命令ニ從フ

行政裁判所處務規程 行政裁判所評定官ノ員數並書記ノ員數及職務ノ件



○行政訴訟豫納金手續  
行政訴訟豫納金手續左ノ通改正ス  
豫納金手續

- 第一條 行政訴訟ヲ爲ス者又ハ參加人トナル者ハ書類送達ノ費用ニ充ツルタメ金貳圓ヲ豫納スヘシ
- 第二條 證人鑑定人ノ喚問其他證據調ニ關シ費用ヲ要スルトキハ其申請者ヨリ之ヲ豫納スヘシ但行政裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ命シタル場合ニ於テハ行政裁判所其豫納者ヲ指定ス(三十二年十一月十六日告示第二號ヲ以テ改正)
- 第三條 訴訟費用確定決定ノ申請ヲ爲ス者ハ書類送達等ノ費用ニ充ツルタメ金壹圓ヲ豫納スヘシ
- 第四條 前三條ノ豫納金ニシテ不足ナルトキハ更ニ追納ヲ爲スヘシ其金額ハ其都度之ヲ定ム
- 第五條 豫納金ハ現金又ハ郵便爲替券ヲ以テ之ヲ行政裁判所ニ納付スヘシ但佛渡局ハ東京郵便電信局麹町支局宛タルヘシ
- 第六條 豫納金ノ殘額アルトキハ事件終局ノ後之ヲ還付ス

○行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件  
行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
明治二十三年十月九日  
法律第六六號

法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタルトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

- 一 海關稅ヲ除ク外租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件
- 二 租稅滯納處分ニ關スル事件
- 三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
- 四 水利及土木ニ關スル事件
- 五 土地ノ官有區分ノ査定ニ關スル事件

○訴願法  
明治二十三年十月九日  
法律第五百五號

朕訴願法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

訴願法

- 第一條 訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付之ヲ提起スルコトヲ得
  - 一 租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件
  - 二 租稅滯納處分ニ關スル事件
  - 三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
  - 四 水利及土木ニ關スル事件
  - 五 土地ノ官民有區分ニ關スル事件

行政訴訟豫納金手續 行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件 訴願法



六 地方警察ニ關スル事件

其他法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件

第二條 訴願セントスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

訴願ノ裁決ヲ受ケタル後更ニ上級行政廳ニ訴願スルトキハ其裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スヘシ

國ノ行政ニ付此法律ニ依リ郡參事會又ハ市參事會ノ處分若ハ裁決ニ對シテ訴願セントスル者ハ其

處分若クハ裁決ヲ爲シタル郡參事會又ハ市參事會ヲ經由シテ府縣參事會ニ之ヲ提起スヘシ

第三條 各省大臣ノ處分ニ對シ訴願セントスル者ハ其省ニ之ヲ提起スヘシ

第四條 裁判所ノ裁判各省ノ裁決及第二條第三項府縣參事會ノ裁決ヲ經タルモノハ其事件ニ付更ニ訴

願スルコトヲ得ス

第五條 訴願ハ文書ヲ以テ之ヲ提起スヘシ

訴願書ノ侮辱誹毀ニ涉ルモノハ之ヲ受理セス

第六條 訴願書ハ其不服ノ要點理由要求及訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ訴

願書ニハ證據書類ヲ添ヘ竝下級行政廳ノ裁決ヲ經タルモノハ其裁決書ヲ添フヘシ

第七條 多數ノ人員共同シテ訴願セントスルトキハ其訴願書ニ各訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ

署名捺印シ其中ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選ヒ之ニ委任シ總代委任ノ正當ナルコトヲ證明スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第八條 行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後二十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ

訴願スルコトヲ得ス

行政廳ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得  
第九條 法律勅令ニ依リ訴願ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキ  
ハ之ヲ却下ス

其訴願書ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還付スヘシ  
第十條 訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得  
郵便遞送ノ日數ハ第八條ノ訴願期限内ニ之ヲ算入セス

第十一條 第二條第一項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ十日

以內ニ辯明書及必要文書ヲ添ヘ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第十二條 第二項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ三日以內ニ上

級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第十三條 第二項ノ場合ニ於テ訴願書ヲ發送スルトキ亦前二項ノ例ニ依ルヘシ

第十四條 訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外行政處分ノ執行ヲ停止セス但行政廳ハ其職

權ニ依リ又ハ訴願人ノ願ニ依リ必要ナリト認ムルトキハ其執行ヲ停止スルコトヲ得

第十五條 訴願ハ口頭審問ヲ爲サス其文書ニ就キ之ヲ裁決ス但行政廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ

口頭審問ヲ爲スコトヲ得

第十六條 訴願ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其理由ヲ付スヘシ訴願ヲ却下スルトキ亦同シ

第十七條 訴願ノ裁決書ハ其處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ訴願人ニ交付スヘシ訴願書ヲ却下

スルトキ亦同シ

第十八條 上級行政廳ニ於テ爲シタル裁決ハ下級行政廳ヲ羈束ス

訴願法



第十七條 訴訟ノ手續ニ關シ他ノ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノハ各其規程ニ依ル

附則

第十八條 明治十五年<sup>十二</sup>月 第五十八號布告請願規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條 此法律施行ノ前請願規則ニ依リ受理シタル請願ハ仍其規則ニ依リ之ヲ處分ス

請願規則ニ依リ下級行政廳ノ指令ヲ受ケタル者訴訟スルヲ得ヘキ場合ニ於テ更ニ訴訟セントスルト

キハ此法律ニ從ヒ其上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

第二十條 第八條ノ訴訟期限ハ此法律施行ノ前行政處分ヲ受ケ又ハ請願規則ニ依リ指令ヲ受ケタル事

件ニシテ其處分又ハ指令ヲ受ケタル日ヨリ滿五年ヲ經過セサルモノニ對シテハ此法律施行ノ日ヨリ

之ヲ起算ス

第二十一條 行政廳ニ呈出スル請願ハ此法律ニ依ルノ限ニ在ラス

雜

○官印製式 明治三十一年八月十二日 閣令第五號

明治八年太政官第百十號達ヲ左ノ通改正ス

公務ニ關シ長官又ハ主任ノ名ヲ以テ上申下達及往復スル書類ニ用キル印章ハ勅任官ハ方九分(曲尺)奏任官ハ方七分(曲尺)判任ハ方六分(曲尺)トシ官名ノミヲ彫刻スヘシ但シ現ニ使用ノ分ハ改刻スルニ及ハス

○社團財團ヲ法人ト爲スニ付申請方 明治三十二年四月二十八日 內務省令第十號

第一條 社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ依リ之ヲ法人ト爲スニ付內務大臣ノ許可ヲ要スルモノハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由シ其ノ申請書ニ通テ差出スヘシ其ノ許可ヲ得テ設立シタル法人及民法施行法第十九條ノ法人ニ於テ內務大臣ノ認可スル場合亦同シ

○條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住

及營業等ニ關スル件 明治三十二年七月二十七日 勅令第三百五十二號

官印製式 社團財團ヲ法人ト爲スニ付申請方 條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業等ニ關スル件



朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 外國人ハ條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル者ト雖從前ノ居留地及雜居地以外ニ於テ居住、移轉、營業其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得但シ勞働者ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ從前ノ居留地及雜居地以外ニ於テ居住シ又ハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス  
勞働者ノ種類及本令施行ニ關スル細則ハ內務大臣之ヲ定ム

第二條 前條第一項但書ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
附則

第三條 本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

第四條 明治二十七年勅令第三百三十七號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業等ニ關スル件施行細則

明治三十二年勅令第三百五十二號條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業等ニ關スル件施行細則左ノ通相定ム

第一條 明治三十二年勅令第三百五十二號第一條ノ行政官廳ハ廳府縣長官トス

第二條 明治三十二年勅令第三百五十二號第一條ノ勞働者ハ農業漁業鑛業土木建築製造運搬挽車仲仕

業其ノ他雜役ニ關スル勞働ニ從事スル者ヲ云フ但シ家事ニ使用セラレ又ハ炊爨若ハ給仕ニ從事スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 勞働者ニ與ヘタル許可ハ廳府縣長官ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ之ヲ取消スコトヲ得

○命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件

朕命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
明治二十三年九月十八日  
法律第八十四號

命令ノ條項ニ違犯スル者ハ各其ノ命令ニ規定スル所ニ從ヒ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

○省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則ノ件

朕省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
明治二十三年九月十八日  
勅令第二百八號

第一條 各省大臣ハ法律ヲ以テ特ニ規定シタル場合ヲ除クノ外其ノ發スル所ノ省令ニ二十五圓以内ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第二條 地方長官及警視總監ハ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以内ノ罰金若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業等ニ關スル件施行細則  
命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件 省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則ノ件 建白書上呈方



得

○建白書上呈方

明治八年十一月二十五日  
太政官布告第七十八號

諸建白書元老院ニ可差出旨本年四月第六十八號ヲ以布告候處自今立法ニ關スルモノハ元老院（其他ハ主任ノ廳へ可差出尤訴訟ニ涉ル事件ニ於テハ成規ノ手續ヲ示シ本人へ可下戻候條此旨布告候事  
但東京ノ外各地方ノ人民ハ管轄廳へ差出該廳ヨリ本文同様主任ノ廳へ轉送可致候事

東京市區改正

○東京市區改正條例

明治二十一年八月十六日  
勅令第六十二號

朕東京市區ノ營業衛生防火及通運等永久ノ便利ヲ圖ル爲メ東京市區改正條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京市區改正條例

第一條 東京市區改正ノ設計及毎年度ニ於テ施行スヘキ事業ヲ議定スル爲メ東京市區改正委員會ヲ置キ内務大臣ノ監督ニ屬セシム其組織權限ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム  
東京市區改正委員會ノ費用ハ市區改正費ヲ以テ之ヲ支辨ス

第二條 東京市區改正委員會ニ於テ市區改正ノ設計ヲ議定シタルトキハ内務大臣ニ具申スヘシ内務大臣ハ審査ノ上内閣ノ認可ヲ受ケ東京府知事ニ付シ之ヲ公告セシムヘシ

第三條 市區改正ノ費用ニ充ツル爲メ東京府「區」部内ニ於テ左ノ特別稅ヲ賦課ス

- 一 地租割
- 一 營業稅並雜種稅
- 一 地租同額以内但耕地ヲ除ク
- 一 地方稅十分ノ四以内
- 一 家屋稅
- 同上

（酒造稅法改正ニ依リ消滅）

第四條 特別稅滯納者ハ租稅滯納處分法ニ依テ處分ス

第五條 市區改正ノ費用ヲ補助スル爲メ東京府「區」部ノ基本財產トシテ即今官用ニ供セサル東京府



「區」部内ノ官有河岸地ハ總テ之ヲ下付ス

此河岸地ヨリ收入スル金額ハ市區改正事業ノ終ルマテ他ニ之ヲ支出スルコトヲ得ス

此河岸地ハ市區改正事業ノ終ルマテ其地租ヲ免除ス

此河岸地ハ賣却讓與スルコトヲ許サス但已ムヲ得サル場合ニ於テハ東京府知事東京府「區」部會ノ議決ヲ取り内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ賣却讓與スルコトヲ得

第六條 市區改正ノ經費及特別稅賦課徵收ノ方法ハ府縣會規則ニ依リ東京府知事東京府「區」部會ニ付シ之ヲ議定セシムヘシ

第七條 第三條第五條ノ收入合計ハ毎年度三十萬圓ヨリ少カラス五十萬圓ヨリ多ラサルモノトス但毎年度雜收入及前年度繰越金ハ本條ノ收入額ニ合算スルコトヲ得ス

第八條 (廿三年八月勅令第百六十九號ヲ以テ削除)

第九條 東京府知事ハ毎年四月ヨリ翌年三月マテヲ一周年度トナシ前年十月マテニ東京市區改正委員會ニ於テ議定シタル市區改正事業ニ屬スル收支豫算ヲ立テ東京府「區」部會ノ議決ヲ取り内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

東京府知事前項ノ認可ヲ受タルトキハ之ヲ東京市區改正委員會ニ報告スヘシ

第十條 東京府知事ハ一周年度ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ東京府「區」部會ニ報告シ然ル後内務大臣大藏大臣及東京市區改正委員會ニ報告スヘシ

第十一條 年度中ニ於テ豫知スヘカラサル事狀ニ由リ既定ノ事業ヲ變更セサルヲ得サルトキハ東京府知事東京市區改正委員會ノ議定ヲ取り内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ施行スルコトヲ得但次回ノ東京府「區」部會ニ之ヲ報告スヘシ

- 第十二條 市區改正ノ爲メ一時巨額ノ支出ヲ要スルトキハ東京府「區」部ハ毎年收入スヘキ特別稅ヲ目的トシ五十箇年以内ノ期限ヲ以テ公債ヲ募集スルコトヲ得其金額及起債ノ方法ハ東京府知事之ヲ定メ東京府「區」部會ノ議決ヲ取り内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十三條 市區改正ニ屬スル會計ハ東京府知事特別ニ整理スヘシ
- 第十四條 市區改正ノ事務ハ東京府知事執行ノ責ニ任スヘシ
- 第十五條 市區改正ニ係ル土地建物處分方法ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十六條 本條例ハ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

○東京市區改正土地建物處分規則 明治二十二年一月二十八日 勅令第五號

朕東京市區改正土地建物處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京市區改正土地建物處分規則

- 第一條 市區改正ニ要スル官有地ハ無料ニテ供用セシメ其地ニ屬スル官有ノ建物植物等ハ無料ニテ交付スヘシ但地方稅ノ經濟ニ屬スルモノハ民有ニ準ス
- 民有地及其地ニ屬スル民有ノ建物植物又ハ官有地ニ在ル民有ノ建物植物等ハ東京府知事其所有者ト協議ノ上相當ノ代價又ハ移轉料ヲ償却スヘシ
- 若シ協議調ハサルトキハ雙方ヨリ評價人各一人ヲ出シ評價セシメ東京府知事之ニ意見ヲ付シ内務大臣ノ決ヲ請ヒ之ヲ定ムヘシ



第二條 市區改正ノ爲メ民有地買上ノ場合ニ於テ一宅地ヲ爲スニ足ラサル殘餘ヲ生スルモノハ併セテ之ヲ買上クヘシ

第三條 市區改正ニ關シ不用ニ歸シタル土地一宅地ヲ爲スニ足ルモノニシテ曩ニ公用土地買上規則又ハ本則第一條ニ依リ買上タルモノハ原價ヲ以テ特ニ舊所有者ニ拂下ヘシ若シ舊所有者之ヲ買受クルコトヲ欲セサルカ又ハ舊所有者ナキモノハ直ニ公賣ニ付スヘシ  
前項ノ土地一宅地ヲ爲スニ足ラサルモノハ其接續地ノ所有者之ヲ買受クヘキモノトス若シ其所有者者之ヲ買受クルコトヲ欲セサルトキハ東京府知事ハ第一條ニ依リ其接續地及建物植物等ヲ買上クヘシ

前條及本條ニ一宅地ト稱スルモノハ市街ノ狀況ニ依リ東京府知事之ヲ定ム

第四條 東京府知事ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ市區改正ニ要スル土地ニ屬スル建物新築増築改築ノ制限ヲ規定シ之ヲ告示スヘシ

其制限内ト雖モ新築増築改築セント欲スル者ハ豫メ東京府知事ノ認可ヲ受クヘシ東京府知事ハ設計著手ノ都合ニ依リ之ヲ認可セサルコトヲ得

若シ之ヲ認可セサルトキハ新築増築改築者ハ其土地及其地ニ屬スル建物植物等ノ代價又ハ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其土地自己ノ所有ニアラサルトキハ通知ヲ以テ其土地賃借ノ契約ヲ解クコトヲ得若シ制限ニ違ヒ又ハ東京府知事ノ認可ヲ受スシテ新築増築改築ヲナシタル者ハ土地買上ノ際其新築増築改築ニ係ル建物ノ代價又ハ移轉料ヲ請求スルコトヲ得ス

第五條 土地建物植物等ノ賣却代金ハ市區改正ノ費用ニ充ツヘシ

酒造稅法改正ニ依リ清酒輸入ノ件消滅

○東京市區改正條例其他二規則ニ關スル件 明治二十三年八月十四日 勅令第七十號

朕東京市區改正條例東京市區改正土地建物處分規則(及東京府區内清酒輸入規則)ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京市區改正條例其他二規則ニ關スル件

第一條 東京市區改正條例東京市區改正土地建物處分規則(及東京府區内清酒輸入規則)ノ規定ニ依リ東京府知事ニ屬スル事務ハ東京市參事會ニ之ヲ屬セシメ東京市部會ニ屬スルモノハ東京市會ニ之ヲ屬セシム

第二條 市區改正ノ費用ヲ補助スル爲メ東京府市部ノ基本財産トシテ下付シタル河岸地ハ之ヲ東京市ニ引繼クヘシ

第三條 明治二十三年度東京市區改正ノ收支豫算ニシテ東京府市部會ノ議定ヲ經タルモノハ東京市ニ於テ之ヲ存續スヘシ

○東京市區改正委員會組織權限 明治二十九年七月三十日 勅令第二百七十九號

朕東京市區改正委員會組織權限ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京市區改正條例其他二規則ニ關スル件 東京市區改正委員會組織權限



東京市區改正委員會組織權限

第一條 東京市區改正委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

委員長 一人

委員

內務省高等官 三人

大藏省高等官 二人

陸軍省高等官 二人

海軍省高等官 一人

農商務省高等官 一人

逓信省高等官 二人

警視廳高等官 一人

東京府高等官 一人

東京市吏員 二人

東京市參事會員 十人

臨時委員 若干人

警視總監東京府知事及東京市長ハ定員ノ外委員トシテ會議ニ列席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

第二條 委員長、高等官及東京市吏員ヨリ出ツル委員、並臨時委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

東京市參事會員ヨリ出ツル委員ハ市參事會員中ヨリ互選ヲ以テ之ニ充ツ

東京市會議員ヨリ出ツル委員ハ市會ニ於テ之ヲ選定ス但シ市會議員ヨリ出ツル委員總テ闕員ニ屬シ市會ニ於テ補闕選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ名譽職參事會員中ヨリ互選ヲ以テ之ニ充ツ

第二項及第三項ノ委員確定シタルトキハ東京市參事會ハ內務大臣及東京市區改正委員會ニ報告スヘシ

第三條 委員長ハ會務ヲ掌理シ議事ヲ整頓ス

委員長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第四條 委員會ハ東京市區改正ノ設計及毎年度ニ於テ施行スヘキ事業其ノ他設計ニ關シ必要ナル事項ヲ議定ス

委員會ニ於テ議決シタル事項ハ其ノ都度內務大臣ニ報告スヘシ

第五條 委員會ノ議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 會議ハ過半数ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ委員長ノ可否スル所ニ依ル

第七條 委員會ニ幹事一人書記若干人ヲ置ク

幹事ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命シ書記ハ委員長之ヲ命ス

第八條 委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ書記ハ委員長幹事ノ指揮ヲ承ケ議事ノ筆記及庶務ニ従事ス

第九條 委員長委員及幹事ニハ一箇年五百圓以內臨時委員ニハ事件ノ輕重ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

書記ニハ一箇月五十圓以內ノ給料ヲ給スルコトヲ得

第九條 技術又ハ學術ニ涉リ其ノ他特ニ調査ヲ要スル場合ニ於テハ委員長ハ委員ノ外何人ト雖其ノ調



查ヲ囑託シ相當ノ報酬ヲ與フルコトヲ得  
 第十條 委員長ハ委員中ヨリ五名以内ヲ選ミ常務委員ト爲シ會議ニ提出スヘキ議案ニ就キ豫メ審査ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第十一條 委員會ハ市區改正ニ關スル事項ニ付各省大臣ノ諮詢ニ應シ又ハ各省大臣ニ建議シ又ハ各廳ニ照會往復スルコトヲ得  
 第十二條 委員會ハ市區改正事業ノ實施ニ方リ委員ヲ派遣シテ之ヲ檢察セシメ設計ニ違フモノアレハ東京市參事會ニ照會シテ其ノ改正ヲ要求シ時宜ニ依リ内務大臣ニ具狀スルコトヲ得

訂正法規類抄下卷畢  
 增補

追加

○小學校令 明治三十三年八月十八日  
 勅令第三百四十四號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ小學校令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

小學校令

第一章 總則

第一條 小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育國民教育ノ基礎並其ノ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス  
 第二條 小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トス  
 尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科ト一校ニ併置スルモノヲ尋常高等小學校トス  
 市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ノ負擔ヲ以テ設置スルモノヲ市町村立小學校トシ私人ノ費用ヲ以テ設置スルモノヲ私立小學校トス  
 第三條 尋常高等小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ尋常小學校ノ規定ヲ準用シ高等小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ高等小學校ノ規定ヲ準用ス但シ文部大臣ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
 第四條 町村組合ニシテ其ノ町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ之ヲ一町村ト同視ス  
 第五條 幼稚園、盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ規程ニ關シテハ本令中別段ノ規定アルモ

小學校令



ノヲ除クノ外文部大臣之ヲ定ム

## 第二章 設置

第六條 市町村ハ其ノ區域内ノ學齡兒童ヲ就學セシムルニ足ルヘキ尋常小學校ヲ設置スヘシ

第七條 郡長ハ一町村ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘスト認メタルトキハ其ノ町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシムヘシ

第八條 郡長ハ一町村ニ於テ就學セシムヘキ兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認メタルトキ又ハ適度ノ通學路程内ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認メタルトキハ左ノ例ニ依ルヘシ

一 其ノ町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシムルコト

二 其ノ町村ヲシテ就學セシムヘキ兒童ノ全部若ハ一部ノ教育事務ヲ他町村、町村學校組合又ハ其ノ區ニ委託セシムルコト

郡長ハ町村ノ一部ニシテ前項ノ事情アルモノ其ノ町村ノ尋常小學校ニ對シ適度ノ通學路程内ニ在ラスト認メタルトキハ亦前項ノ例ニ依ルヘシ

郡長ハ町村學校組合ノ一部ニシテ前項ニ準スヘキ事情アリト認メタルトキハ第一項第二號ノ例ニ準スヘシ

第九條 市立尋常小學校ノ校數並位置ハ府縣知事ニ於テ市ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ

町村立尋常小學校ノ校數並位置ハ郡長ニ於テ町村又ハ町村學校組合ノ意見ヲ聞キ之ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 第七條又ハ第八條ニ依リ郡長ニ於テ町村學校組合ヲ設ケシメ若ハ其ノ組合ヲ解カシメムトス

ルトキハ關係町村ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第八條ニ依リ郡長ニ於テ兒童教育事務ヲ委託セシメ又ハ其ノ委託ヲ止メシメムトスルトキハ關係町村、町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 府縣知事ハ市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ市内ノ一區若ハ數區ニ對シ又ハ市ヲ分畫シテ數區ト爲シ其ノ一區若ハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ノ爲其ノ使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ關係市及區ノ意見ヲ聞クヘシ其ノ之ヲ止メムトスルトキ亦同シ

郡長ハ町村若ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ、兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所數箇所アルトキ又ハ其ノ設置スヘキ尋常小學校ト兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所トアルトキハ町村内若ハ町村學校組合内ノ一區若ハ數區ニ對シ又ハ町村若ハ町村學校組合ヲ分畫シテ數區ト爲シ其ノ一區若ハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル費用ノ負擔又ハ兒童教育事務委託ノ爲其ノ使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ關係町村、町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ止メムトスルトキ亦同シ

第十二條 府縣知事ハ第七條及第八條第一項ノ事情アルモノ同條及第五十三條並第五十四條ニ依ルコトヲ得スト認メタルトキハ其ノ町村ヲシテ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免レシムルコトヲ得

府縣知事ハ第八條第二項又ハ第三項ノ事情アルモノ同項及第五十三條並第五十四條ニ依ルコトヲ得スト認メタルトキハ其ノ町村若ハ町村學校組合ヲシテ其ノ一部ニ關シテハ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免レシムルコトヲ得



第十三條 府縣知事ハ特別ノ事情ニ依リ市立尋常小學校ノ設置又ハ其ノ一部ノ設備ヲ猶豫シ市内ノ私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

郡長ハ特別ノ事情ニ依リ町村立尋常小學校ノ設置若ハ其ノ一部ノ設備又ハ兒童教育事務ノ委託ヲ猶豫シ町村若ハ町村學校組合内ノ私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

私立小學校代用ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 市町村ハ市町村又ハ其ノ區ノ負擔ヲ以テ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得

町村ハ數町村ノ協議ニ依リ町村學校組合ヲ設ケ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得

前項ノ町村學校組合ヲ設ケ又ハ之ヲ解カムトスルトキハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

郡長ハ前項ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第十五條 市町村立高等小學校ノ設置及廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條

私立小學校ノ設置ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ其ノ廢止ハ之ヲ府縣知事ニ届出ツ

第十七條

前三條ノ規定ハ幼稚園、盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ニ關シ之ヲ準用ス

幼稚園、盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ハ之ヲ小學校ニ附設スルコトヲ得

第三章 教科及編制

第十八條 尋常小學校ノ修業年限ハ四箇年トシ高等小學校ノ修業年限ハ二箇年、三箇年又ハ四箇年トス

第十九條 尋常小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、體操トス

土地ノ情況ニ依リ圖畫、唱歌、手工ノ一科目又ハ數科目ヲ加ヘ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルコトヲ得

前項ニ依リ加フル教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第二十條 高等小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、日本歴史、地理、理科、圖畫、唱歌、體操トシ

女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルコトヲ得

修業年限三箇年以上ノ高等小學校ニ於テハ唱歌ヲ闕キ又ハ農業、商業、手工ノ一科目若ハ數科目ヲ加フルコトヲ得

修業年限四箇年ノ高等小學校ニ於テハ英語ヲ加フルコトヲ得

前三項ニ依リ加フル教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第二十一條 小學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得

補習科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第二十二條 小學校ノ教科目中兒童身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル教科目ハ之ヲ其ノ兒童ニ課セサルコトヲ得

第二十三條 小學校ノ教科目ヲ加除シ又ハ隨意科目ト爲サムトスルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ管理者、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

補習科ヲ設置シ若ハ之ヲ廢止シ又ハ高等小學校ノ修業年限ヲ定メムトスルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村若ハ町村學校組合、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 小學校ノ教科用圖書ハ文部省ニ於テ編纂シタルモノ及文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ小學校圖書審査委員會ノ審査ヲ經テ府縣知事之ヲ探定ス

小學校令



補習科ノ教科用圖書ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 府縣知事ノ採定シタル教科用圖書ニシテ其ノ一部ヲ修正シ文部大臣ノ檢定ヲ受ケタルモノハ更ニ審査委員會ノ審査ヲ經ス府縣知事ニ於テ仍採定ノ效力ヲ繼續スルコトヲ得

第二十六條 小學校圖書審査委員會ハ府縣ニ置キ左ニ掲クル者ヲ以テ之ヲ組織ス

- 一 府縣書記官
- 二 府縣視學官
- 三 專任府縣視學
- 四 師範學校長
- 五 師範學校教諭二名
- 六 府縣立中學校長一名
- 七 府縣立高等女學校長一名
- 八 郡視學二名

小學校圖書審査委員會及審査ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第二十七條 小學校ノ休業日ハ日曜日ヲ除クノ外毎年九十日ヲ超ユルコトヲ得ス但シ補習科ハ此ノ限ニ在ラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ日數ヲ増加スルコトヲ得傳染病豫防ノ爲必要アルトキ其ノ他非常變災アルトキハ監督官應ニ於テ臨時小學校ノ閉鎖ヲ命スヘシ其ノ急迫ノ事情アル場合ニ於テハ市町村立小學校ニ在リテハ管理者、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ之ヲ閉鎖スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ監督官應ニ届出ツヘシ

第二十八條 小學校教則及小學校編制ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四章 設備

第二十九條 小學校ニ於テハ校舍、校地、校具及體操場ヲ備フヘシ

第三十條 校舍、校地、校具及體操場ハ非常變災ノ場合ヲ除クノ外小學校ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事情ニ依リ監督官應ニ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 小學校ノ設備ニ關スル規程ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ定ム

第五章 就學

第三十二條 兒童滿六歲ニ達シタル翌月ヨリ滿十四歲ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

學齡兒童ノ學齡ニ達シタル月以後ニ於ケル最初ノ學年ノ始ヲ以テ就學ノ始期トシ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルトキヲ以テ就學ノ終期トス

學齡兒童保護者ハ就學ノ始期ヨリ其ノ終期ニ至ル迄學齡兒童ヲ就學セシムルノ義務ヲ負フ

學齡兒童保護者ト稱スルハ學齡兒童ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ親權ヲ行フ者ナキトキハ其ノ後見人ヲ謂フ

第三十三條 學齡兒童瘋癩白痴又ハ不具癡疾ノ爲就學スルコト能ハスト認メタルトキハ市町村長ハ監督官應ノ認可ヲ受ケ學齡兒童保護者ノ義務ヲ免除スルコトヲ得

學齡兒童病弱又ハ發育不完全ノ爲就學セシムヘキ時期ニ於テ就學スルコト能ハスト認メタルトキハ市町村長ハ監督官應ノ認可ヲ受ケ其ノ就學ヲ猶豫スルコトヲ得

市町村長ニ於テ學齡兒童保護者貧窮ノ爲其ノ兒童ヲ就學セシムルコト能ハスト認メタルトキ亦前二項ニ準ス

小學校令

下卷 追加一七



第三十四條 第十二條ニ依リ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免セラレタル區域内ノ學齡兒童保護者ハ其ノ義務ヲ免除セラレタルモノトス

第三十五條 尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭スル者ハ其ノ雇傭ニ依リテ兒童ノ就學ヲ妨クルコトヲ得ス

第三十六條 學齡兒童保護者ハ就學セシムヘキ兒童ヲ市町村立尋常小學校又ハ之ニ代用スル私立小學校ニ入學セシムヘシ但シ市町村長ノ認可ヲ受ケ家庭又ハ其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシムルコトヲ得

官立又ハ府縣立學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ハ兒童就學ニ關シテハ市町村立尋常小學校ト同視ス

第三十七條 兒童ノ年齡就學ノ始期ニ達セサル者ハ之ヲ小學校ニ入學セシムルコトヲ得ス

第三十八條 小學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ處アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨アリト認メタル兒童ノ小學校ニ出席スルヲ停止スルコトヲ得

### 第六章 職員

第三十九條 小學校ノ教科ヲ教授スル者ヲ本科正教員トシ其ノ教科目中圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、商業又ハ手工ノ一科目若ハ數科目ヲ限リ教授スル者ヲ專科正教員トス

第四十條 小學校教員タルヘキ者ハ免許狀ヲ受クヘシ  
免許狀ハ普通免許狀及府縣免許狀ノ二種トス  
普通免許狀ハ文部大臣之ヲ授與シ全國ニ通シテ有效トス

府縣免許狀ハ府縣知事之ヲ授與シ其ノ府縣限リ有效トス

第四十一條 府縣免許狀ヲ受クルニハ師範學校若ハ文部大臣ノ指定シタル學校ヲ卒業シ又ハ小學校教員ノ檢定ニ合格スルコトヲ要ス

前項ノ檢定ヲ施行スルカ爲メ府縣ニ小學校教員檢定委員會ヲ置ク

第四十二條 特別ノ事情アルトキハ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ小學校准教員ニ代用スルコトヲ得

代用教員ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十三條 市町村立小學校長ハ其ノ學校ノ本科正教員ヲシテ之ヲ兼テシムヘシ

第四十四條 市立小學校長及教員ノ任用ハ市長ノ申請ニ依リ町村立小學校長及教員ノ任用ハ郡長ノ申請ニ依リ府縣知事之ヲ行フ

市町村立小學校長及教員ノ解職ハ府縣知事之ヲ行フ

第四十五條 市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與並其ノ支給方法ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ定ム

第四十六條 小學校長及教員ノ進退、職務及服務ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十七條 小學校長及教員ハ教育上必要ト認メタルトキハ兒童ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得但シ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

第四十八條 市町村立小學校長及教員職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ府縣知事ニ於テ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ譴責、減俸及免職トス

小學校令



私立小學校校長及教員ニシテ前項ニ準スヘキ所爲アリタルトキハ府縣知事ハ其ノ業務ヲ停止ス

第四十九條 小學校教員免許狀ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ效力ヲ失フ

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 信用若ハ風俗ヲ害スルノ罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキ

三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ

小學校教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認メタルトキハ文部大臣又ハ府縣知事ニ於テ其ノ免許狀ヲ褫奪ス

第五十條 府縣知事ニ於テ行ヒタル免職若ハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ不服アル者ハ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七章 費用負擔及授業料

第五十一條 市町村立小學校ノ設置ニ關スル費用ハ市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ノ負擔トス其ノ

概目左ノ如シ

一 設備及其ノ維持ノ費用

二 職員ノ俸給、旅費、其ノ他諸給與

三 校費

兒童教育事務委託ニ關スル費用ハ町村、町村學校組合又ハ其ノ區ノ負擔トス

第五十二條 郡長ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ又ハ兒童教育事務ノ委託

ヲ要スル場所アルトキハ其ノ學校組合内ノ某町村ヲシテ其ノ數校中ノ一校若ハ數校ノ設置又ハ兒童教育事務委託ニ關スル費用ヲ一町村限リ負擔セシムルコトヲ得

前項ノ處分ヲ爲シ又ハ之ヲ止メムトスルトキハ關係町村及町村學校組合ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第五十三條 郡長ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリト認メタルトキハ郡ハ町村又ハ町村學校組合ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

一 町村ニシテ第七條ノ事情アルモ同條ニ依ルコトヲ得サルトキ

二 町村學校組合ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ又ハ町村學校組合ノ一部タル町村ノ資力其ノ學校組合費ノ負擔ニ堪ヘサルトキ

三 町村又ハ町村學校組合ノ資力兒童教育事務委託ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ

前項ノ認定ニ付テハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第五十四條 府縣知事ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリト認メタルトキハ府縣ハ郡又ハ市ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

一 郡ノ資力第五十三條ノ補助ノ負擔ニ堪ヘサルトキ

二 市ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ

前項ノ認定ニ付テハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第五十五條 區長及其ノ代理者並學務委員ニ於テ國ノ教育事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ市町村又ハ町村學校組合ノ負擔トス但シ區長及其ノ代理者並區ノ學務委員ニ關スル費用ハ市町村會又ハ町村學校組合ノ議決ヲ以テ之ヲ區ノ負擔ト爲スコトヲ得

第五十六條 小學校教員檢定並小學校教科用圖書審查及府縣免許狀ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第五十七條 市町村立尋常小學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得ス但シ補習科ハ此ノ限ニ在ラス



特別ノ事情アルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受ケ市町村立尋常小學校ニ於テ授業料ヲ徵收スルコトヲ得  
第五十八條 市町村立小學校ノ授業料ハ市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ノ收入トス  
第五十九條 授業料ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第八章 管理及監督

第六十條 市町村長又ハ町村學校組合長ハ市町村又ハ町村學校組合ニ屬スル國ノ教育事務ヲ管掌シ  
市町村立小學校ヲ管理ス  
第六十一條 府縣知事ハ市町村又ハ町村學校組合ノ區長及其ノ代理者ヲシテ市町村長又ハ町村學校組  
合長ノ指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得  
第六十二條 市町村ハ教育事務ノ爲メ市制第六十一條町村制第六十五條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但シ  
市會町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラズ  
町村學校組合ハ教育事務ノ爲メ條例ノ規定ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ  
市町村又ハ町村學校組合ハ教育事務ノ爲メ條例ノ規定ニ依リ其ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得  
學務委員ニハ市町村立小學校男教員ヲ加フヘシ  
委員中教員ヨリ出ツル者ハ市町村長又ハ町村學校組合長之ヲ任免ス  
第六十三條 學務委員ノ職務其ノ他學務委員ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム  
第六十四條 市町村吏員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ市制第百  
二十四條町村制第二百二十八條ノ規定ニ依ル  
第六十五條 市立小學校長及教員ノ執行スル國ノ教育事務ハ府縣知事之ヲ監督シ町村立小學校長及教  
員ノ執行スル國ノ教育事務ハ郡長之ヲ監督ス

第六十六條 私立小學校ニシテ市内ニ在ルモノハ府縣知事之ヲ監督シ町村内ニ在ルモノハ郡長之ヲ監  
督ス

第九章 附則

第六十七條 本令ハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ小學校ノ教科目並教則及授業料ノ徵收  
ニ關シテハ明治三十四年三月三十一日ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル  
第六十八條 本令ハ市制町村制ヲ施行シタル地ニ之ヲ施行ス  
第六十九條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三十三條ニ依リ設ケタル町村學校組合ハ明治  
三十八年三月三十一日ニ至ル迄之ヲ存続スルコトヲ得  
第七十條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三條及第四條ニ依リ小學校ニ於テ加設シタル  
教科目中本令ノ規定ニ牴觸スルモノ又ハ同令第六條ニ依リ高等小學校ニ於テ專修科ヲ置キタルモノ  
ハ明治三十三年九月一日ニ於テ現ニ學習スル兒童ノ卒業スルニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得  
明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三條ニ依リ體操科ヲ闕ケル尋常小學校ニ於テハ明治三十  
六年三月三十一日迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得  
第七十一條 既設ノ尋常小學校ニシテ體操場ノ設備ナキモノハ明治三十八年三月三十一日迄其ノ設備  
ヲ猶豫ス  
前項ノ場合ニ於テハ其ノ猶豫ノ期間内體操科ヲ闕クコトヲ得  
第七十二條 本令施行前ニ授與シタル小學校教員免許狀ハ本令施行後仍其ノ效力ヲ有ス但シ小學校專  
科准教員ノ免許狀ハ此ノ限ニ在ラズ  
第七十三條 明治二十六年勅令第四百四號及明治三十年勅令第三百十六號ハ之ヲ廢止ス

小學校令



明治二十六年勅令第三十四號及明治三十年勅令第四百七號、明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ廢止ス

一四

○小學校令施行規則

明治三十三年八月廿一日  
文部省令第十四號

小學校令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ  
小學校令施行規則

- 第一章 教科及編制
  - 第一節 教科
  - 第二節 學年、休業日及式日
  - 第三節 編制
  - 第四節 補習科
  - 第五節 圖書審查及探定
- 第二章 設備準則
- 第三章 就學
- 第四章 教員檢定及免許狀
  - 第一節 教員ノ檢定
  - 第二節 教員ノ免許狀
- 第五章 職員
  - 第一節 學校長及教員ノ進退

- 第二節 學校長及教員ノ職務及服務
- 第三節 懲戒處分、業務停止及免許狀褫奪
- 第四節 俸給、旅費及諸給與準則
- 第五節 代用教員
- 第六章 授業料
- 第七章 學務委員
- 第八章 代用私立小學校
- 第九章 幼稚園及小學校ニ類スル各種學校
- 第十章 附則

小學校令施行規則

第一章 教科及編制

第一節 教科

第一條 小學校ニ於テハ小學校令第一條ノ旨趣ヲ遵守シテ兒童ヲ教育スヘシ  
道徳教育及國民教育ニ關聯セル事項ハ何レノ教科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス  
知識技能ハ常ニ生活ニ必須ナル事項ヲ選ヒテ之ヲ教授シ反覆練習シテ應用自在ナラシメンコトヲ務ムヘシ  
兒童ノ身體ヲ健全ニ發達セシメンコトヲ期シ何レノ教科目ニ於テモ其ノ教授ハ兒童ノ心身發達ノ程度ニ副ハシメンコトヲ要ス  
男女ノ特性及其ノ將來ノ生活ニ注意シテ各、適當ノ教育ヲ施サンコトヲ務ムヘシ

小學校令施行規則

下卷(追加)一五



各教科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス  
第二條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キテ兒童ノ徳性ヲ涵養シ道徳ノ實踐ヲ指導スルヲ以テ要  
旨トス

尋常小學校ニ於テハ初ハ孝悌、親愛、勤儉、恭敬、信實、義勇等ニ就キ實踐ニ適切ナル近易ノ事項  
ヲ授ケ漸ク進ミテハ國家及社會ニ對スル責務ノ一斑ニ及ホシ以テ品位ヲ高メ志操ヲ固クシ且進取ノ  
氣象ヲ長シ公德ヲ尙ハシメ忠君愛國ノ志氣ヲ養ハントヲ務ムヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ擴メテ一層陶冶ノ功ヲ堅實ナラシメンコトヲ務ムヘシ  
女兒ニ在リテハ特ニ貞淑ノ徳ヲ養ハントニ注意スヘシ  
修身ヲ授クルニハ嘉言善行及諺辭等ニ基キテ勸戒シ常ニ之ヲ服膺セシメンコトヲ務ムヘシ

第三條 國語ハ普通ノ言語、日常須知ノ文字及文章ヲ知ラシメ正確ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ養ヒ兼テ  
智徳ヲ啓發スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初ハ發音ヲ正シ假名ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ知ラシメ漸ク進ミテハ日常須  
知ノ文字及近易ナル普通文ニ及ホシ又言語ヲ練習セシムヘシ

高等小學校ニ於テハ稍進ミタル程度ニ於テ日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ  
授ケ又言語ヲ練習セシムヘシ

讀ミ方、書キ方、綴リ方ハ各其ノ主トスル所ニ依リ教授時間ヲ區別スルコトヲ得ルモ特ニ注意シ  
テ相聯絡セシメンコトヲ要ス

讀本ノ文章ハ平易ニシテ國語ノ模範ト爲リ且兒童ノ心情ヲ快活純正ナラシムルモノナルヲ要シ其ノ  
材料ハ修身、歴史、地理、理科其ノ他生活ニ必須ナル事項ニ取リ趣味ニ富ムモノタルヘシ

女兒ノ學級ニ用フル讀本ニハ特ニ家事上ノ事項ヲ交フヘシ

文章ノ綴リ方ハ讀ミ方又ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項兒童ノ日常見聞セル事項及處世ニ必須ナ  
ル事項ヲ記述セシメ其ノ行文ハ平易ニシテ旨趣明瞭ナランコトヲ要ス

書キ方ニ用フル漢字ノ書體ハ楷書行書ノ一種若ハ二種トス  
國語ヲ授クル際ニハ常ニ其ノ意義ヲ明瞭ニシ且既修ノ文字ヲ以テ通常ノ人名、地名等ニ應用セシメ  
單語、短句、短文ヲ書取ラシメ若ハ改作セシメテ假名及語句ノ用法ニ習熟セシメンコトヲ務ムヘシ  
他ノ教科目ヲ授クル際ニ於テモ常ニ言語ノ練習ニ注意シ又文字ヲ書カシムルトキハ其ノ字形及字行  
ヲ正シクセシメンコトヲ要ス

第四條 算術ハ日常ノ計算ニ習熟セシメ生活上必須ナル知識ヲ與ヘ兼テ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ  
要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初ハ十以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル數ヘ方、書キ方及加減乗除ヲ授ケ漸ク其ノ範  
圍ヲ擴メテ百以下ノ數ニ及ホシ更ニ進ミテ通常ノ加減乗除並ニ小數ノ呼ビ方、書キ方及簡易ナル加  
減ヲ授ケ漸次本邦度量衡、貨幣及時ノ制ノ大要ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ初ハ尋常小學校ニ於テ授ケタル事項ヲ擴メテ學習セシメ漸ク進ミテハ簡易ナル  
小數、分數及比例ヲ授ケ又學校ノ修業年限ニ應シ更ニ稍複雑ナル比例及日常適切ノ百分算ニ及ホ  
シ土地ノ情況ニ依リテハ簡易ナル求積若ハ日用簿記ノ大要ヲ授ケ又ハ之ヲ併セ授クヘシ

算術ハ筆算ヲ用フヘシ土地ノ情況ニ依リテハ珠算ヲ併セ用フルコトヲ得  
算術ヲ授クルニハ理會ヲ精確ニシ運算ニ習熟シテ應用自在ナラシメンコトヲ務メ又運算ノ方法及理  
由ヲ正確ニ説明セシメ且暗算ニ習熟セシメンコトヲ要ス



算術ノ問題ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項及土地ノ情況ヲ斟酌シテ日常適切ナルモノヲ選フヘシ

第五條 日本歴史ハ國體ノ大要ヲ知ラシメ兼テ國民タルノ志操ヲ養フヲ以テ要旨トス  
日本歴史ハ建國ノ體制、皇統ノ無窮、歷代天皇ノ盛業、忠良賢哲ノ事蹟、國民ノ武勇、文化ノ由來、外國トノ關係等ノ大要ヲ授ケ以テ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ事歴ヲ知ラシムヘシ  
日本歴史ヲ授クルニハ成ルヘク圖畫、地圖、標本等ヲ示シ兒童ヲシテ當時ノ實狀ヲ想像シ易カラシメ特ニ修身ノ教授事項ト聯絡セシメントヲ要ス

第六條 地理ハ地球ノ表面及人類生活ノ狀態ニ關スル知識ノ一斑ヲ得シメ又本邦國勢ノ大要ヲ理會セシメ兼テ愛國心ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

地理ハ本邦ノ地勢、氣候、區劃、都會、產物、交通等竝ニ地球ノ形狀、運動等ノ大要ヲ理會セシメ又學校ノ修業年限ニ應シ各大陸ノ地勢、氣候、區劃、交通等ノ概略ヨリ進ミテ本邦トノ關係ニ於テ重要ナル諸國ノ都會、產物等ヲ知ラシメ且本邦ノ政治經濟上ノ狀態竝ニ外國ニ對スル地位等ノ大要ヲ授クヘシ

地理ヲ授クルニハ成ルヘク實地ノ觀察ニ基キ又地球儀、地圖、標本、寫真等ヲ示シテ確實ナル知識ヲ得シメ特ニ歴史及理科ノ教授事項ト聯絡セシメントヲ要ス

第七條 理科ハ通常ノ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ノ一斑ヲ得シメ其ノ相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシメ兼テ觀察ヲ精密ニシ自然ヲ愛スルノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス

理科ハ植物、動物、礦物及自然ノ現象ニ就キ主トシテ兒童ノ目撃シ得ル事項ヲ授ケ特ニ重要ナル植物、動物ノ名稱、形狀、效用及發育ノ大要ヲ知ラシメ又學校ノ修業年限ニ應シ更ニ通常ノ物理化學上ノ現象、重要ナル元素及化合物、簡易ナル器械ノ構造、作用、人身ノ生理衛生ノ大要ヲ授ケ兼テ

植物、動物、礦物ノ相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシムヘシ  
理科ニ於テハ務メテ農事、水産、工業、家事等ニ適切ナル事項ヲ授ケ特ニ植物、動物等ニ就キ教授スル際ニハ之ヲ以テ製スル重要ナル加工品ノ製法、效用等ノ概略ヲ知ラシムヘシ

理科ヲ授クルニハ成ルヘク實地ノ觀察ニ基キ若ハ標本、模型、圖畫等ヲ示シ又簡單ナル實驗ヲ施シ明瞭ニ理會セシメントヲ要ス

第八條 圖畫ハ通常ノ形體ヲ看取シ正シク之ヲ畫クノ能ヲ得シメ兼テ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス  
尋常小學校ノ教科ニ圖畫ヲ加フルトキハ單形ヨリ始メ漸ク簡單ナル形體ニ及ホシ時々直線、曲線ニ基キタル諸形ヲ工夫シテ之ヲ畫カシムヘシ

高等小學校ニ於テハ初ハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メ實物若ハ手本ニ就キ又時々自己ノ工夫ヲ以テ畫カシムヘシ土地ノ情況ニ依リテハ簡易ナル幾何畫ヲ授クルコトヲ得

圖畫ヲ授クルニハ成ルヘク他ノ教科目ニ於テ授ケタル物體及兒童ノ日常目撃セル物體中ニ就キテ之ヲ畫カシメ兼テ清潔ヲ好ミ綿密ヲ尙フノ習慣ヲ養ハントニ注意スヘシ

第九條 唱歌ハ平易ナル歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ兼テ美感ヲ養ヒ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス  
尋常小學校ノ教科ニ唱歌ヲ加フルトキハ譜表ヲ用フルコトナク平易ナル單音唱歌ヲ授クヘシ  
高等小學校ニ於テハ初ハ前項ニ準シ漸ク譜表ヲ用ヒテ單音唱歌ヲ授クヘシ歌詞及樂譜ハ平易雅正ニシテ兒童ノ心情ヲ快活純美ナラシムルモノタルヘシ

第十條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ以テ全身ノ健康ヲ保護増進シ精神ヲ快活ニシテ剛毅ナラシメ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス  
尋常小學校ニ於テハ初ハ適宜ニ遊戲ヲ爲サシメ漸ク普通體操ヲ加ヘ授クヘシ



高等小學校ニ於テハ普通體操ヲ授ケ又遊戯ヲ爲サシメ男兒ニハ兵式體操ヲ加ヘ授クヘシ  
土地ノ情況ニ依リ體操ノ教授時間ノ一部若ハ教授時間ノ外ニ於テ適宜ノ戶外運動ヲ爲サシメ又水泳  
ヲ授クルコトアルヘシ

體操ノ教授ニ依リテ習成シタル姿勢ハ常ニ之ヲ保タシメンコトヲ務ムヘシ

第十一條 裁縫ハ通常ノ衣類ノ縫ヒ方及裁チ方等ニ習熟セシメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨  
トス

尋常小學校ノ教科ニ裁縫ヲ加フルトキハ運針法ヨリ始メ漸ク簡易ナル衣類ノ縫ヒ方ヲ授ケ又便宜通  
常ノ衣類ノ縫ヒ方等ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ初ハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メ通常ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方繕ヒ方ヲ授ク  
ヘシ

裁縫ハ其ノ材料ヲ日常所用ノモノニ取リ之ヲ授クル際用具ノ使用方、材料ノ品類、性質及衣類ノ保  
存方、洗濯方等ヲ教示スヘシ

第十二條 手工ハ簡易ナル物品ヲ製作スルノ能ヲ得シメ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

手工ハ紙、絲、粘土、麥稈、木、竹、金屬等其ノ土地ニ適切ナル材料ヲ用ヒテ簡易ナル細工ヲ授クヘシ  
手工ヲ授クル際ニハ用具ノ使用方、材料ノ品類性質等ヲ教示スヘシ

第十三條 農業ハ農業ニ關スル普通ノ知識ヲ得シメ農業ノ趣味ヲ長シ勤勉利用ノ心ヲ養フヲ以テ要旨  
トス

農事ハ土壤、水利、肥料、農具、耕耘、栽培、養蠶、養畜等ニ就キ土地ノ情況ニ適切ニシテ兒童ノ理  
會シ易キ事項ヲ授クヘシ

水産ヲ加フルトキハ漁撈、養殖、製造等ニ就キ其ノ土地ノ業務ニ適切ナルモノヲ授クヘシ  
農業ヲ授クルニハ特ニ地理、理科等ノ教授事項ト關聯シ時々其ノ土地實際ノ業務ニ就キテ示教シ其  
ノ知識ヲ確實ナラシメンコトヲ務ムヘシ

第十四條 商業ハ商業ニ關スル普通ノ知識ヲ得シメ勤勉敏捷ニシテ且信用ヲ重スルノ習慣ヲ養フヲ以  
テ要旨トス

商業ハ學校所在ノ地方ニ於ケル賣買、金融、運輸、保險其ノ他商業ニ關スル重要ナル事項ニシテ兒  
童ノ理會シ易キモノヲ選ヒ國語、算術、地理、理科等ノ教授事項ト關聯シテ之ヲ授ケ又簡易ナル商用  
簿記ヲ授クヘシ

第十五條 英語ハ簡易ナル會話ヲ爲シ又近易ナル文章ヲ理解スルヲ得シメ處世ニ資スルヲ以テ要旨ト  
ス

英語ハ發音ヨリ始メ進ミテ單語、短句及近易ナル文章ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方竝ニ話シ方ヲ授ク  
ヘシ

英語ノ文章ハ純正ナルモノヲ選ヒ其ノ事項ハ兒童ノ知識ノ程度ニ伴ヒ趣味ニ富ムモノタルヘシ  
英語ヲ授クルニハ常ニ實用ヲ主トシ又發音ニ注意シ正シキ國語ヲ以テ譯解セシメンコトヲ務ムヘシ

第十六條 小學校ニ於テ教授ニ用フル假名及其ノ字體ハ第一號表ニ、字音假名遣ハ第二號表下欄ニ依  
リ又漢字ハ成ルヘク其ノ數ヲ節減シテ應用廣キモノヲ選フヘシ

尋常小學校ニ於テ教授ニ用フル漢字ハ成ルヘク第三號表ニ掲クル文字ノ範圍内ニ於テ之ヲ選フヘ  
シ

第十七條 尋常小學校各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ第四表ニ依ルヘシ但シ土地ノ情況ニ依リ

小學校令施行規則

下卷(追加)二一



學校長ニ於テ體操ノ每週教授時數中ヨリ一時ヲ減スルコトヲ得

圖畫、唱歌、手工、裁縫ノ一科目若ハ數科目ヲ加フルトキハ其ノ每週教授時數ハ學校長ニ於テ他ノ教科目ノ每週教授時數中ヨリ四時以下ヲ減シ之ニ充ツヘシ

半日小學校ノ教科目ノ每週教授時數ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條 高等小學校各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ第五號表乃至第七號表ニ依ルヘシ  
理科、唱歌ノ一科目若ハ二科目ヲ關クトキハ其ノ每週教授時數ハ學校長ニ於テ他ノ教科目ニ配當スルコトヲ得

手工、農業、商業、英語ノ一科目若ハ數科目ヲ加フルトキハ其ノ每週教授時數ハ學校長ニ於テ他ノ教科目中ノ每週教授時數中ヨリ二時ヲ減シテ之ニ充テ尙不足スルトキハ男兒ニ限リ每週教授時數ニ二時ヲ加ヘ之ニ充ツヘシ

第十九條 前二條ノ規定ニ依リ難キ事情アルトキハ管理者又ハ設立者ハ其ノ事情ヲ具シ府縣知事ノ認可ヲ受ケ左ノ制限内ニ於テ其ノ時數ヲ増減スルコトヲ得

一 尋常小學校ノ每週教授時數ハ二十八時ヲ超エ又十八時ヲ下ルコトヲ得ス但シ半日小學校ニ在リテハ此ノ限ニアラス

二 高等小學校ノ每週教授時數ハ三十時ヲ超エ又二十四時ヲ下ルコトヲ得ス

第二十條 學校長ハ夏季冬季休業日ノ前後各々二十日以内ニ於テ毎日ノ教授時數ヲ減スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ教授時數ヲ減スルトキハ學校長ニ於テ便宜各教科目ノ每週教授時數ヲ斟酌スヘシ

第二十一條 尋常小學校若ハ高等小學校ニ於テ數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制スルトキハ各學年ノ程度ニ拘ラス全部又ハ一部ノ兒童ヲ同一ノ程度ニ依リ教授スルコトヲ得

第二十二條 學校長ハ其ノ小學校ニ於テ教授スヘキ各教科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ

第二十三條 小學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了若ハ全教科ノ卒業ヲ認ムルニハ別ニ試験ヲ用フルコトナク兒童平素ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ

第二十四條 學校長ハ修業年限ノ終ニ於テ尋常小學校若ハ高等小學校ノ教科ヲ修了セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

校長ハ學年末ニ於テ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書、第二十一條ノ規定ニ依リ一學年間學習セシ者ニハ學習證書ヲ與フルコトヲ得

第二節 學年、休業日及式日

第二十五條 小學校ノ學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル  
小學校ノ學期ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第二十六條 毎日ノ教授終始ノ時刻ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第二十七條 小學校ノ休業日ハ左ノ如シ

一 祝日、大祭日

二 日曜日

三 夏季休業日

四 冬季休業日

五 學年末休業日



六 其ノ他府縣知事ノ定ムル休業日

前項第三號乃至第五號ノ休業日數ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第二十八條 紀元節、天長節及一月一日ニ於テハ職員及兒童、學校ニ參集シテ左ノ式ヲ行フヘシ

一 職員及兒童「君カ代」ヲ合唱ス

二 職員及兒童ハ

天皇陛下

皇后陛下ノ御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ

三 學校長ハ教育ニ關スル勅語ヲ奉讀ス

四 學校長ハ教育ニ關スル勅語ニ基キ聖旨ノ在ル所ヲ誨告ス

五 職員及兒童ハ其ノ祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス

御影ヲ拜戴セサル學校及特ニ府縣知事ノ認可ヲ受ケ復寫シタル御影若ハ府縣知事ニ於テ適當ト認めタル御影ヲ奉藏セサル學校ニ於テハ前項二號ノ式ヲ闕ク又唱歌ヲ課セサル學校ニ於テハ第一號及第五號ノ式ヲ闕クコトヲ得

第三節 編制

第二十九條 小學校ノ學級數ハ十二學級以下トス

特別ノ事情ニ依リ小學校ニ於テ分教場ヲ設クルトキハ一分教場ノ學級數ハ二學級以下トシ前項ノ制限外ト爲スコトヲ得

第三十條 一學級ノ兒童數ハ尋常小學校ニ在リテハ七十人以下、高等小學校ニ在リテハ六十人以下トス

特別ノ事情アルトキハ前項ノ制限ヲ超過シテ各十人マテヲ増スコトヲ得

第三十一條 尋常小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ同一學年ノ女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキハ男女ニ依リ該學年ノ學級ヲ別ツヘシ

第一學年及第二學年ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

高等小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ全校女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキハ男女ニ依リ學級ヲ別ツヘシ

第三十二條 正教科ノ兒童ト補習科ノ兒童トヲ合シテ學級ヲ編制スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニアラス

第三十三條 修身、體操、唱歌、裁縫又ハ手工ハ數學級ノ全部又ハ一部ノ兒童ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ尋常小學校若ハ其ノ分教場ニ於テハ兒童ヲ二部ニ分チ其一ノ一部ノ教授了リタル後他ノ一部ヲ教授スルコトヲ得

一 兒童ノ數七十人以上百四十人未満ニシテ本科正教員一人及准教員一人ヲ置クコト能ハサルトキ

二 兒童ヲ同時ニ容ル、ニ足ルヘキ校舍ノ設ナキトキ

前項ノ場合ニ於テハ毎日ノ教授時數ヲ各部三時以上トス但シ年少ノ部ニ在リテハ之ヲ二時ト爲スコトヲ得

第三十五條 小學校ニ於テハ各學級ニ本科正教員一人ヲ置クヘシ  
小學校ニ於テ各學級ニ置クヘキ本科正教員ヲ得難キトキハ二學級毎ニ本科正教員一人及准教員一人ヲ置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ准教員ハ正教員ノ指揮ヲ承ケ兒童ヲ教授スヘシ



特別ノ事情アルトキハ前二項ノ規定ニ依ル外尙准教員ヲ置キ兒童ノ教授ヲ補助セシムルコトヲ得  
第三十六條 六學級以上ノ小學校ニ於テハ學校長ノ擔任スル教授ヲ補助スル爲正教員一人若ハ准教員一人ヲ置クコトヲ得

第三十七條 小學校ニ於テハ適宜專科正教員ヲ置クコトヲ得

第三十八條 補習科ノ學級數ハ第二十九條ニ規定シタル學級數ノ制限外トス但シ其ノ教授時間ヲ正教員ノ教授時間内ニ定メタルトキハ此ノ限ニアラス

第三十九條 全校兒童ヲ一學級ニ編制スル學校ヲ單級小學校トシ二學級以上ニ編制スル學校ヲ多級小學校トス

第三十四條ノ規定ニ依リ兒童ヲ二部ニ分テ教授スル學校ヲ半日小學校トス

第四十條 第三十二條但書ノ規定ニ依リ正教科ノ兒童ト補習科ノ兒童トヲ合シテ學級ヲ編制スルトキ及第三十四條ノ規定ニ依リ半日小學校ヲ設クルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村又ハ町村學校組合ニ於テ、代用私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ  
第四十一條 小學校ノ學級ヲ編制シ又ハ變更シタルトキハ遲滞ナク管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ニ届出ツヘシ

第四節 補習科

第四十二條 補習科ハ分テ尋常小學校補習科及高等小學校補習科トス

尋常小學校補習科ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者及之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲシテ尋常小學校ノ教科目ヲ補習セシムルヲ以テ目的トス

高等小學校補習科ハ高等小學校ヲ卒業シタル者及之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲシテ高等小學校

ノ教科目ヲ補習セシムルヲ以テ目的トス

第四十三條 補習科ノ教科目ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ムヘシ

前項ノ規定ニ依リ定メタル教科目ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第四十四條 補習科ノ教科用圖書ハ學校長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十五條 補習科ノ教科ヲ授クルニハ其ノ土地ノ業務ニ適切ナル事項ヲ交フヘシ

第四十六條 補習科ノ修業年限ハ二箇年以下トシ市町村村學校組合又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十七條 補習科ノ教授ハ一定ノ季節ヲ選ヒテ之ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 補習科ノ教授日及教授時間ハ兒童ノ便宜ヲ圖リ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ムヘシ

補習科ノ每週教授時數ハ三時以上十二時以下トス但シ裁縫ノ爲ニハ尙每週十二時以下ニ於テ教授時數ヲ増スコトヲ得

第四十九條 高等小學校補習科ノ學級ハ男女ヲ合シテ之ヲ編制スルコトヲ得但シ其ノ教授時間ヲ正

教科ノ教授時間内ニ定メタルトキハ此ノ限ニアラス

第五十條 補習科ノ教場ハ正教科ヲ授クル校舍外ニ之ヲ設クルコトヲ得

第五十一條 補習科ノ教授ハ正教科ヲ教授スル教員又ハ代用教員ニ於テ之ヲ擔任スヘシ

補習科ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間内ニ定メタルトキハ前項ノ規定ヲ適用セス

特別ノ事情アルトキハ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第五十二條 第四十三條第一項、第四十四條、第四十六條及第四十八條第一項ノ場合ニ於テハ府縣知事

ノ認可ヲ受クヘシ

第五節 圖書審査及採定



第五十三條 小學校圖書審查委員會ノ開閉ハ府縣知事之ヲ命ス

第五十四條 小學校圖書審查委員ハ職務上當然委員タル者ヲ除ク外小學校圖書審查委員會開會毎ニ府縣知事之ヲ命ス

第五十五條 小學校圖書審查委員會ニ會長ヲ置キ府縣書記官ヲ以テ之ニ充ツ  
會長ハ會務ヲ整理シ審査ノ顛末ヲ府縣知事ニ報告ス

第五十六條 小學校圖書審查委員會ニ書記ヲ置クコトヲ得  
書記ハ府縣判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第五十七條 會長、委員及書記ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第五十八條 委員ハ自己又ハ親族ノ著作、校閱、出版ニ係ル圖書ノ審査ニ參與スルコトヲ得ス

第五十九條 小學校圖書審查委員會ハ其ノ地方ノ情況ニ適當ナル圖書ヲ選定スヘシ

小學校教科用圖書ハ學校ノ種類、男女ノ區別又ハ學校所在地ノ情況ニ依リ各別ニ之ヲ選定スルコトヲ得

第六十條 府縣知事ニ於テ小學校圖書審查委員會ノ選定シタル圖書ヲ採定シタルトキハ之ヲ使用セシメタルトキハ遲滞ナク文部大臣ニ報告スヘシ

第六十一條 府縣知事ニ於テ小學校令第二十五條ノ規定ニ依リ一部修正ノ圖書ニ採定ノ效力ヲ繼續セシメタルトキハ遲滞ナク文部大臣ニ報告スヘシ

第六十二條 府縣知事ニ於テ採定シタル小學校教科用圖書ノ定價増加シタルトキハ其ノ採定ハ效力ヲ失フ

第六十三條 小學校教科用圖書ハ採定後四箇年ヲ經ルニアラサレハ之ヲ更定スルコトヲ得ス

小學校教科用圖書ヲ更定シタル場合ニ於テハ其ノ圖書ハ最下學年ノ兒童ヨリ用ヒシメ其ノ他ノ兒童ニハ從來ノ教科用圖書ヲ襲用セシムヘシ

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二章 設備準則

第六十四條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ開豁乾燥ニシテ衛生ニ適シ且兒童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ選フヘシ

校地ハ道徳上嫌忌スヘキ場所、喧鬧ニシテ教授ニ妨アル場所及危險ナル場所ニ接近セサルコトヲ要ス

第六十五條 體操場ハ分テ屋外體操場及屋内體操場トス

屋外體操場ハ方形若ハ之ニ類スル形狀ニシテ其ノ面積ハ左ノ例ニ依ルヘシ

一 尋常小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百坪以上トシ兒童百人以上ハ一人ニ付一坪以上ノ割合トス

二 高等小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百五十坪以上トシ兒童百人以上ハ一人ニ付一坪半以上ノ割合トス

三 尋常高等小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百五十坪以上トシ兒童百人以上ハ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童一人ニ付一坪半以上、高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童一人ニ付一坪半以上ノ割合トス



但シ兒童百人以上ニシテ高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童百人未滿ナルトキハ百五十坪ノ外全校  
 兒童中百人ヲ超ユル兒童一人ニ付一坪以上ノ割合ヲ以テ増スモノトス  
 四 特別ノ事情アルトキハ第二號及第三號ノ規定中一坪半ヲ一坪マテニ減スルコトヲ得  
 屋内體操場ハ雨雪ニ堪フヘキ設備ヲ爲スコトヲ要ス  
 屋内體操場ハ土地ノ情況ニ依リ之ヲ設ケサルコトヲ得  
 第六十六條 校地内ニハ善良ナル飲料水ヲ供給スルノ備ヲ爲シ又下水渠ヲ設クヘシ  
 第六十七條 校舍ノ建築ハ授業上、管理上、衛生上ノ便ヲ圖リ質朴堅牢ナランコトヲ要ス  
 校舍ハ平屋造ト爲スヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ二階造ト爲スコトヲ得  
 第六十八條 校舍ニハ各學級ニ應スル通常教室並ニ教員室ヲ設クヘシ  
 前項ノ外唱歌、裁縫等ヲ課スル學校ニ於テハ便宜特別教室ヲ設ケ又必要ナル場合ニ於テハ講堂、兒童  
 控所、宿直室、湯沸所、小使室、物置等ヲ設クヘシ  
 第六十九條 教室ノ構造ハ左ノ各項ニ準據スヘシ  
 多級小學校ノ教室ハ幅三間以上四間以下長四間以上五間以下、單級小學校ノ教室ハ幅及長各々四間  
 以上五間以下ヲ常例トシ其ノ大ハ兒童一人ニ付三尺平方ノ割合ヨリ小ナルコトヲ得ス  
 天井ハ牀面ヲ距ルコト九尺以上トスヘシ  
 牀ノ高ハ二尺以上トシ牀下ノ四方ニ風抜ヲ設クヘシ  
 採光窓ノ總面積ハ牀面積ノ六分ノ一以上トシ其ノ下縁ノ位置ハ牀上凡二尺五寸ニ定メ其ノ上縁ハ牀  
 上八尺五寸以上ニシテ成ルヘク天井ニ接近セシムヘシ但シ採光窓ノ上部ハ欄間ヲ以テ之ニ代フルコ  
 トヲ得

窓ハ兒童座席ノ前面ニ設クルコトヲ得ス  
 教室内ノ壁ハ灰色、淡黄色其ノ他ノ中性色ト爲スヘシ  
 土地ノ情況ニ依リ成ルヘク暖房ノ裝置ヲ爲シ又ハ暖房器ヲ備フヘシ  
 各教室ニハ通常二箇ノ出入口ヲ設クヘシ  
 第七十條 廊下ハ片廊下ヲ常例トシ其ノ幅ハ六尺以上タルヘシ  
 二階造ノ校舍ニハ二箇以上ノ階段ヲ設クルヲ常例トス  
 階段ハ幅四尺五寸以上蹴上ケ五寸乃至六寸踏面八寸乃至一尺トシ成ルヘク曲折構造ト爲シ中間ニ踊  
 場ヲ設ケ且手欄ヲ附スヘシ  
 第七十一條 昇降口ハ成ルヘク男女ヲ區別シ常風ノ方向ヲ避クヘシ  
 第七十二條 便所ハ別棟トシ夏季常風ノ方向ニ注意シ又井ヲ距ルコト四間以上ノ位置ニ之ヲ設クヘ  
 シ  
 糞壺、尿溝、注壁等ハ不滲透物ヲ以テ之ヲ造ルヘシ  
 便所ハ男女ヲ區別シ男兒百人ニ付大便所二以上小便所四以上、女兒百人ニ付五以上ノ割合ヲ以テ設  
 クルヲ常例トス  
 第七十三條 尋常小學校ニ於テハ教科用圖書、地圖、度量衡、黑板、机、腰掛、時計、寒暖計其ノ他必要ナ  
 ル器具、參考用圖書及小學校ニ關スル法令等ヲ備フヘシ  
 高等小學校ニ於テハ前項ノ外歴史、地理及理科ノ教授用具、體操器械、中學校、高等女學校及實業學校  
 ニ關スル法令等ヲ備フヘシ  
 第七十四條 兒童用机及腰掛ノ寸法ハ第八號表ノ標準ニ依リ兒童ノ身長ニ適應セシメンコトヲ要ス



第七十五條 土地ノ情況ニ依リ成ルヘク教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第七十六條 校舍ヲ新築、増築、改築シ若ハ市町村立高等小學校及私立小學校ノ校地ヲ選定シ又ハ變更セントスルトキハ市町村、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第七十七條 本章ノ規定中校舍ノ新築、改築、校具ノ新調等ニ際スルニアラサレハ適用シ難キモノハ其ノ時ヲ待テ之ニ依ルコトヲ得

第七十八條 土地ノ情況ニ依リ本章ノ規定ニ依リ難キトキハ府縣知事ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十九條 本章ノ規定ハ補習科ノ設備ニ關シ之ヲ適用セス

### 第三章 就學

第八十條 市町村長ハ其ノ市町村内ニ居住シ翌年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ヲ調査シ第九號表ノ様式ニ依リ毎年十二月末日マテニ其ノ學齡簿ヲ編製スヘシ

第八十一條 市町村長ハ學齡簿編製後三月三十一日マテニ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者アルトキハ遲滞ナク之ヲ學齡簿ニ記入スヘシ

市町村長ハ就學期間中ニ在ル兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者アルトキハ遲滞ナク其ノ兒童ノ就學ノ始期ニ達シタル年ノ學齡簿ニ記入スヘシ

市町村長ハ學齡簿ニ登載ノ兒童ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ遲滞ナク之ヲ抹消スヘシ

- 一 兒童死亡シタルトキ
- 二 兒童市町村外ニ轉住シタルトキ

三 兒童ノ居所一箇年以上分明ナラサルトキ

前二項ノ外學齡簿ニ記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滞ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第八十二條 市町村長ハ兒童ヲシテ市町村立尋常小學校ニ入學セシムヘキ期日ヲ豫メ其ノ保護者ニ通知スヘシ

市町村、町村學校組合又ハ區ノ使用ニ係ル尋常小學校二校以上アル場合ニ於テハ市町村長ハ前項ノ通知ヲ爲スニ當リ兒童ノ入學スヘキ尋常小學校ヲ指定スルコトヲ得但シ兒童ノ保護者ハ其ノ兒童ヲ入學セシメントスル尋常小學校ヲ選定シテ之ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得

第八十三條 市町村長ハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル兒童ノ氏名及入學期日ヲ關係學校長ニ通知スヘシ其ノ通知ヲ爲シタル後兒童ノ就學ニ關シ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第八十四條 就學スヘキ兒童又ハ其ノ保護者ニシテ小學校令第三十三條ニ掲グル事由アルトキハ其ノ保護者ハ就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ヲ市町村長ニ申立ツヘシ但シ貧窮ニ因ル場合ヲ除ク外醫師ノ證明書ヲ添フルコトヲ要ス

第八十五條 就學猶豫ノ期間ハ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニ在リテハ一箇年トシ既ニ就學ノ始期ニ達シタル兒童ニ在リテハ一箇年以下トス

第八十六條 市町村長ハ小學校令第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ノ教育ヲ監督スヘシ必要ト認メタルトキハ其ノ兒童ニ就キ試験ヲ行フコトヲ得

第八十七條 市町村長ハ前條ノ兒童ノ教育ヲ不適當ナリト認メタルトキハ小學校令第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ與ヘタル認可ヲ取消スヘシ

第八十八條 兒童ノ保護者ニ於テ其ノ兒童ヲ當然入學セシムヘキ學校以外ノ市町村立尋常小學校ニ入



學セシメ又ハ官立、府縣立學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスルトキハ其ノ學校ノ管理  
者又ハ學校長ノ承認書ヲ添ヘ關係市町村長ニ届出ツヘシ

第八十九條 市町村立尋常小學校長ハ第十號表ノ様式ニ依リ學年ノ始ニ於テ入學シタル兒童ノ學籍簿  
ヲ編製スヘシ

學籍簿ハ入學ノ兒童ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滞ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第九十條 市町村立尋常小學校長ハ在學兒童ノ出席簿ヲ作り其ノ出席缺席ヲ明ニスヘシ

第九十一條 市町村立尋常小學校長ハ第八十三條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタル兒童中入學期日後七日

以內ニ其ノ小學校ニ入學セサル者アルトキハ其ノ氏名ヲ關係市町村長ニ報告スヘシ

第九十二條 在學兒童ニシテ正當ノ事由ナク引續キ七日間缺席シタルトキハ關係學校長ハ遲滞ナク其  
ノ保護者ニ對シ兒童ヲシテ出席セシムヘキ旨ヲ通知シ仍引續キ七日以上出席セシメサルトキハ其ノ  
旨ヲ關係市町村長ニ報告スヘシ

第九十三條 市町村長ニ於テ前二條ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係兒童ノ保護者ニ對シ其ノ  
兒童就學又ハ出席ヲ督促スヘシ

前項ノ規定ニ依リ二回以上ノ督促ヲ爲スモ仍就學又ハ出席セシメサルトキハ市町村長ハ其ノ旨ヲ監  
督官廳ニ報告スヘシ

第九十四條 郡長又ハ府縣知事ニ於テ前條第二項ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係兒童ノ保護  
者ニ對シ其ノ兒童ノ就學又ハ出席ヲ督促スヘシ

第九十五條 市町村立尋常小學校長ハ每學年ノ終ニ卒業シタル兒童ノ氏名ヲ遲滞ナク關係市町村長ニ  
報告スヘシ

第九十六條

第八十八條ノ規定又ハ小學校令第二十六條第一項但書ノ規定ニ依リ當然入學スヘキ學校  
以外ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ニシテ其ノ教科ヲ卒リタルトキ又ハ其ノ教科ヲ卒ラスシ  
テ退學シ若ハ廢學シタルトキハ關係學校長又ハ兒童ノ保護者ハ其ノ旨ヲ關係市町村長ニ届出ツヘ  
シ

第九十七條 本章ニ於テ市町村立尋常小學校トアルハ代用私立尋常小學校ヲ包含ス

第四章 教員檢定及免許狀

第九十八條 小學校教員檢定委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

- 一 會長
- 一 常任委員
- 一 臨時委員

第九十九條 會長ハ府縣視學官ヲ以テ之ニ充ツ

常任委員及臨時委員ハ府縣知事之ヲ命ス

臨時委員ハ試驗施行ノ際之ヲ命ス

第一百條 會長ハ會務ヲ整理シ檢定ノ成績ヲ府縣知事ニ報告ス

常任委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ教員檢定ニ關スル事ヲ掌ル

臨時委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ試驗檢定ニ關スル事ヲ掌ル

小學校令施行規則



書記ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第百三條 會長、常任委員、臨時委員及書記ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第百四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員ノ檢定ヲ受クルコトヲ得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復権シタル者ハ此ノ限ニアラス

二 信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタル者

三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復権セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

四 免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ三箇年ヲ經過セサル者

第百五條 教員ノ檢定ハ分テ無試験檢定及試験檢定トス

第百六條 試験檢定ハ毎年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試験檢定ハ隨時之ヲ行フ

第百七條 無試験檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ第百八條乃至第百十二條ノ規定ニ對照シテ之ヲ行フ

一 師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀ヲ有スル者

二 他ノ府縣ニ於テ授與シタル小學校教員免許狀ヲ有スル者

三 文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者

四 中學校又ハ明治三十二年文部省令第三十四號ニ依リ文部大臣ニ於テ中學校ト同等以上ト認めタル學校ヲ卒業シタル者

五 高等女學校ヲ卒業シタル者

六 其ノ他府縣知事ニ於テ特ニ適任ト認めタル者

第百八條

小學校本科正教員ノ試験科目及其ノ程度ハ男子ニ在リテハ師範學校男生徒、女子ニ在リテハ師範學校女生徒ニ課スル學科程度ニ準ス但シ圖畫、音樂、手工、農業、商業、英語ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ闕キ女子ノ爲ニハ尙體操ヲ闕クコトヲ得

本條ニ小學校本科正教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ本科正教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第百九條

小學校准教員ノ試験科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ裁縫ハ女子ニ限ル

修身 道德ノ要旨

教育 教授法ノ大要

國語 普通文及小學校教科用讀本ノ講讀並ニ作文、習字

算術 整數、分數及小數ノ加減乘除、比例、百分算

歴史 日本歴史ノ大要

地理 日本地理及外國地理ノ大要

理科 博物、物理、化學ノ大要

圖畫 自在畫及簡易ナル幾何畫

唱歌 單音唱歌

體操 普通體操及兵式體操ノ初歩

裁縫 通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方

圖畫、唱歌ノ一科目若ハ二科目ハ之ヲ闕キ女子ノ爲ニハ尙體操ヲ闕クコトヲ得

本條ニ小學校准教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ准教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

小學校令施行規則

下卷(追加)三七



第一百十條 小學校專科正教員ノ試験科目ハ圖畫、音樂、體操、裁縫、手工、農業、商業、英語ノ一科目若ハ數科目トス其ノ程度ハ師範學校生徒ニ課スル各科目ノ程度ニ準ス  
 前項ニ規定シタル科目ノ試験ハ科驗科目ノ教授法ヲ附帶シテ之ヲ行フ  
 小學校專科正教員ノ試験ハ小學校教員檢定委員會ニ於テ修身、國語、算術ニ關シ普通ノ學力ヲ有スト認メタル者ニアラサレハ之ヲ行ハス  
 本條ニ小學校專科正教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ專科正教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第一百十一條 尋常小學校本科正教員ノ試験科目及其ノ程度ハ師範學校簡易科ノ學科程度ニ準ス但シ漢文、圖畫、音樂ノ一科目若ハ數科目ヲ闕キ數學ハ算術、歴史ハ日本歴史ニ限ルコトヲ得又女子ノ爲ニハ尙體操ヲ闕クコトヲ得  
 女子ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルコトヲ得其ノ程度ハ通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方トス

第一百十二條 尋常小學校准教員ノ試験科目及其ノ程度ハ左ノ如シ  
 修身 道德ノ要旨  
 教育 教授法ノ大要

國語 小學校教科用讀本ノ講讀並ニ作文、習字  
 算術 整數、分數及小數ノ加減乘除、單比例  
 歴史、地理 日本歴史及日本地理ノ大要  
 理科 博物、物理、化學ノ初步  
 圖畫 簡易ナル自在畫

唱歌 單音唱歌  
 體操 普通體操

理科、圖畫、唱歌ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ闕キ女子ノ爲ニハ尙體操ヲ闕クコトヲ得  
 第一百十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ試験檢定ヲ行フトキハ小學校教員檢定委員會ニ於テ第百八條乃至第百十二條ノ規定ニ對照シテ某科目ニ關シ同等以上ノ學力アリト認メタル者ニ對シテハ其ノ科目ノ試験ヲ闕クコトヲ得

- 一 師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀ヲ有スル者
- 二 他ノ府縣ニ於テ授與シタル小學校教員免許狀ヲ有スル者
- 三 文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者
- 四 小學校教員免許狀又ハ小學校師範學科卒業證書ヲ有シ其ノ有効期間滿チタル者
- 五 小學校教員講習科ヲ卒リタル者
- 六 中學校又ハ明治三十二年文部省令第三十四號ニ依リ文部大臣ニ於テ中學校ト同等以上ト認メタル學校ヲ卒業シタル者
- 七 高等女學校ヲ卒業シタル者

第一百十四條 試験檢定ヲ受ケタル者ニシテ其ノ試験ニ合格セサルモ某科目ニ關シ成績佳良ナルトキハ府縣知事ハ其ノ科目ノ成績ニ關シ證明書ヲ授與スルコトヲ得  
 前項ノ證明書ヲ受ケタル者ニシテ三箇年以内ニ更ニ試験檢定ヲ出願スルトキハ其ノ證明書ニ記載シタル科目ノ試験ヲ闕ク  
 第一百十五條 府縣知事ハ檢定手数料ヲ徵收スルコトヲ得



第二節 教員ノ免許狀

第一百十六條 府縣知事又ハ文部省直轄學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ普通免許狀ノ授與ヲ文部大臣ニ申請スルコトヲ得

- 一 小學校正教員府縣免許狀ヲ有シ十箇年以上市町村立小學校正教員ノ職ニ在リ成績佳良ナル者
- 二 高等師範學校又ハ女子高等師範學校ヲ卒業シ三箇年以上市町村立小學校正教員ノ職ニ在ル者
- 三 文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シ三箇年以上市町村立小學校正教員ノ職ニ在ル者

第一百十七條 師範學校長ハ師範學校ヲ卒業シタル者ニ對シ小學校教員府縣免許狀ノ授與ヲ府縣知事ニ申請スヘシ

第一百十八條 府縣知事ニ於テ第七條第六號ニ該當スル者ニ小學校正教員免許狀ヲ授與センスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第一百十九條 府縣知事ハ小學校教員免許狀登錄簿ヲ作り免許狀ヲ授與シタル者ノ氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記入スヘシ

第二十條 普通免許狀又ハ府縣免許狀ヲ有スル者其ノ氏名ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ書換若ハ再渡ヲ文部大臣又ハ府縣知事ニ出願スルコトヲ得  
前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手数料トシテ普通免許狀ニ就キテハ金壹圓府縣免許狀ニ就キテハ府縣知事ノ定メタル金額ヲ納ムヘシ

普通免許狀ノ書換若ハ再渡ニ關スル手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第二十條 普通免許狀又ハ府縣免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名及免許狀ノ種類ハ文部大臣又ハ府縣知

事之ヲ公告ス

第五章 職員

第一節 學校長及教員ノ進退

第一百二十二條 市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ府縣知事ハ之ニ休職ヲ命スルコトヲ得

- 一 傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルニ因リ職務ヲ行フニ妨アルトキ
- 二 學校編制ノ變更又ハ訴願ノ裁決ニ因リ過員ヲ生シタルトキ
- 三 教員養成ヲ目的トスル官立、府縣立學校ニ入學スルトキ
- 四 刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ

第一百二十三條 市町村立小學校正教員ニシテ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタル者ハ當然休職者トス但シ陸軍六週間現役ニ服スル者ハ此ノ限ニアラス

第一百二十四條 休職ノ期間ハ第一百二十二條第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ一箇年トシ同條第四號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ裁判所ニ繫屬中トシ同條第三號及第一百二十三條ノ場合ニ在リテハ其ノ事

故止ミタル後尙三箇月トス  
第一百二十五條 休職者ハ職務ニ從事セサル外總テ在職者ト異ナルコトナシ但シ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニアラス

第一百二十六條 市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ府縣知事ハ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

- 一 不具、癡疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

小學校令施行規則



二 傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ退職ヲ出願シタルトキ

三 退職者復職シタル爲其ノ代員ヲ要セサルトキ

第二百二十七條 第二百二十二條又ハ第二百二十六條ノ事由ニ因ラスシテ退職又ハ退職ヲ命スル必要アリト認メタルトキハ府縣知事ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ退職ノ場合ニ於テハ豫メ期間ヲ定メテ具申スルコトヲ要ス

第二百二十八條 市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然退職者トス

一 當該學校ノ廢セラレタルトキ

二 休職期間滿チタルトキ

第二百二十九條 市町村立小學校教員ニシテ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ又ハ其ノ免許狀ニシテ效力ヲ失ヒタルトキハ當然其ノ職ヲ失フ

第二百三十條 市町村立小學校准教員ノ進退ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第二百三十一條 第二百二十二條第一號、第二百二十六條第一號及第二號前段ノ事由ニ因リ處分セントスルトキハ府縣知事ハ其ノ府縣恩給顧問醫ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス

第二百三十二條 私立小學校長教員ノ採用解職ハ設立者ニ於テ遲滯ナク府縣知事ニ届出ツヘシ

第二節 學校長及教員ノ職務及服務

第二百三十三條 學校長及教員ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ヲ奉體シ法律命令ニ從ヒ誠實ニ其ノ職務ニ服スヘシ

第二百三十四條 學校長ハ校務ヲ整理シ所屬職員ヲ統督ス

第二百三十五條 正教員ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ且之ニ屬スル事務ヲ掌ル

第二百三十六條 准教員ハ本科正教員ノ職務ヲ助ク

第二百三十七條 市町村立小學校長及教員ハ當該學校所在ノ市町村ニ居住スヘシ但シ監督官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

學校長及教員ハ擅ニ其ノ職務ヲ離レ又ハ職務上居住スヘキ地ヲ離ル、コトヲ得ス

第二百三十八條 學校長及教員ハ營利ヲ目的トスル會社ノ業務執行社員、取締役、監査役ト爲リ又ハ給料ヲ受ケテ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス但シ府縣知事ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

學校長及教員ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルニアラサレハ營利ヲ目的トスル業務ヲ爲スコトヲ得ス

第三節 懲戒處分、業務停止及免許狀褫奪

第二百三十九條 市町村立小學校長及教員ニ對シ懲戒處分ヲ行ハントスルトキハ府縣知事ハ期間ヲ定メテ本人ヨリ手續書ヲ徵スルコトヲ要ス但シ之ヲ徵スルコト能ハサル事由アルトキハ此ノ限ニアラス

第二百四十條 懲戒處分ヲ行フヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ關シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得ス

第二百四十一條 市町村立小學校長及教員ニ對シ懲戒處分ヲ行フトキハ府縣知事ハ本人ニ處分書ヲ交付スヘシ

第二百四十二條 市町村立小學校長及教員ノ減俸ハ一箇月以上一箇年以下減俸ノ處分ヲ受ケタル當時ノ俸給月額ノ三分ノ一以下ヲ減給ス

第二百四十三條 市町村立小學校教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ二箇年ヲ經ルニアラサレハ教員ノ職ニ就クコトヲ得ス



第四百四十四條 第三百二十九條乃至第四百一十一條ノ規定ハ業務停止及免許狀褫奪ノ處分ニ關シ之ヲ準用ス

第四百四十五條 私立小學校長及教員ノ業務停止ハ一箇月以上二箇年以下トス

第四百四十六條 府縣知事ニ於テ學校長又ハ教員ニ對シ免許、業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ行ヒタルトキハ其ノ氏名職名及事由ヲ具シ文部大臣ニ報告スヘシ

第四百四十七條 府縣知事ハ免職又ハ業務停止ノ處分ヲ受ケタル學校長及教員ニシテ改悛ノ實顯著ナリト認メタル者ニハ第四百十三條ノ期間内又ハ業務停止ノ期間内ト雖モ文部大臣ノ認可ヲ受ケ教員ノ職ニ就クコトヲ得シメ又ハ業務停止ヲ解除コトヲ得

第四節 俸給、旅費及諸給與準則

第四百四十八條 教員ノ月俸額ハ左表ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ土地ノ情況ニ依リ本科正教員及准教員ノ俸給額ハ明治三十年勅令第二號第六條ノ金額マテニ減スルコトヲ得

職名	本科正教員		專科正教員		准教員
	一級	二級	一級	二級	
本科正教員	上	七十五圓	六十四圓	五十四圓	准教員
	下	六十五圓	五十五圓	四十五圓	
專科正教員	上	四十四圓	三十四圓	二十四圓	准教員
	下	三十五圓	二十七圓	二十圓	
准教員	上	三十四圓	二十四圓	十四圓	准教員
	下	二十四圓	十四圓	四圓	

第四百四十九條 本科正教員ニシテ一級上俸ヲ受ケテニ功勞アル者ニハ漸次百圓マテ増スコトヲ得

第四百五十條 專科正教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應シ等級相當ノ俸給額ヲ減スルコトヲ得

第四百五十一條 專科正教員ニシテ他ノ小學校ノ專科正教員ヲ兼スル者ニハ關係學教ノ經費ヨリ其ノ俸給ヲ分割シテ給スルコトヲ得

第四百五十二條 教員ノ俸給ハ其ノ意ニ反シテ之ヲ減スルコトヲ得ス

第四百五十三條 休職者ニハ俸給ヲ給セス但シ府縣知事ニ於テ市町村、町村學校組合又ハ區ノ同意ヲ得タルトキハ其ノ一部若ハ全部ヲ給スルコトヲ得

第四百五十四條 教員ニシテ在職ノ儘小學校教員講習科ニ入學スル者ニハ前條ノ規定ヲ準用ス

第四百五十五條 教員ニシテ陸軍給與令又ハ海軍軍人俸給令ニ依リ俸給ヲ受クル者ニハ其ノ間俸給ヲ給セス但シ其ノ額本職ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得

第四百五十六條 教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ給スヘシ

一 懲戒ニ因リ免職ニ處セラレタルトキ

二 免許狀褫奪又ハ免許狀ノ失效ニ因リ教員ノ職ヲ失ヒタルトキ

第四百五十七條 教員死亡シタルトキハ其ノ在職中ト休職中トニ拘ラス在職最終ノ俸給月額三箇月分ヲ其ノ遺族ニ給スヘシ

第四百五十八條 正教員ノ旅費額ハ判任文官ノ例ニ準シ之ヲ定メ准教員ノ旅費額ハ地方ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ

第四百五十九條 教員ニシテ一週三十時ヲ超エ教授ヲ擔任スル者ニハ手當ヲ給スヘシ

第四百六十條 學校長又ハ教員ニシテ特ニ勤勞アル者ニハ慰勞金ヲ給スルコトヲ得



第六百六十一條 教員ニシテ宿直スル者ニハ賄料ヲ給スヘシ  
第六百六十二條 學校長又ハ教員ニシテ職務ノ爲傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ニハ療治料ヲ給スヘシ

第六百六十三條 教員ニハ土地ノ情況ニ依リ住宅料ヲ給スヘシ

第六百六十四條 第五百五十九條及第六十條ニ依リ給スル金額ハ府縣知事ニ於テ管理者ノ意見ヲ聞キテ之ヲ決定シ第六百六十一條乃至第六十三條ニ依リ給スル金額ハ管理者ニ於テ之ヲ決定スヘシ

第六百六十五條 本節ニ規定アルモノヲ除ク外俸給及旅費ノ支給方法ハ判任文官ノ例ニ準シ地方ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ

第六百六十六條 第四百四十八條ニ掲クル表ニ依リ難キ事情アルトキハ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六百六十七條 本節ニ學校長、教員トアルハ市町村立小學校ノ學校長、教員ヲ謂フ

第五節 代用教員

第六百六十八條 代用教員ノ進退ハ市立小學校ニ在リテハ市長、町村立小學校ニ在リテハ郡長之ヲ行フ  
第六百六十九條 市町村立小學校代用教員職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ懲戒處分ヲ行フヘシ其ノ處分ハ譴責、減俸及免職トス

懲戒處分ハ市立小學校ニ在リテハ市長、町村立小學校ニ在リテハ郡長之ヲ行フ

第七百七十條 代用教員ノ採用、解職及懲戒處分ハ郡市長又ハ設立者ニ於テ遲滯ナク府縣知事ニ報告スヘシ

第七百七十一條 小學校令第四十七條ノ規定竝ニ本令第五章第二節ノ規定中准教員ニ關スルモノハ代用

教員ニ準用ス

第七百七十二條 府縣知事ニ於テ代用教員ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ解職セシムルコトヲ得

第七百七十三條 市町村立小學校代用教員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第六章 授業料

第七百七十四條 尋常小學校ニ於テ授業料ヲ徵收セントスルトキハ市ニ在リテハ一箇月二十錢以下、町

村又ハ町村學校組合ニ在リテハ一箇月十錢以下ニ於テ其ノ金額ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第七百七十五條 高等小學校ニ於テ徵收スル授業料ハ市ニ在リテハ一箇月六十錢以下、町村又ハ町村學校組合ニ在リテハ一箇月三十錢以下ニ於テ其ノ金額ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第七百七十六條 特別ノ事情アル市町村又ハ町村學校組合ニ於テハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ期限ヲ定メテ

前二條ノ制限ヲ超エクル授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第七百七十七條 小學校補習科ノ授業料額ハ市町村又ハ町村學校組合ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第七百七十八條 小學校ニ於テハ學年ニ依リ授業料額ニ差等ヲ設クルコトヲ得

第七百七十九條 他ノ小學校設置負擔ノ區域ヨリ入學スル兒童ニ就キテハ第七十四條及第七十五條

ノ制限以內ニ於テ授業料額ヲ増スコトヲ得但シ兒童教育事務ヲ委託シタル市町村、町村學校組合又

ハ區ヨリ入學スル兒童ニ就キテハ此ノ限ニアラス

第八十條 貧窮ノ爲授業料ヲ納ムルコト能ハサル者ニ對シテハ管理者ハ授業料ノ全部又ハ一部ヲ免

除スヘシ

一家ノ兒童二人以上同時ニ小學校ニ就學スルトキハ管理者ハ授業料額ヲ減スルコトヲ得

第八十一條 本章ノ規定ハ私立小學校ニ關シ之ヲ適用セス

小學校令施行規則

下卷(追加)四七



第七章 學務委員

第八十二條 市町村、町村學校組合並ニ區ノ學務委員ハ十人以下トス但シ東京市ニ在リテハ十五人マテニ増スコトヲ得

第八十三條 學務委員ハ左ニ掲クル事項ニ就キ市長、市參事會、町村長、町村學校組合長、區長並ニ其ノ代理者ヲ補助シ又ハ其ノ諮問ニ應ジテ意見ヲ陳述ス

一 就學督促ニ關スルコト  
二 家庭又ハ其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者ノ認可ニ關スルコト  
三 就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ニ關スルコト  
四 設備ニ關スルコト  
五 經費豫算ノ調製ニ關スルコト  
六 授業料ニ關スルコト  
七 學校基本財産ニ關スルコト  
八 教科目ノ加除ニ關スルコト  
九 修業年限ニ關スルコト  
十 補習科ノ設置廢止ニ關スルコト  
十一 私立尋常小學校代用ニ關スルコト

第八十四條 公民中ヨリ選舉セラレタル學務委員ノ任期ハ四箇年トス  
補闕選舉ニ依リ就任シタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第八十五條 學務委員ニシテ資格ノ要件ヲ失ヒタル者ハ當然其ノ職ヲ失フ

第八章 代用私立小學校

第八十六條 市ハ其ノ區域内ニ在ル私立尋常小學校ヲ以テ市立尋常小學校ニ代用セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

町村又ハ町村學校組合ハ其ノ區域内ニ在ル私立尋常小學校ヲ以テ町村立尋常小學校ニ代用セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

第八十七條 前條ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ市町村又ハ町村學校組合ハ左ノ事項ニ就キ私立小學校設立者ト協議ヲ遂ケ監督官廳ニ具申スヘシ

一 代用ノ期間  
二 入學ヲ許スヘキ兒童ノ定員  
三 授業料ヲ徵收セントスルトキハ其ノ金額  
四 補助金ヲ給スルトキハ其ノ金額  
五 其ノ他必要ノ事項

前條ノ認可ヲ受ケタル後協議ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事項ニ就キ更ニ認可ヲ受クヘシ

第八十八條 代用ノ期間ハ四箇年ヲ超過スルコトヲ得ス但シ監督官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ更新スルコトヲ得

第八十九條 私立尋常小學校ニシテ教授上、管理上、衛生上適當ナル設備ヲ具ヘ成績佳良ナルモノニアラサレハ之ヲ代用私立小學校ト爲スコトヲ得ス

第九十條 左ノ場合ニ於テハ代用私立小學校設立者ハ市町村又ハ町村學校組合ノ承認ヲ受ルコトヲ要ス



- 一 高等小學校ノ教科ヲ併置シ若ハ之ヲ廢止セントスルトキ
  - 二 補習科ヲ設置シ若ハ之ヲ廢止セントスルトキ
  - 三 補習科ノ兒童ヲ正教科ノ兒童ト合シテ學級ヲ編制セントスルトキ
  - 四 多級ノ編制ヲ單級ノ編制ニ改メントスルトキ
  - 五 半日小學校ニ編制セントスルトキ
  - 六 學校ノ位置ヲ變更セントスルトキ
- 第百九十一條 左ノ場合ニ於テハ代用私立小學校設立者ハ市町村長又ハ町村學校組合長ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 尋常小學校ノ教科目ヲ加除シ又ハ隨意科目ト爲サントスルトキ
- 二 學校長、教員又ハ代用教員ヲ採用若ハ解職セントスルトキ

第百九十二條 小學校令第五十七條ノ規定竝ニ本令第百七十四條、第百七十六條、第百七十八條乃至第百八十條ノ規定ハ代用私立小學校ニ關シ之ヲ準用ス

第百九十三條 監督官廳ハ私立小學校ノ代用ヲ以テ不利ナリト認メタルトキハ其ノ代用ノ認可ヲ取消スヘシ

第百九十四條 私立小學校ノ代用ヲ止メントスルトキハ市町村又ハ町村學校組合ハ代用私立小學校設立者ト協議ノ上三十日以前ニ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第九章 幼稚園及小學校ニ類スル各種學校

第百九十五條 幼稚園ハ滿三歳ヨリ尋常小學校ニ入學スルマテノ幼兒ヲ保育スルヲ以テ目的トス

第百九十六條 幼兒ヲ保育スルニハ其ノ心身ヲシテ健全ニ發達セシメ善良ナル習慣ヲ得シメ以テ家庭

教育ヲ補ハントコトヲ要ス

幼兒ノ保育ハ其ノ心身發達ノ程度ニ副ハシムヘク其ノ會得シ難キ事項ヲ授ケ又ハ過度ノ業ヲ爲サシムルコトヲ得ス

常ニ幼兒ノ心情及行儀ニ注意シテ之ヲ正シクセシメ又常ニ善良ナル事例ヲ示シテ之ニ倣ハシメンコトヲ務ムヘシ

第百九十七條 幼兒保育ノ項目ハ遊戲、唱歌、談話及手技トス

第百九十八條 遊戲ハ分テ隨意遊戲及共同遊戲トス  
隨意遊戲ハ幼兒ヲシテ各自ニ運動セシメ共同遊戲ハ歌曲ニ合ヘル諸種ノ運動等ヲ爲サシメ心情ヲ快活ニシ身體ヲ健全ナラシメンコトヲ要ス

第百九十九條 唱歌ハ平易ナル歌曲ヲ唱ハシメ聽器、發聲器及呼吸器ヲ練習シテ其ノ發音ヲ助ケ心情ヲ快活純美ナラシメ兼テ徳性ノ涵養ニ資セシメンコトヲ要ス

第二百條 談話ハ有益ニシテ興味アル事實及寓言、通常ノ天然物及加工品等ニ就キテ之ヲ爲シ徳性ヲ涵養シ觀察注意ノ力ヲ養ヒ兼テ發音ヲ正シクシ言語ヲ練習セシメンコトヲ要ス

第二百一條 手技ハ幼稚園恩物ヲ用ヒテ手及眼ヲ練習シ心意ノ發育ニ資セシメンコトヲ要ス

第二百二條 保育ノ時數ハ一日五時以下トス  
前項ノ時數ニハ食事時間ヲ包含ス

第二百三條 幼稚園ニ園長ヲ置クコトヲ得

第二百四條 幼稚園ニ於テ幼兒ヲ保育スル者ヲ保姆トス  
保姆ハ女子ニシテ尋常小學校本科正教員又ハ准教員タルヘキ資格ヲ有スル者又ハ府縣知事ノ免許ヲ

小學校令施行規則

下條(追加)五一



得タル者タルヘシ

第二百五條 幼稚園長及保母ノ採用、解職ハ市町村立幼稚園ニ在リテハ府縣知事之ヲ行ヒ私立幼稚園ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ニ届出ツヘシ

第二百六條 幼稚園ノ幼兒數ハ百人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ百五十人マテニ増スコトヲ得

第二百七條 保母一人ノ保育スル幼兒數ハ四十人以下トス

第二百八條 幼稚園ノ設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ルヘシ  
一 建物ハ平家造トシ保育室、遊戯室其ノ他必要ナル諸室ヲ備フヘシ

二 保育室ノ大ハ幼兒五人ニ付一坪ヨリ小ナルコトヲ得ス  
三 遊園ハ幼兒一人ニ付一坪ノ割合ヲ以テ設ケルヲ常例トス

四 恩物、繪畫、遊戯道具、樂器、黑板、机、腰掛、時計、寒暖計、暖房器其ノ他必要ナル器具ヲ備フヘシ

五 敷地、飲料水及採光窓ニ關シテハ小學校ノ例ニ依ルヘシ

第二百九條 盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ニハ學校長ヲ置クコトヲ得

第二百十條 盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校教員ハ小學校教員タルヘキ資格ヲ有スル者又ハ府縣知事ノ免許ヲ得タル者タルヘシ

第二百十一條 盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ學校長及教員ノ採用、解職ニ關シテハ第二百五條ノ規定ヲ準用ス

第十章 附則

第二百十二條 本令ハ明治三十三年九月一日ヨリ施行ス但シ第一章中第一節乃至第四節、第五章中第

四節及第五節、第六章、第八章ノ規定ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第二百十三條 小學校ニ於テ第三十五條ノ規定ニ依リ難キ事情アルトキハ明治三十四年四月一日ヨリ五箇年間ハ三學級毎ニ本科正教員一人及准教員二人ヲ置クコトヲ得

既設小學校ノ編制ニシテ第三十五條ヲ除ク外第一章第三節ノ規定ニ抵觸スル場合ニ於テ特別ノ事情アルトキハ市町村、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ期間ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受ケ同節ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二百十四條 既設ノ補習科ニ於テ第一章第四節ノ規定施行ノ際現ニ其ノ教科ヲ學習スル兒童ニ就キテハ其ノ兒童ノ修了スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第二百十五條 本令施行前府縣知事ニ於テ探定シタル小學校教科用圖書ハ本令施行後仍其ノ效力ヲ有ス

第六十條ノ規定ニ依リ學年開始前公布ヲ爲スヘキ期間ハ本令施行ノ日ヨリ明治三十四年三月三十一日マテハ六十日トス

第二百十六條 本令施行前府縣知事ニ於テ定メタル規程ニ依リ編製シタル學齡簿及學籍簿ハ第三章ノ規程ニ依リ編製シタルモノト看做ス

第二百十七條 本令施行前ニ授與シタル小學校教員免許狀及之ト同一ノ效力ヲ有スル小學師範學科卒業證書ハ本令ノ規定ニ依ル小學校教員免許狀中之ニ相當スルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第二百十八條 本令施行前從前ノ規程ニ依リ休職ヲ命セラレタル教員ノ休職期間ハ仍從前ノ例ニ依ル

第二百十九條 市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關シテハ本令施行ノ日ヨリ明治三十四年三月三十一日マテハ府縣知事ニ於テ定メタル從前ノ規程ニ依ル

小學校令施行規則



第二百二十條 本令施行ノ際現ニ學務委員ノ職ニ在ル者ニシテ公民中ヨリ選舉セラレ任期アル者ハ任期ノ満了マテ其ノ職ヲ失フコトナシ其ノ任期ナキ者ハ本令施行ノ日ヨリ第百八十四條第一項ノ任期ヲ起算ス

本令施行ノ際現ニ學務委員ノ職ニ在ル者ノ數第百八十二條ニ規定シタル制限ニ超過スルトキハ抽籤ニ依リテ退職者ヲ定ムヘシ

第二百二十一條 第八章ノ規定施行ノ際現ニ代用中ノ私立學校ノ代用ニ關シテハ協議ニ依リ定メタル期間ノ満了マテ仍從前ノ例ニ依ル

第二百二十二條 既設幼稚園ニシテ第百六條及第百八條ノ規定ニ依リ難キトキハ期間ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受ケ之ニ依ラサルコトヲ得

第二百二十三條 明治二十四年文部省令第九號、同第十四號、同第十六號、同第十八號乃至同第二十三號、明治二十六年文部省令第二號、同第三號、明治二十七年文部省令第一號、同第九號、明治二十九年文部省令第十號、同第十一號、明治三十二年文部省令第三十號、同第三十二號、同第三十七號ハ之ヲ廢止ス

明治二十七年文部省令第二十六號中補習科ニ關スル規定、明治二十四年文部省令第一號、同第四號、同第八號、同第十號乃至同第十三號、明治二十五年文部省令第七號、明治二十六年文部省令第九號、明治三十年文部省令第二號ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ廢止ス  
(附屬表ハ畧ス)

明治三十三年八月三十一日印刷

明治三十三年九月 六 日發行

### 内務省總務局文書課

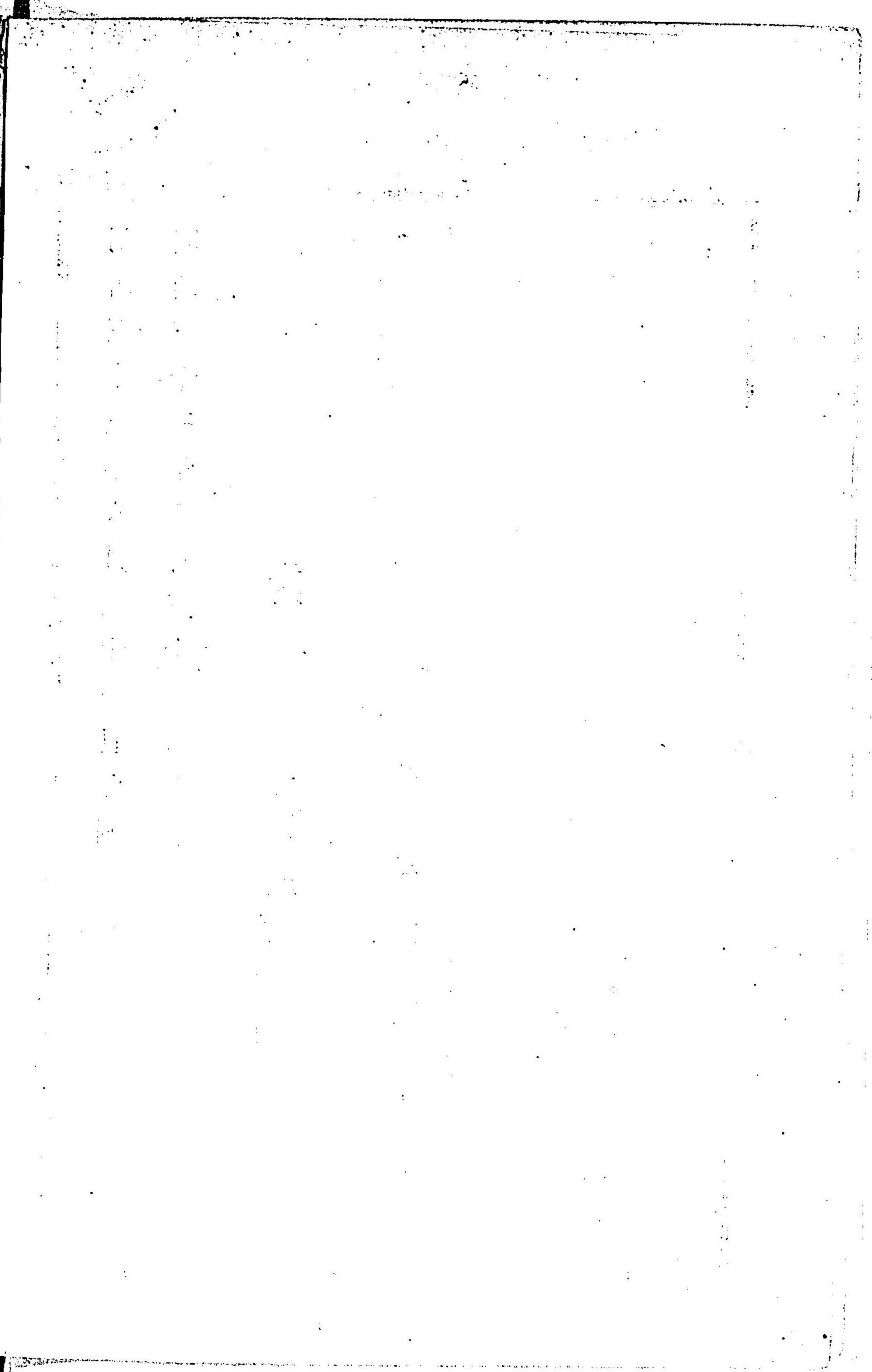
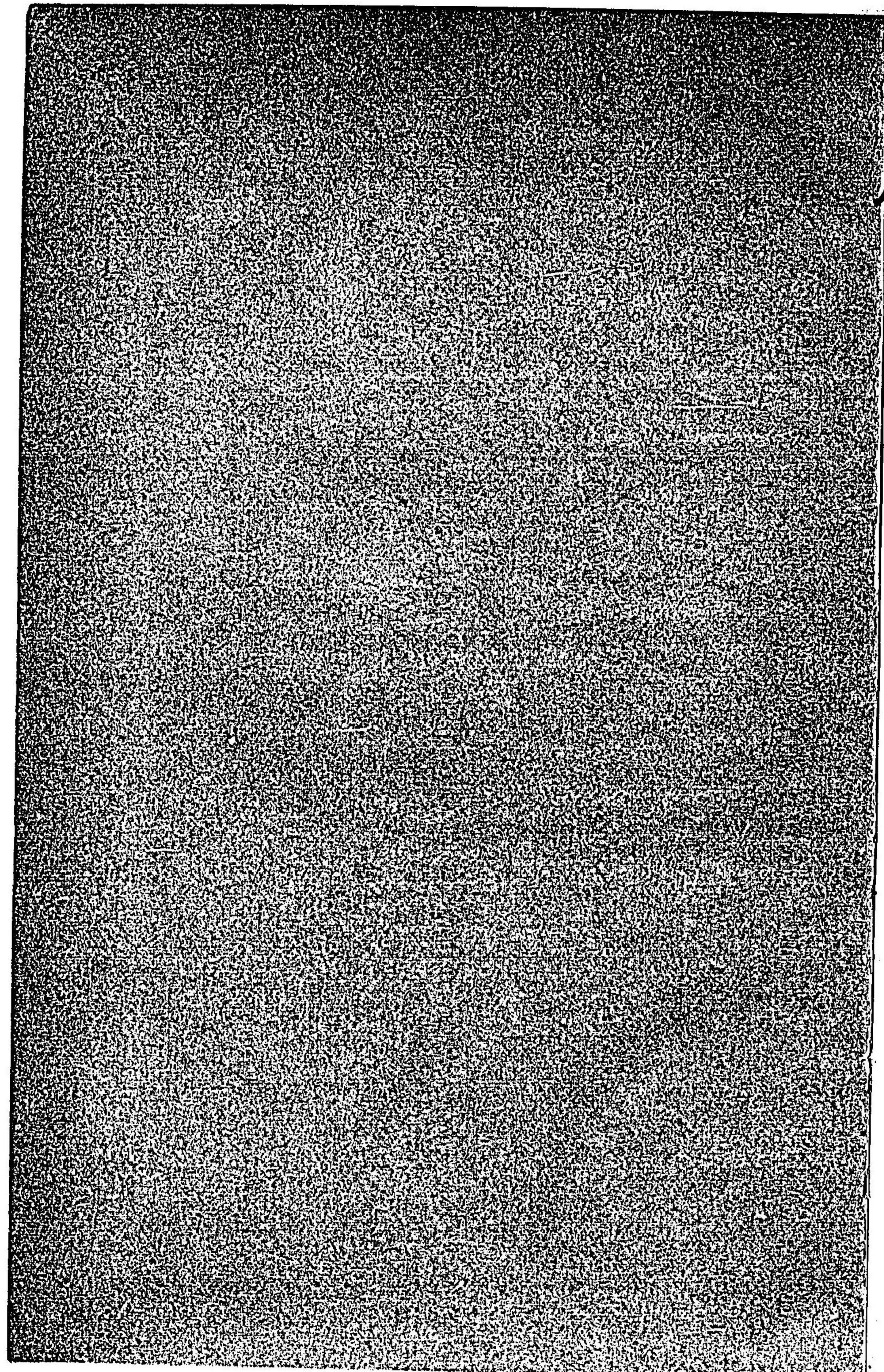
印刷者 野村 宗 十 郎

東京市京橋區築地三丁目十五番地

印刷所 株式會社 東京築地活版製造所

東京市京橋區築地二丁目十七番地

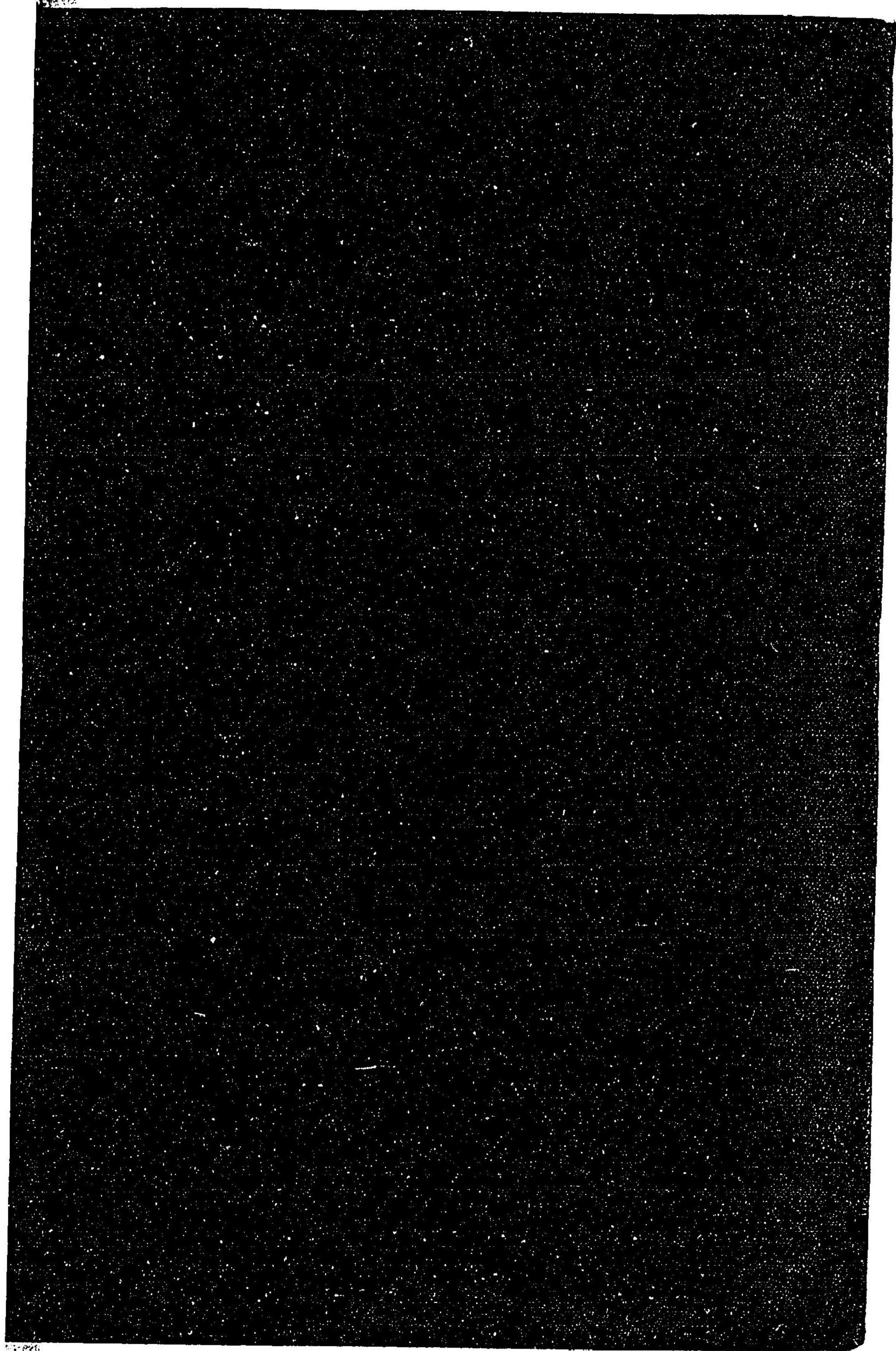






87
3
19-







14  
7  
24

禁電子式複写



